

終了時評価調査主要面談者リスト

氏名	面談場所	日時
Cel PM Ailton Araújo Brandão (州軍警察大佐)	CPC	2007年11月27日
Ten Cel PM Luiz de Castro Júnior (州軍警察中佐)	CPC	2007年11月28日
Maj PM Jackson Justus (州軍警察少佐)	CPC	2007年11月28日
Cap Fem PM Soraya Correea Alvarez (州軍警察大尉)	CPC	2007年11月28日
Cap PM Robinson Cabral de Oliveira (州軍警察大尉)	CPC	2007年11月28日
Cap PM Alexandre Marcos de Oliveira (州軍警察大尉)	CPC	2007年11月28日
Ten PM Ricardo de Souza Barreto (州軍警察中尉)	CPC	2007年11月28日
Ten PM Emerson Massera Ribeiro (州軍警察中尉)	CPC	2007年11月28日
Sgt Wilson Jorge dos Santos Alves (州軍警察軍曹)	BCS ホタリー-サンパウロ市	2007年11月30日
Sgt PM Mauricio Brites Martins (州軍警察軍曹)	BCS ベレン-サンパウロ市	2007年12月5日
Sgt PM Moises Da Silva (州軍警察軍曹)	BCS カンポ・グランジ-サントス市	2007年11月30日
Sgt PM Jose Paulo Alves De Lima (州軍警察軍曹)	BCS グルメシンドー-サンパウロ市	2007年12月3日
Sra Claudia Chimoto	BCS カンポ・グランジ-サントス市	2007年11月30日
Sra Cristina Chimoto	BCS カンポ・グランジ-サントス市	2007年11月30日
Sr Nevio	BCS カンポ・グランジ-サントス市	2007年11月30日
Sd PM Tiago Felipe(州軍警察巡查)	BCS カンポ・グランジ-サントス市	2007年11月30日
Sr José Carlos Luiz	BCS ホタリー-サンパウロ市	2007年11月30日
Cb PM Julio Barbosa Quirino (州軍警察伍長)	BCS ホタリー-サンパウロ市	2007年11月30日
Sr Jorge Ueno	BCS カサ・ブランカ - スザノ市	2007年12月1日
Sr Antonio de Souza	BCS カサ・ブランカ - スザノ市	2007年12月1日
Sr Cláudio Nagassaki	BCS カサ・ブランカ - スザノ市	2007年12月1日
Sr Paulo Nagassaki	BCS カサ・ブランカ - スザノ市	2007年12月1日
Sr Natalino Kazuo Arake	BCS カサ・ブランカ - スザノ市	2007年12月1日
Sd Fem PM Carmelita Rocha (州軍警察巡查)	BCS カサ・ブランカ - スザノ市	2007年12月1日
Sr. Manoel Pitta	BCS ベレン - サンパウロ市	2007年12月5日

結果記入済み評価グリッド: ブラジル国地域警察活動プロジェクト終了時評価調査

評価項目	調査項目	実績	上位目標の達成度(見込み)	サンパウロ州全土において、住民に対する治安に関するサービスが強化される。	必要情報-データ	情報源	調査方法
評価項目	調査項目	実績	上位目標の達成度(見込み)	サンパウロ州全土において、住民に対する治安に関するサービスが強化される。	必要情報-データ	情報源	調査方法
評価項目	調査項目	実績	上位目標の達成度(見込み)	サンパウロ州全土において、住民に対する治安に関するサービスが強化される。	必要情報-データ	情報源	調査方法
評価項目	調査項目	実績	上位目標の達成度(見込み)	サンパウロ州全土において、住民に対する治安に関するサービスが強化される。	必要情報-データ	情報源	調査方法
評価項目	調査項目	実績	上位目標の達成度(見込み)	サンパウロ州全土において、住民に対する治安に関するサービスが強化される。	必要情報-データ	情報源	調査方法
評価項目	調査項目	実績	上位目標の達成度(見込み)	サンパウロ州全土において、住民に対する治安に関するサービスが強化される。	必要情報-データ	情報源	調査方法
評価項目	調査項目	実績	上位目標の達成度(見込み)	サンパウロ州全土において、住民に対する治安に関するサービスが強化される。	必要情報-データ	情報源	調査方法

評価項目	調査項目	必要な情報、データ	情報源	調査方法
アウトプット1 既存の交番制度における組織機能が強化、改善される。	<p>成果品リストによると、地域警察マニュアル(運用編)や地域警察マニュアル(街外用)が既に存在している(作成されている)。</p> <p>交番モニタリングのチェックリストは、中間評価時に提案されたものをもとに、既にブラジル側で独自に検討され修正したもの(その点からはよりSPの現状に沿ったものが存在しており、現物を確認した)。</p> <p>なお、中間評価時に提案された交番モニタリングチェックリストの項目は、日本人専門家とその日本の拠点から項目を絞り込んだ結果10項目に絞り込み(オリエンタルなものはSPの現状から多く多すぎる)と判断し、5段階評価はモニターする側が判断するものであるが、これについては現在教団での判断を行っている。</p> <p>交番勤務員の現任教養(In-service training)は、カリキュラム変更が決着済みである。また、士官学校の卒後教育のカリキュラム変更は、現在決着中となっている。</p> <p>若手(兵士=soldado)が卒業するとまず交番勤務に着任されるといふ方式はよさそうという。交番にたいする古い考え方を持っている世代を、柔軟な若手やアフレクスしていくことで、組織変革のペースを上げる。これが交番制度の在り方に貢献するとの考え方が基になっている。</p> <p>交番勤務員が使用する各種マニュアル(現物確認済み)が既に作成されているとともに、指導、管理層である士官レベルが参照する資料(交番活動を実施するための士官のよう)に行動する一歩か、簡易権限その他が完成されている。Notes de Instrucaoが作成され使用されている。</p> <p>士官学校のカリキュラムにも交番活動が取り込まれており、すでに交番活動を推進するManualが10分名目作成されている。士官であり、この内容の多くは本邦研修も受けている。国家保安高の警察が実施されている(保安高は予算を供与するのみで、内容ややり方などは各州に任せられている)プロトコルの実施に関しては、国家保安高の警察と州軍警以外の人員も含まれているが、これはSPがそのようなやり方を独自に行っているものであり、むしろ、SPの7名名のManualがブラジル全土(連邦政府国家保安高側)に影響を与えているということにもなる。</p>	<p>プロジェクト終了までに、交番勤務員向けの運用マニュアルが使用されるようになる(指標1)という状況が実現している事実を示すデータ・情報(運用マニュアル)があるかないかをまず確認し、運用マニュアルとして存在しない場合でも、各交番に存在する「マニュアル」的応重づけのものを見せせて頂く。</p>	<p>プロジェクト記録、専門家委員会、C/P、日本人専門家、交番専長、交番勤務員</p> <p>運用マニュアルはProcedimento Operacionalと呼ばれている。ただし交番勤務員には同名を伝えても理解しない可能性があり、実物を見せさせて質問する必要がある。</p>	<p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p>
アウトプット2 交番制度にかかわる警察官の能力が強化される。	<p>簡易アンケート内容を確認：相読件数は、少なくとも現状維持、過半数は増加の傾向にある。</p> <p>犯罪件数は届出件数が増加するに伴い増加することもあり、統計能力そのものの強化が数値に影響すること、相読件数の変化を見ることなどが適切。その観点から相読件数に限定してみると、各ハイロッド交番により相違はあるものの全体的には、安定した数値の推移(減少)傾向にある。</p> <p>サンパウロ市には80交番があるが、平均13人の配置がなされているので、合計で約1,040名(13人×80交番)の交番勤務員が存在する。この人たちの内、現在何人が研修を受けたのかを確認してもらっている。</p> <p>密着意味での交番活動に関する研修を受けた人数は、直接ハイロッド交番に勤務する人間を中心とする345名(後、546名に修正)。SPにはハイロッド20交番を含め55交番があるため、35交番を約300名近くがまた受けていないといふことになるが、2008年に順次研修を実施していく予定。また、地域警察活動に関する研修やセミナーへの参加も含まれる。州軍警の中の4万5千名が参加している。</p>	<p>ハイロッド文書に対する住民からの届出件数(相談を含む)が確実に増加する(指標2)ことを示すために届出件数の推移(少なくともプロジェクト開始時と現在の数値)</p> <p>プロジェクト終了時点で、サンパウロ市の交番勤務員全員が地域警察活動の研修に参加したこと(指標1)を示すデータ・情報</p> <ul style="list-style-type: none"> * 全研修者中の士官の割合がわかるように表示願う * 研修に参加した結果、能力が強化されたという事実を示すデータ・情報(研修に参加した事実のみでは活動指標に近いため)として、交番モニタリングデータや自己評価など。 	<p>プロジェクト記録、C/P、日本人専門家、交番専長、交番勤務員、全80ハイロッド交番対象の簡易アンケート調査結果</p> <p>犯罪統計及び届出件数とりの表(四半期毎)あり</p> <p>研修参加者リスト、交番専長、交番勤務員、C/P、日本人専門家、交番モニタリングデータ</p> <p>士官以下を対象とした普及員研修(国家保安局予算で実施)受講者のアンケートあり。</p> <p>石井専門家が実施した聞き取りアンケートもめり。</p>	<p>資料レビュー(住民対象のアンケート調査結果含む)、インタビュー、直接観察(視察)、アンケート</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p>
投入の実績	<p>カリキュラムの改定で、来年の士官学校カリキュラムでは1学年と2学年に地域警察を学ぶ内容が盛り込まれている。(士官学校の1学年は約150名)</p> <p>「地域警察の定義を確定する必要があるが、本邦研修に参加した者が中心となり、日本をまわったく同様にできないものの、日本のものをあそ手本にサンパウロに適合させたものを決定した。この定額に基づき、士官学校のカリキュラムに取り入れた。</p>	<p>プロジェクト終了時点で、地域警察活動に係る研修プログラムが正務の研修として開始されている(指標2)ことを示す事実、情報(もしあれば、正規といふ位置づけではないにしてもそのような研修が実際に実施されているか、あるいは、今後正務になっていく動きがあるかを示す事実)</p>	<p>プロジェクト記録、C/P、日本人専門家</p> <p>人材育成カリキュラムについては、士官対象力カリキュラムが決定中で、Soldado, Sargent対象カリキュラムは承認済みのこと。</p> <p>これらの文書は承認済みのこと。分量が多いため翻訳はできませんが、必要に応じて翻訳の内容を説明していただくように思っています。</p>	<p>資料レビュー、インタビュー</p>
	<p>必要となる人員</p> <p>SP軍警の負担ではないが法務省国家保安局と連携して、地域警察普及員研修(1,028人)を実施(これには、日本側からの投入はなし)。</p>	<p>プロジェクトに必要な人員</p> <p>* プロジェクト実施に必要な経費と資材</p>	<p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p>	<p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p>
	<p>トレイ付の十分なスペースの精査室、及び精査室が提供されている。</p> <p>長期専門家2名、短期専門家4名</p> <p>カウンターパート研修にて31名が本邦研修に参加している。なお、プロジェクトの予算ではないが、開始以前に個別特設研修にて10人が地域警察関連の本邦研修を受講している。</p> <p>供与機材としてパソコンやデジタルカメラなど、計2,997,481円(48,828,833レアル)の資機材が、8ハイロッド交番に対して供与された(2007年11月現在)これに加えて追加された12ハイロッド交番に対して、3,600,464円(58,411,161レアル)が備置研修員のフォローアップのための費用からプロジェクトの活動実施のために供与された。</p> <p>在外事業強化費として、2007年11月までに、計32,393,304円(525,524,081レアル)が、支出された。</p>	<p>プロジェクトに必要な人員</p> <p>* プロジェクト実施に必要な経費と資材</p> <p>* 日本人専門家精査室</p> <p>日本側</p> <p>* 専門家派遣</p> <p>* 研修員受入</p> <p>* 供与機材</p> <p>* 現地コスト負担</p>	<p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家</p>	<p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー</p>

評価項目	調査項目	必要な情報、データ	情報源	調査方法
実施プロセス	活動の進捗状況	POに指定されたすべての活動は終了した。	プロジェクト進捗状況	資料レビュー
	モニタリングの実施状況	四半期報告書提出する必要性もあり、常にPDMは継続して参画している。但し、具体的な活動を中心に見ている。その観点からはPOを中心に見ている。また、プロジェクトにも常にPDMのリポートが送られてきているが、指図に関してはあまり意識していないのではないかと推測されている。特に、通関ミーティングなどの定例会を持つわけではないが、必要に応じて即座に連携・対応するようにしている。頻度にするお日に回は打ち合わせている。 州軍警では、そのひとつに地域警察活動を含む7つの生産性(実績?)モニタリング指標をもっており、それらをもとにモニタリングを実施している。PDM上の指標は、日本側からの提案であったが、それを受けて十分に議論したので、勝手にどこからか決めたというものは無い。	モニタリング報告書 C/P、日本人専門家 モニタリング報告書、C/P、日本人専門家 石井専門家及び平塚専門家、太田専門家の報告書	資料レビュー、インタビュー
	専門委員会の活動状況	専門委員会はプロジェクト目標達成に大いに貢献したと考える。例えば、「交通設備基準」交通運用基準の基礎を専門委員会で作成した。専門委員会の設置に関してはPOとの存在を最終的に確認するが、プロジェクト終了後も継続してはならない理由はない。このように役割を果たした。専門委員会は現在、CPOのみであり、それではSP州全土にわたる普及に困難があり、今後はこのPO専門員団の経験を活かしDSP圏や地方警察にも広げようとしている。これは、新たな委員会の設置するよりも、既存のグループに役割を与えるというよりよい方法の最も活かし形であることが持続性を高めると考える。 専門委員会の成功の要因は、ジョセ、ホベルトやカストロなどのリーダーシップが大きいこと、個人的資質の問題とも言えるが、一方でこれらの優秀な個人は本邦研修で大きく動機づけられた点からすると、本邦研修の果たした役割は極めて大きい。 他国(インドネシアなど)の例と比べても、プロジェクトの探究心は大きいとその背景には、日系社会への信頼の存在、長期専門家として赴任している日本人専門家を通じて日本警察のプレゼンスというものがあつたといえる。なお、長期専門家(後期)が、専門委員会に出席していない理由は、前年度の長期専門家に期待されることは真なり、むしろ自ら自発性を発揮することが期待されることから、カウンターパート側でできることはそれぞれに主体的に行うことを求めているといえることである。助言が必要であれば助言はしている。 平均すると1ヶ月に1回の頻度となるが、必要があれば(例：マニラ作隊の際は20日間、国際セミナーの際は1週間)算的に集まって作業したこともあった。その成果は数多い。専門委員会メンバーへのグループインタビュー結果参照のこと。	モニタリング報告書、C/P、日本人専門家 石井専門家 モニタリング報告書、C/P、日本人専門家	資料レビュー、インタビュー
	専門家とカウンターパート間、関係機関間の関係	報告書は必ずポルトガル語に翻訳するが、その際に前回に指摘された問題点に対してどのように取り組んだか、また、その結果はどうなつたかという報告項目を設けるようにしている。これまで指摘された問題点に関しては、改善の変化が示されるなど対応しており、その意味でモニタリングがフィードバックされるシステムと言える。また、問題点の解決という観点からは、2日に一回の割合で行われる打ち合わせでもフィードバックされると言える。	C/P、日本人専門家 石井専門家による各種議事録・活動記録	インタビュー、直接観察(視察)
	指手車施設機関(サンパウロ州軍警察)のオーナーシップ	オーナーシップは極めて高い。ブランドガガン司令官という地位の人が現場(交番)に出でくるとはブラジル社会にあってはすごいことだ。司令官も過去の失敗という経験もあり、後戻りはできないという決意に立っている。従って、確実に成果が出るように進めている。 当プロジェクト実施にあたり、カウンターパート機関による予算や資機材の配置不足は観察されない。カウンターパートの資質は極めて高い。特に変化はない。	C/P、日本人専門家 サンパウロ州軍警察による各種議事録・活動記録	インタビュー、直接観察(視察)
	外部要因の変化	予算の手当て、もしくは交通勤務員・資機材の配置カウンターパートの適正度 もし、何らかの変化があれば、	C/P、日本人専門家 モニタリング報告書、C/P、日本人専門家 サンパウロ州軍警察幹部、C/P、日本人専門家	資料レビュー、インタビュー 資料レビュー、インタビュー インタビュー、直接観察(視察)

評価項目	調査項目	必要な情報、データ	情報源	調査方法
4. インパクト プロジェクト実施 の間接的・波及 的効果はある か？	4.1 サンパウロ州でのハ イロットサイト以外の地域 への影響度	上位目標達成見込みの根拠と同じ。	サンパウロ州政策の意思決定に直接関わる者の意 見 プロジェクト記録、州政府の意思決定に関わる 高官	資料レビュー、インタビュ ー
	4.2 予想しなかったプラス の影響	運搬では、すでに11州で交番及員の研修を行っている。 日系人社会に喜んで頂けた。日系人の交番研修を実施し、日系社会に広がることで、その後押しが住民全体の後押し(日系人社会が社会的信用を 持っていることもあり)となった。	ハイロットサイトのコミュニティー内外への波及効果 の事例、サンパウロ州軍警察、および他州(海外含 む)への影響など。地域警察に強い関心を持つ中 米各国を巻き込んだ国際セミナーの実施(プロジェク ト)	インタビュー 資料レビュー
	4.3 予想しなかったマイナ スの影響	特になし。	ハイロットサイトのコミュニティー内、関連機関(行政 機関、住民関連団体等も含む)での事例	インタビュー 資料レビュー
	4.4 外部条件による影響	外部条件に変化はなく、州のコミットメントは、ハトカー900台を新たに投入するなど、引き続き強いコミットメントが確認された。	上位目標到達へ影響を及ぼした外部条件(地域警察 活動)に関するサンパウロ州政府の強いコミットメ ントが維持・継続される(1はPDM上に明記)	インタビュー 資料レビュー
	4.5 波及効果	日本のテレビ局の取材が2回あった。2007年5月にNHKで、コンコルディア交番の開所式を含む内容が放映された。また、2008年1〜2月頃(これから)、 せきぐらともひらの地球放送道ラジナル編で、本プロジェクトが出る。日系人の交番研修が実施された。また、2008年1〜2月頃(これから)、 ハイロット交番と指定されていない交番であっても、ハイロット交番の内容を導入している交番もある。	ハイロットサイト外の住民や住民団体、行政区、行政 組織からの問い合わせ状況、広報状況	インタビュー、モニタリング報告書、新 聞などマスメディアでの報道実績

評価項目	調査項目	必要な情報、データ	情報源	調査方法
5. 自立発展性 プロジェクトの効果は今後も持続していくか？(プロジェクトの効果を見極めるための調査)	5.1 政策的支援の継続、組織運営能力 5.2 サンパウロ州重警の重警財源の確保の可能性	<p>連邦では、すでに11州で交番普及員の研修を行っている。</p> <p>連邦政府で07年から10年の予算として承認された、地域警察活動推進のための予算は35億円で、これは連邦政府予算でありサンパウロ州重警の予算ではない。</p> <p>連邦政府で07年から10年の予算として承認された、地域警察活動推進のための予算は35億円で、その内訳は交通運送経費2.9億、研修実施経費0.2億、交番普及員研修経費0.3億、地域住民に対するサンパウロ州重警の予算ではない。</p> <p>連邦政府で07年から10年の予算として承認された、地域警察活動推進のための予算は35億円で、その内訳は交通運送経費2.9億、研修実施経費0.2億、交番普及員研修経費0.3億、地域住民に対するサンパウロ州重警の予算ではない。</p> <p>連邦政府で07年から10年の予算として承認された、地域警察活動推進のための予算は35億円で、その内訳は交通運送経費2.9億、研修実施経費0.2億、交番普及員研修経費0.3億、地域住民に対するサンパウロ州重警の予算ではない。</p>	<p>地域警察強化にかかわる連邦政府政策及び予算、サンパウロ州およびサンパウロ州重警の政策、方針、C/P、日本人専門家</p> <p>サンパウロ州、州重警の政策、C/P、日本人専門家</p>	<p>資料レビュー、インタビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p>
5.3 移転した技術の定着と普及の仕組み	5.3 移転した技術の定着と普及の仕組み	<p>木田短期警察学校が提唱した以下の点について、何らかのアクションを起こしているかにかかっている。</p> <p>(1) 日本での研修を終了した者のうちSP1名講師としての活用 (2) 国家保安の立場で重警推進委員を育成することから十分な研修を受けること (3) プリカートル(地域警察推進委員を育成する指導者)という位置づけで、交番制度を現職している人材であること (4) 日本での研修を受けたブラジル人が行っていること (5) 本邦研修を受けたブラジル人が行っていること (6) 本邦研修を受けたブラジル人が行っていること (7) 本邦研修を受けたブラジル人が行っていること</p>	<p>C/P、日本人専門家、交番普及員、交番普及員、交番普及員、交番普及員</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家、交番普及員</p>	<p>インタビュー、資料レビュー</p> <p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p>
5.4 地域警察活動の定着と普及の仕組み	5.4 地域警察活動の定着と普及の仕組み	<p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p>	<p>モニタリング報告書、交番普及員、交番普及員、交番普及員、交番普及員</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家、交番普及員</p>	<p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p> <p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p>
5.5 地域警察活動の定着と普及の仕組み	5.5 地域警察活動の定着と普及の仕組み	<p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p>	<p>モニタリング報告書、交番普及員、交番普及員、交番普及員、交番普及員</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家、交番普及員</p>	<p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p> <p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p>
5.6 地域警察活動の定着と普及の仕組み	5.6 地域警察活動の定着と普及の仕組み	<p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p> <p>地域警察活動の定着と普及の仕組み</p>	<p>モニタリング報告書、交番普及員、交番普及員、交番普及員、交番普及員</p> <p>モニタリング報告書、C/P、日本人専門家、交番普及員</p>	<p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p> <p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p>

評価項目	調査項目	必要な情報、データ	情報源	調査方法
5.4 住民の受け入れ度 (住民参加型地域警察活動の度合い)	<p>交番との共同で実施する地域活動でほとんど必ず指摘される活動がフェアベアナーなど低所得者層が暮らす地域の貧困家庭の子どもたちを対象にした活動である。クリスマスプレゼントを贈呈したり、教習的要素を盛り込んだサッカー大会や子ども祭りなど、貧困層への配慮が存在している。</p> <p>日本と同様に交番連絡協議会というフォーマルな形が設置されているわけではないが、それぞれに住民から交番をボランティアとしてサポートしてくれる住民サポーターが存在している。地域の商店主であったり、交番のそばに住む住民であったり、また、交番以外の地域住民活動においてもボランティア活動などを行っている住民であり、その職員から地域リーダーは、もともと地域の活動が活発な地域に、これらを中心者とともに連携させ、代まですべての年代が参加した。</p> <p>日系人社会に暮らして頂けた。日系人の交番視察を実施し、日系社会に広がることで、その後押しが住民全体の後押し(日系人社会が社会的信用を得ていること)もあつた。</p> <p>ハイロト交番になって以来、巡回連絡により理解が促進され、従来よりも警官一人一人の顔が見えるより身近な交番となつていること、ハイロールの回数が増え、警官のプレゼンスにより安心感が高まったことなど、交番が自分の暮らす地域に立つたものと認識している。</p> <p>交番での住民サポーターからの聞き取りでは、住民の意識は高まっている。上述のとおり、交番は自分たちの暮らす地域に役立つものだと認識しているが、そのような交番へ協力する活動に自分自身が参加する意義を認め、交番との地域社会活動に参加したり、交番に立ち寄り、交番に立ち寄ったりすることを目指すようになつてきている。特に以前は交番とのつきあいがなかった住民も、巡回連絡をする警官の活動の結果として、交番を理解し、何らかの関わり(活動)をもつようになつてきている。</p> <p>交番での住民からの聞き取りからは、コンセーギは交番単位よりおおきな地域単位で設置されることもあり、よりフォーマルな、具体的には、政治家や教会、商店主や有力住民などが委員として構成しており、いわゆる交番単位のより小さい、また、その意味でより身近な感じのあるもとははやや異なる印象を受ける。(日系人の方がコンセーギの代表を務めているケースもあるらしい)。</p> <p>日本と同様に交番連絡協議会というフォーマルな形が設置されているわけではないが、それぞれに住民から交番をボランティアとしてサポートしてくれる住民サポーターがいる。これら住民サポーターは、交番を心理的に身近に感じているが、物理的にも身近に感じているが、物理的にも身近に感じている。上述したとおりであるが、各層の共同活動に参加する。推進するなど積極的に参加している。</p>	<p>地域住民との共同活動が円滑に行われるための配慮があるか(交番活動を実施するにあたり地域活動など住民と協力する観点から配慮している点はあるか。例:ジェンダー配慮、貧困家庭子ども配慮など)</p> <p>地域との共同活動への住民参加状況(地域リーダーは育成されたか、など)</p> <p>成果実感(交番活動が自分の生活・地域社会に役立っていることを感じる。定期的に効果の出る)のメカニズムが存在し、機能しているかの確認</p> <p>住民の意識(交番を自分の暮らす地域に役立つものだと感じること、また、その交番の活動に自分自身が積極的に参加する意識)</p> <p>連絡協議会(コンセーギなど)の組織としての積極性</p>	<p>住民代表、C/P、日本人専門家、交番番長、交番動員</p> <p>プロジェクトの記録、住民代表、C/P、日本人専門家、交番番長、交番動員</p> <p>プロジェクト関連文書、住民代表、C/P、日本人専門家、交番番長、交番動員</p> <p>プロジェクト関連文書、住民代表、C/P、日本人専門家、交番番長、交番動員</p> <p>プロジェクト関連文書、住民代表、C/P、日本人専門家、交番番長、交番動員</p>	<p>インタビュー、直接観察(視察)</p> <p>資料レビュー、インタビュー、直接観察(視察)</p> <p>インタビュー、直接観察(視察)、資料レビュー(住民対象のアンケート調査結果を含む)</p> <p>インタビュー、直接観察(視察)、資料レビュー(住民対象のアンケート調査結果を含む)</p>

パイロット交番対象簡易アンケート結果

	先行 8 パイロット交番								後発 12 パイロット交番											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
交番名	ブラサローター	ヒラテメルセ	ブラサオスカール	プリメロロマイオ	ハルティンブリタニア	ノーサセノラトカルモ	ハルティンラニエリ	サンホセドベレン	コンコルジア	ラルゴドジャボン	ヒラジュサラ	バステリマ	カンボクランジ	モルンビ	ピエイラドコウト	アウドタボンチ	カザブランカ	ピラフォルモーザ	クメルシンド	ジャルジンマイマ
連隊名・大隊名・中隊名	第1連隊 第13大隊 第2中隊	第2連隊 第3大隊 第3中隊	第3連隊 第5大隊 第1中隊	第4連隊 第2大隊 第4中隊	第5連隊 第4大隊 第4中隊	第9連隊 第28大隊 第2中隊	第10連隊 第37大隊 第4中隊	第11連隊 第8大隊 第4中隊	第1連隊 第13大隊 第3中隊	第3連隊 第9大隊 第2中隊	第8連隊 第36大隊 第2中隊	第10連隊 第1大隊 第2中隊	地方警察管轄 第6大隊 第5中隊	第15連隊 第16大隊 第2中隊	第9連隊 第19大隊 第1中隊	地方警察管轄 第1大隊 第1中隊	第12連隊 第32大隊 第1中隊	第11連隊 第21大隊 第5中隊	第2連隊 第13大隊 第2中隊	第4連隊 第29大隊 第3中隊
モニタリング回数と実施者 (2007年度の交番モニタリング回数) 但し、ここに記入された以外にもブラジル人のみで行っているものあり。	07.02.22 by 石井・平塚・C/P1名 07.05.22 by 石井・C/P1名 07.08.10 by 石井・太田・C/P1名	07.05.24 by 石井・C/P1名	07.02.22 by 石井・平塚・C/P1名 07.05.22 by 石井・C/P1名	07.05.23 by 石井・C/P1名	07.05.25 by 石井・C/P1名	07.05.25 by 石井・C/P1名	07.05.24 by 石井・C/P1名	07.03.02 by 平塚・C/P1名 07.05.23 by 石井・C/P1名	07.01.05 by 石井・C/P1名 07.05.22 by 石井・平塚・C/P1名 07.10.03 by 石井・C/P1名	07.01.05 by 石井・C/P1名 07.05.22 by 石井・平塚・C/P1名 07.10.08 by 石井・C/P2名	06.11.05 by 石井・C/P1名 07.02.27 by 平塚・C/P1名 07.10.22 by 石井・C/P3名	07.01.09 by 石井・C/P1名 07.02.28 by 石井・平塚・C/P1名 07.10.22 by 石井・C/P3名	07.01.10 by 石井・C/P1名 07.02.26 by 石井・平塚・C/P1名	07.01.09 by 石井・C/P1名 07.02.27 by 平塚・C/P1名 07.10.06 by 石井・C/P3名	07.01.09 by 石井・C/P1名 07.02.23 by 石井・平塚・C/P1名	07.01.12 by 石井・C/P1名 07.02.27 by 平塚・C/P1名 07.08.15 by 石井・太田・C/P1名	07.01.09 by 石井・C/P1名 07.02.23 by 石井・平塚・C/P1名	07.01.10 by 石井・C/P1名 07.02.26 by 石井・平塚・C/P1名 07.08.17 by 石井・太田・C/P1名	07.01.11 by 石井・C/P1名 07.02.23 by 石井・平塚・C/P1名 07.08.16 by 石井・太田・C/P1名	07.01.11 by 石井・C/P1名 07.02.23 by 石井・平塚・C/P1名 07.08.16 by 石井・太田・C/P1名
最新モニタリング誰(中心者)が実施								石井専門家 ジャクソン少佐	ブランダワンGPG司令官 石井専門家 ジャクソン少佐	ブランダワンGPG司令官 石井専門家 ジャクソン少佐 ホビンソン大尉	ブランダワンGPG司令官 石井専門家 ジャクソン少佐 ハベット中尉	ブランダワンGPG司令官 石井専門家 ジャクソン少佐 ホビンソン大尉								
相談件数推移	9367(07.4-6) 8404(07.7-9)	1150(07.1-3) 1145(07.4-6) 1200(07.7-9)	2520(07.4-6) 2618(07.7-9)	1593(07.1-3) 2600(07.4-6) 2243(07.7-9)	904(07.1-3) 1323(07.4-6) 1916(07.7-9)	93(07.4-6) 106(07.7-9)	443(07.1-3) 390(07.4-6) 404(07.7-9)			2031(07.1-3) 2177(07.4-6) 2544(07.7-9)				2986(07.1-3) 3305(07.4-6) 3425(07.7-9)			196??	115(07.7-9) 30(07.10-12.7)	20(07.4-6) 61(07.7-9)	
1. 貴交番での地域住民との連絡窓口は、誰(組織・役職名など)ですか。	ブラサローター町会 町会長	コンセーキ 会長 地元商店主と住民	住民高齢者代表 コンセーキ 副会長 住民代表	個人、教育所オーナー、 サンパウロ大学社会学 文化教育支援グループの マネージャー	コンセーキ 会長	コンセーキ 会長 +住民2名の名前	コンセーキ 会長	コンセーキ 町内会	コンセーキ 会長 町内副会長 2名 会長 と副会長 コンセーキ 会長と副会 長 ライオンズクラブ 会長 日伯協会財務係	警察官? 現時点でコンセ キや住民代表者 がまだいない。	町内会 町会長	コランソ・フェリス ボランティア会(町 内会名)	コンセーキ 町内会	町内会 町会長	地域リーダー 教会 教育者 市議員	ピラハス町会 町会長 身体障害者人権 運動会 会長	コンセーキと教会 会長、神父	教会 神父	ハブチスト教会牧 師、コンセーキ 会 長、秘書、会員 計3 名 住民代表1名	
2. 地域住民とどのような共同活動を実施していますか。その内容を簡潔に教えてください。	ラジオ体操(毎日)、 チャレンジデー(年一 回)、図書館キャラク ターのバレード(年1回)	交番でスポーツ(ティ ン栄ジャ)と高齢者へ の体育活動、	クリスマス会、映画会、 市民権大会	音楽文化プロジェクト (2日目に1回)、イースター とクリスマスにギフト贈 り。メーデーのイベ ント。	クリスマス、こどもの日 イベント、映画会、	クリスマス、市民権大 会、カトリック関係パ レード	巡回連絡の祭に服や 靴、毛布を寄付してく るので、老人ホームや 孤児院に寄付していく。 イースターなど特別な 日に商店主が寄付。	仲良しお隣さんプロ ジェクト	商店に交番の連 絡先を教える、商 店への巡回連絡 開始、窃盗や強 盗防止のパンフ レットを配布	子どもの日、市民権大 会、コンセーキとライ オンズクラブ会議	古着キャンペーン、 クリスマス、子 どもの日、住民か ら寄付された本で 図書館を設置す る。(現時点で 2000冊)	高齢者ダンス パーティー。カポ エーラ(アフリカ) のダンスのよう な格闘技、教会 礼拝を広場で。	サイクリング大 会、コンドミニア ム番への安全講 習会、190に電話 をした夫婦を集め て講習会	門番への講習会、エ コロジカル・ワーク、環 境保全講習会	健康診断を行うラホが 近所にあるので血圧 や糖尿病検査(健康 診断活動)、交番近所 にあるヘアサロンが カットなどするイベ ント、週末の体育活動	古着配布キャン ペーン、リアン エロ(全国にある 用品店)からの寄 りでクリスマスプ レゼント贈呈	ハドロエイト(町を 守るカトリック聖 人)と5月1日のイ ベント、子どもの 日イベント、環境 問題コンテスト	古着寄付キャン ペーン、ホームレ ス救済活動、貧困 な子どもへのおも ちゃや古着贈呈 活動	孤児院支援、教会を通し て貧しい子どもたちとの 活動	古着キャンペーン、 サッカー大会、子ど もの日
3. 上記活動の財源を教えてください。	ボランティア	講師は交番勤務員、ス ベスは無料)	物による寄付	関係者の寄付	コミュニティ、企業家、ボ ランティア	住民、コミュニティから の寄付	物で寄付。	財源なし	企業家からの寄 付(2007年11月1 日から)	住民や商店主から	水道や電気代は 市が支払ってく れている。交番内 に公衆電話があり 住民がそれを使 用するために交 番に来る。財源は コミュニティ。	町内会予算、教 会予算。	参加者の実費	コンセーキ、企業家、 コミュニティの支援	各業者(サロンやラ ボ)の寄付	現物の寄付	住民および企業 の寄付	住民からの寄付	寄付	寄付
4. 貴交番では、地域の巡回活動を実施していますか。	巡回あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	巡回連絡あり	あり	あり	あり
5. 巡回活動に関係しますが、受け持ち区を定めていますか。	受け持ちあり	あり	あり	あり	あり	なし	あり	あり	なし	受け持ち地区が決まっ ていない	あり	あり	ブランク	あり	あり	あり	受け持ち区あり 通りごと	あり	あり	あり
6. 交番勤務員が参照する交番を運用するためのマニュアルはありますか。	ないと言っているが聞 き取りではあること確認	あり	あり 交通マニュアル 地域警察マニュアル	マニュアルがない。プロ ジェクトの研修教材とS ISUPAの教材を作成 中。	あり	あり	あり 日本の地域警察 の教科書	なし。	あり	あり	あり Nota de Instruction 署長からの指示 他のパイロット交 番が作成した資 料 地域警察の研修	あり パイロット交番活 動のレポートと理 解	ブランク	あり	あり	なし 地域の特徴を把握 して、様々なア イデアを考えてい ます。	マニュアルあり 1. PM3 -015 -02-05発心 2. 日本地域警察 教科書 3. カルチージャ 4. CPPと犯罪統 計	あり	あり	あり
7. 貴交番への住民からの届出(相談含む)件数をその推移がわかるように(現在に到るまでの数値を教えてください。なお、本プロジェクトに参加する以前の時期に該当する数値は〇で囲んでください。	増加傾向	ブランク	漸増(依頼)	?	増えている	漸増	減っている	増えている	なし	ボランティアの勤 務員(勤務員が任 意で勤務)であり、 統計はなし。 95%は商業地区 であるため、住民 からの相談は少 ない。	なし	増加	増加	増加	増加	増加	増加	増加	増加	増加

パイロット BCS 訪問調査結果

今般、11月29日(木)～12月11日(火)の間、サンパウロ州軍警察プロジェクトの終了時評価において実施した結果は、調査団とサンパウロ州軍警察(以下「軍警」との間で合意された議事録(Minutes of meeting between the Japanese terminal evaluation team and the authorities concerned of the government of the Federative Republic of Brazil for the community policing project in the Federative Republic of Brazil)に附属している終了時評価報告書(Joint terminal evaluation report on the Japanese technical cooperation for community policing project in the Federative Republic of Brazil, Sao Paulo, December 11, 2007)のとおりであるが、調査団の活動のうち、警察行政に係る分野での評価について、プロジェクトのパイロット BCS(交番制度を取り入れて地域警察活動を実施している日本の交番的な活動単位)の活動評価を行った状況は以下のとおりである。

なお、本評価に用いたチェックリストによる採点基準は、過去に警察分野関連の本邦研修の際の研修先として都道府県警察により示された日本における代表的な交番と、そこでの勤務員の活動を評価点数5+とした。

1 今後、軍警に必要な活動

チェックリストで評価したプロジェクトの対象であるパイロット BCSの活動については、一元的に判断しやすくするために点数化しているが、この点数の上下は大きな問題ではない。パイロット BCSは他の評価団員による勤務員等からの面接調査等の結果にもあるとおり、総じて良好な活動が行われており、3年間というプロジェクトの期間を考えると極めて高い評価が与えられるべき状況と思われる。しかしながら、プロジェクトの対象は、軍警が現在管轄している全 BCS数(268箇所)に比較すると10%にも満たない状況で、プロジェクト効果の広範な拡大と普及に向けた、軍警の具体的な施策が求められるところであるが、この点に関する若干の考察は以下のとおり。

(1) パイロット BCSでの活動の強化

今後も継続してパイロット BCSをモデル BCSとして指定して活動を充実させ、軍警が目指す地域警察活動の実現に向けたノウハウを蓄積し、他の BCSへの技術移転の場として効果的に活用することが望ましい。パイロット BCSを実務訓練の場とした州内研修や、同 BCSの勤務員を他の BCSへ派遣しての実務指導等を計画的に企画し実施するのも効果的と思われる。

(2) 急な改革から、着実かつ確実な改革への変化

今般のプロジェクトでは、当初8箇所の BCSをパイロット BCSとして指定し、その後、活動の半ばにおいて12箇所を追加して20箇所としたものである。プロジェクト開始当初は BCS活動について、軍警の具体的な構想に関しても曖昧な部分が多かったが、その後、軍警による「作戦マトリクス」が規定され、地域警察という概念が軍警全体の活動の基本となることとなり、その具体的な活動の場として BCS活動が規定された。この3年間の変化は軍警の努力の賜であり、特に最上級幹部の意識の高さとリーダーシップにより20のパイロット BCSを対象とした本プロジェクトは高い成果を得たと言える。しかし、今回訪問した5箇所のパイロット BCSでリーダー(交番長)的な立場にある警察軍曹からこれまでの活動状況を聴取する中で、いずれの BCSにおいても「プロジェクトの対象として指定されてから(あるいは指定されるにあたり)、BCSでの活動を強化するために勤務員を何人か入れ替えた」との話があった。すなわち、パイロット BCSの現状は、いわば優秀な警察官による活動の成果であり、地域警察活動

を州全体に広げていくに当たっては、「入れ替えられた警察官」も粘り強く教育して一定レベルの勤務ができるようにする必要があることから、より確実な改革に向け、無理のない期間設定を行い、加えてその効果を実質的に評価（モニタリング）する必要がある。

(3) 中隊長・大隊長への指導の継続と強化

これまでは、地域警察という新しい概念と、その活動を具現化するために、活動の実施主体であるBCSのリーダーや勤務員に対しての指導が繰り返されてきた経緯がある。今回、5箇所のBCSを訪問したが、その際においても、一部の指揮官（中隊長、大隊長）について、より意識付けを行い、今後必要となるであろうBCS勤務員の勤務評定方法等を早期に確立する必要があると感じた。また、BCS活動に関する指導や巡視を、担当者のみが行うのではなく、中隊長・大隊長が自ら理解して実施する体制を作る必要がある。

2 サンパウロ州における地域警察活動定着の見通し

中間評価時に実施したセミナー「日本警察によるシンガポールに対する交番制度に関する技術協力の歴史と若干の考察」において示した「交番制度の海外への移転についての考察」における、交番制度の導入・定着に必須となる6要素についての意見は以下のとおり。

(1) 国民の警察に対する信頼

交番制度は、国民の警察に対する信頼に左右され、国民が警察に対して不信感を抱いている国では、交番制度を根付かせるのは困難である。交番制度は、国民と警察との信頼を築くために有効であるが、もともと基盤となるある程度の信頼がないと機能しない。警察官の待遇を向上し、優秀な人材を採用し十分な教養を行うなど、社会的・財政的にも一朝一夕にはできないことを地道に行い、市民のための警察活動を積み重ねる以外に、信頼獲得の道はない。

この点で、軍警の国民からの平均的な信頼度は、交番制度を展開するために必要な程度を満たしていると判断できる。BCSを効果的に配置する、あるいはその所管区を適切に指定することにより、地域住民との絆をより深め、地域警察活動の基本である地域との協働関係をより強化してゆくことが可能と思われる

(2) 政府及び警察幹部の熱意と柔軟性

交番制度の成果は即効性に欠け、直ちに成果や結果が上るとは言い難く、その運用には相応の人員を要し非効率的な面もある。交番・駐在所が定着している日本ですら、過去にそれらを廃止してパトロールで代替しようとする動きがあった。従って、政府・警察幹部が長期的に制度を育てることを覚悟しなければ「効果がない」とした反対勢力も出てくる。また、継続的な警察官の育成は経費や人も要し、予算・人事措置を含め政府や警察幹部がその特性を理解して、真剣に取り組む必要があり、過去の成功事例に学び、自国の制度・慣習・文化や国民性に応じて制度を改善してゆく柔軟性も必要である。

この点について、軍警では1990年代に「交番制度」を導入しながら挫折した経緯があり、その反省から上級幹部の間には「今回の失敗は許されない」という不退転の決意がある。また、行政的な治安政策全般を担当する州保安局も軍警の方向性に理解を示しているところ、この体制を今後も維持し、地域性に合った活動の定着を図ってゆく必要がある。

(3) 警察の理念の確立と人材の育成

警察が、国民からの信頼を得るには「国民のための警察」という理念を確立・徹底し、実践する必要がある。そのような理念を持った上で、具体的な活動で示すためには、幹部はもちろん警察官一人一人に至る人材の育成が欠かせない。そのためには理念を理解し、具体的な活動ができるための教養制度の充実が必要である。

この点について軍警は包括的な警察の理念として「地域警察としてあるべき姿」をより具体的に示し、作戦マトリクス全体により強く反映させてゆく必要がある。地域と密着した活動を警察活動の中心と考えるならば、BCSでの活動こそ中核として捉えられるべきである。今後予定されている教養制度では、士官教養、兵卒教養のいずれにおいてもBCSでの実務研修が取り入れられることとなっているが、特に士官学校でのこのような実務教養の導入は画期的なことで評価に値する。しかしながら、現在既に中隊、大隊で指導的立場にある幹部の理解をより高めなければ現在のプロジェクト成果の広範な普及と拡大は望めないため、中隊・大隊の幹部に対しての教養制度とその効果測定システムを確立すべきである。

(4) 一定の治安の安定と警察官の増員

交番・駐在所は警察署から離れた場所に分散して設置されるため、警察官への襲撃や攻撃があるような治安状況では安定した交番の運営は難しく、交番の設置には、ある程度の治安が前提条件となる。また、各種犯罪が多発している国・地域では、その対応のため、交番に配置する人員を確保する余裕がない場合がある。すなわち、交番制度を本格的に導入するには、必要となる警察官の増員を要し、増員の前提として、警察には他の既存の業務との調整、すなわち既存分野の仕事内容と人員の割り振りを合理的に行うことが求められる。

この点については、本プロジェクトの実施期間中に発生した、刑務所暴動に伴う警察襲撃事件¹のように、本邦内の治安と比較した場合には大きな差があり、現在のパイロットBCSの設置場所に関しても、絶対的な安全の確保という点では確かに勤務員に危険が伴う場合も考えられる場所もあるが、勤務体制が交替制の仮眠のない勤務であること、施設の窓ガラスを防弾（けん銃弾対応）にしていること等、軍警側も相応の認識を持って対応が行われている。今後は、BCSの設置場所に応じた勤務人員・体制・所管区の設定を行い、状況によっては昼間のみ指定や、夜間勤務員の増員等の柔軟な対応も必要と思料する。

(5) 施設、装備等予算措置

多くの国は、交番制度の治安効果を認めながら、施設数が絶対的に不足している国が多い。警察官の増員のほか、交番施設を新設し維持することに加えて、車両等の付帯装備の充実・維持は財政的な負担となり、これが交番制度導入・継続の大きな障害となっている。

この点に関しては、軍警はすでに州内の268箇所にBCSの建物は準備している。今後は、BCSに附属する設備や資機材の充実に必要な予算措置を整えなければならない。計画的な予算の確保と効果的な備品配備を行う必要がある。

(6) 交番の活動、組織運営、組織管理の効率化

日本警察の交番活動や組織運営は、過去の貴重な経験と創意工夫の積み重ねである。例えば、日本では、「犯罪現場への急行」、「現場到着時間の短縮」などは当然であるし、交番制度は分散配置だけに、交番勤務員の勤務管理は重要であると認識している

¹ 2006年7月に、犯罪組織PCGがサンパウロ市内の警察施設、銀行、スーパー等の攻撃、バスの放火を行い、5名の死者が出た。

が、このような日本で普通に理解されていることも、国によっては必ずしも同様に理解され確実に行われているとは限らない。国情や警察の置かれている立場は国により異なるが、いかに交番の活動、組織運営・管理の基本を定め、効率化を図るかは、交番制度の効果や国民からの評価に直結するものである。

この点については、これまでの専門家の活動や、本邦研修により、日本式の交番活動・運営に関しての基礎的な知識と理解は得られており、今後とも「日本式交番活動を模範として、地域警察活動の充実と拡大を図ってゆきたい」とする司令官以下の上級幹部の決意は固い。従って、軍警は今後とも日本警察からの支援に対する期待が高いものがある。

3 チェックリストによる評価

終了時評価に伴い実施した5箇所のパイロット BCS についてのチェックリストによる評価は以下のとおり。

交番子エックリスト集計表

番号	交番名	I:管内実態把握					II:交番活動状況						III:記録関係						IV:その他				合計				
		I-1		I-2		I-3	II-1		II-2		II-3		III-1		III-2		III-3		IV-1		IV-2			IV-3		IV-4	
		3	2	2	3	2	2	3	3	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		2	2	2	2
①	カンポ グラnde Campo Grande	2	3	2	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
②	ホタリー Rotary	3	3	2	2	2	3	3	3	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
③	カサブランカ Casa Blanca	2	2	2	2	2	3	3	3	1	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
④	グメルシンド Gumercindo	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
⑤	ベレン Belen	3	3	2	2	2	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
評価	平均	3	3	2	2	2	3	3	3	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	最高	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	最低	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	

I:管内実態把握

- I-1 地域の地形、交通網、危険箇所の把握状況（地図の作製）
- I-2 管内居住実態の把握状況
- I-3 受持区の把握（所帯数、範囲の妥当性）
- I-4 統計資料の作成状況（犯罪発生・検挙状況）
- I-5 交通事故の発生、取締り状況

II:交番活動状況

- II-1 通報事案の処理状況
- II-2 遺失物・拾得物の取り扱い状況
- II-3 広報紙の作成、内容、配布状況
- II-4 掲示板等の広報媒体の設置・活用状況
- II-5 地域住民、民間協力団体との連携活動状況
 - II-5.1 交番連絡協議会の開催状況
 - II-5.2 その他の協働活動の状況

IV:その他

- IV-1 装備資機材の管理・保管状況
- IV-2 勤務員の服装・規律・士気
- IV-3 防災に関する状況（建物内外の状況、非常持出し指定等）
- IV-4 勤務員の創意工夫

III:記録関係

- III-1 教養・指示等に関する記録
 - III-1.1 幹部の巡視に関する記録
- III-2 交番での活動の実施状況に関する記録
 - III-2.1 勤務員引き継ぎに関する記録（事案関係・装備資機材）
 - III-2.2 勤務計画に関する記録（勤務計画表、警ら要点等）
 - III-2.3 巡回連絡の実施状況の記録の保管
 - III-2.4 インテグラ・パトロール、学校パトロールに関する記録
 - III-2.5 交番以外の活動との連携に関する記録
 - III-2.6 PCの運用に関する記録
 - III-2.7 福祉活動に関する記録
- III-3 通報事案に関する記録
 - III-3.1 事件・事故の受理・対応に関する記録
 - III-3.2 緊急通報（190番）対応に関する記録
 - III-3.3 保留事案に関する記録
- III-4 被害者の支援に関する記録
- III-5 相談に関する記録
- III-6 地域との連携に関する記録
 - III-6.1 交番連絡協議会に関する記録
 - III-6.1 その他の協働活動に関する記録

交 番 活 動 チェ ッ ク リ ス ト

対象交番名 カンポ・グランデ Campo Grande	実施日 2007年11月30日 時間 10:30 ~ 11:45	担当者 終了時評価団員 警察庁 出宮良平
--------------------------------	-------------------------------------	-------------------------

分類	評価項目	評価	特記事項
管内 実態 把握	I-1 地域の地形、交通網、危険箇所の把握状況（地図等の作成）	0 1 2 ③ 4 5	各種地図作製の取り組みあり
	I-2 管内居住実態の把握状況	0 1 ② 3 4 5	中産階級が多い住宅街
	I-3 受持区の把握（所帯数、範囲の妥当性）	0 1 ② 3 4 5	通りごとに担当者を指定
	I-4 統計資料の作成状況（犯罪発生・検挙状況）	0 1 2 ③ 4 5	事件発生重点記録あり
	I-5 交通事故の発生、取締り状況	0 1 ② 3 4 5	事故受理記録、原因分析表あり
	小計		12/25
交 番 活 動 状 況	II-1 通報事案の処理状況	0 1 ② 3 4 5	基本書式で対応
	II-2 遺失物・拾得物の取り扱い状況	0 1 2 ③ 4 5	自主的な措置対応書類を作成
	II-3 広報紙の作成、内容、配布状況	0 ① 2 3 4 5	月1回、別途臨時情報も配布
	II-4 掲示板等の広報媒体の設置・活用状況	0 1 2 ③ 4 5	設置場所等が適切
	II-5 域住民、民間協力団体との連携活動状況	0 1 ② 3 4 5	地域の住民組織の結束は固い
	II-5.1 交番連絡協議会の開催状況	● ◎ ● ● ● ●	コンサーギとの活動は低調
	II-5.2 その他の協働活動の状況	● ● ● ◎ ● ●	教会と協働した講演会を開催
小計		11/25	
記 録 関 係	III-1 教養・指示等に関する記録	0 1 ② 3 4 5	基本書式（指示記録）で対応
	III-1.1 幹部の巡視に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（巡視記録）で対応
	III-2 交番での活動の実施状況に関する記録	0 1 ② 3 4 5	
	III-2.1 勤務員引き継ぎに関する記録（事案関係・装備資機材）	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（引継記録）で対応
	III-2.2 勤務計画に関する記録（勤務計画表、警ら要点等）	● ◎ ● ● ● ●	交番長が策定し付与
	III-2.3 巡回連絡の実施状況の記録の保管	● ◎ ● ● ● ●	住宅・事業所の記録を保管
	III-2.4 インテグラ・パトロール、学校パトロールに関する記録	● ◎ ● ● ● ●	中隊・大隊で対応（報告のみ）
	III-2.5 交番以外の活動との連携に関する記録	◎ ● ● ● ● ●	中隊・大隊で対応（報告のみ）
	III-2.6 PCの運用に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（PC運用記録）で対応
	III-2.7 福祉活動に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	
	III-3 通報事案に関する記録	0 1 ② 3 4 5	
	III-3.1 事件・事故の受理・対応に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.2 緊急通報（190番）対応に関する記録	● ◎ ● ● ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.3 保留事案に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	
	III-4 被害者の支援に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	被害者支援記録（担当者ごと）
III-5 相談に関する記録	0 1 ② 3 4 5	交通事故以外の届け出記録あり	
III-6 地域との連携に関する記録	0 1 ② 3 4 5		
III-6.1 交番連絡協議会に関する記録	● ◎ ● ● ● ●		
III-6.2 その他の協働活動に関する記録	● ● ● ◎ ● ●		
小計		13/30	
そ の 他	IV-1 装備資機材の管理・保管状況	0 1 ② 3 4 5	
	IV-2 勤務員の服装・規律・士気	0 1 ② 3 4 5	態度、服装は全般的に良好
	IV-3 防災に関する状況（建物内外の状況、非常持出し指定等）	0 ① 2 3 4 5	消火器、非常出口等が未整備
	IV-4 勤務員の創意工夫	0 1 2 ③ 4 5	交番長のリーダーシップがある
	小計		8/20
合計		44/100	

福祉活動の状況

プロジェクトに追加指定されたパイロット BCS の一つで、サンパウロ市の南、大西洋に面する港町のサントス市内に所在する BCS である。管内に居住する低所得者層の子女に対して、BCS が市民団体の調査に基づき関係機関、団体への登録などの援助を行い、クリスマスのプレゼントを準備している。当初は約 400 セットの準備しかできなかったが、現在では参加を希望する有志も増えて、今年は 2,500 セットを準備した。BCS として、市民団体（コンセーギ、地域自治会）と連携して、市民団体が調査した対象者について、関係機関へ連絡すると同時に、地域の報道機関（新聞、放送等）や交番広報紙等を通じて参加を希望する団体、機関や有志を募り、対象となる子女と一対一の関係で援助の意識が高まるようにしている。今回の募集には、サントス市外からも参加応募があるなど、BCS が中心に行っている福祉活動の理解の深まりと広がりを感じている旨。

特記事項

日本での研修を受けたことにより、地域警察活動の多くの部分で影響を受けている。交番広報紙やポスター等は、日本へ行くまではどのようなものを作ったら良いのか、また、果たしてそのようなことで効果があるのか、とやや懐疑的に考えていたが、日本での高い効果を知り、自国でも行うべきだと思い直した。実際、新しい広報紙やポスターを作るたびに、地域の人々の BCS への関心が高まってくるのを実感している。また、日本で見た遺失・拾得物処理を参考にして、落とし物や拾い物に関する独自の様式を定めて実施を始めている。まだ、件数的には少ないが、遺失・拾得に関しては、軍警が規定している基本書式に該当する書式がないことから、試験的に実施して効果があるようであれば上申したい。この自主的な遺失・拾得の処理に関する書類（書式）は、日本で研修を受けた軍曹（交番長）がいる他の BCS においても独自に運用が行われている。

	氏名・フリガナ	性別	階 級	職 名	勤務年数
対象勤務員	モイゼス・ダ・シルバ Moises da Silva	男性	一等軍曹	交番長	現 BCS 9.5 年 警察歴 18 年
		M F			年
		M F			年
		M F			年
		M F			年

交 番 活 動 チェ ッ ク リ ス ト

対象交番名 ホタリー	実施日 2007年 11月 30日	担当者
Rotary	時 間 15:35 ~ 16:10	終了時評価団員 警察庁 出宮良平

分類	評 価 項 目	評 価	特 記 事 項
管内 実 態 把 握	I-1 地域の地形、交通網、危険箇所の把握状況（地図等の作成）	0 1 ② 3 4 5	より充実した取り組みが必要
	I-2 管内居住実態の把握状況	0 1 2 ③ 4 5	商業・住宅地域
	I-3 受持区の把握（所帯数、範囲の妥当性）	0 1 ② 3 4 5	ブロックに分割して指定
	I-4 統計資料の作成状況（犯罪発生・検挙状況）	0 1 ② 3 4 5	犯罪発生マップあり
	I-5 交通事故の発生、取締り状況	0 1 2 ③ 4 5	基本書式で対応（事故記録）
	小計		12/25
交 番 活 動 状 況	II-1 通報事案の処理状況	0 1 ② 3 4 5	基本書式で対応
	II-2 遺失物・拾得物の取り扱い状況	0 1 ② 3 4 5	記録化しているが頻繁ではない
	II-3 広報紙の作成、内容、配布状況	0 1 2 ③ 4 5	毎月発行
	II-4 掲示板等の広報媒体の設置・活用状況	0 1 2 ③ 4 5	掲示場所等が適切
	II-5 地域住民、民間協力団体との連携活動状況	0 1 2 ③ 4 5	地域自治会の援助あり
	II-5.1 交番連絡協議会の開催状況	● ● ◎ ● ● ●	交番長定期会合に参加
	II-5.2 その他の協働活動の状況	● ● ● ● ◎ ●	地域自治会が積極的に関与
小計		13/25	
記 録 関 係	III-1 教養・指示等に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	基本書式（指示記録）で対応
	III-1.1 幹部の巡視に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（巡視記録）で対応
	III-2 交番での活動の実施状況に関する記録	0 1 ② 3 4 5	
	III-2.1 勤務員引き継ぎに関する記録（事案関係・装備資機材）	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（引継記録）で対応
	III-2.2 勤務計画に関する記録（勤務計画表、警ら要点等）	● ● ● ◎ ● ●	交番長の裁量で指定
	III-2.3 巡回連絡の実施状況の記録の保管	● ● ● ◎ ● ●	住宅・事業所の記録を補完
	III-2.4 インテグラ・パトロール、学校パトロールに関する記録	● ◎ ● ● ● ●	中隊・大隊で対応
	III-2.5 交番以外の活動との連携に関する記録	◎ ● ● ● ● ●	中隊・大隊で対応
	III-2.6 PCの運用に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（PC運用記録）で対応
	III-2.7 福祉活動に関する記録	● ● ● ● ◎ ●	学校訪問、サッカー教室
	III-3 通報事案に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.1 事件・事故の受理・対応に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	事件、交通事故記録あり
	III-3.2 緊急通報（190番）対応に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.3 保留事案に関する記録	● ● ● ● ◎ ●	
	III-4 被害者の支援に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	被害者支援記録あり
III-5 相談に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	届け出記録あり	
III-6 地域との連携に関する記録	0 1 2 ③ 4 5		
III-6.1 交番連絡協議会に関する記録	● ● ● ◎ ● ●		
III-6.2 その他の協働活動に関する記録	● ● ● ◎ ● ●		
小計		17/30	
そ の 他	IV-1 装備資機材の管理・保管状況	0 1 2 ③ 4 5	保管、管理は適切
	IV-2 勤務員の服装・規律・士気	0 1 2 ③ 4 5	立番勤務等の姿勢は極めて良好
	IV-3 防災に関する状況（建物内外の状況、非常持出し指定等）	0 ① 2 3 4 5	消化器、非常出口等が未整備
	IV-4 勤務員の創意工夫	0 1 2 ③ 4 5	交番長がリーダーシップを発揮
	小計		10/20
合計		52/100	

福祉活動の状況

管轄内は比較的富裕層が多いことから、他のBCSと比較した場合、特に目立った福祉活動は行われていないが、交番の活動に共感する地域住民の積極的な援助により、警ら用の自転車が寄付される等、良好な関係を保っている。

また、プロジェクトの開始により、管内実態把握の強化が指示され、その過程で、管内にはないと思っていた学校が1校あることが判明した。現在では、PROERD（薬物犯罪防止教育部隊）の活動の対象となっているだけでなく、BCSと学校の関係も密になり、学校側から警察に対して意見を求めてくることもある。

特記事項

管轄する地域は、富裕層が比較的多い住宅、商業地域で、市の中心や繁華街も近く、プロジェクトが開始されるまでは、配置警察官の数が不十分で、事件・事案への対応も警察側の都合を優先した住民無視の態度が多かったと地域の住民は語る。現に、BCS聞き取り調査に参加していた住民代表以外に、BCS近隣の商店に赴き聴取したところ、「以前はBCS周辺ですら、夜になると男娼の溜まり場だったが、警察活動が強化されてから一掃された。日本警察が軍警を援助していることは知っている。日本の援助が始まってから、BCSの勤務員の住民に対する態度や仕事に対する姿勢は明らかに大きく変化している。最近では、警察を頼もしく思っている。」と語った。実際に、BCS建物内で交番長から状況を聴取している間にも、交番長を始めとした勤務員に通りすがりに声をかけてくる通行人が多くあり、いずれも管轄地域内の居住者であった。以前は警察官から住民に近づくことはなかったが、家に訪ねて来たり、地域集会に警察官が参加したりして、警察と住民との距離は明らかに近くなっているとのこと。

交番長自身「日本研修へ行くまでは、交番活動とはどんなことか判らなかった。日本（石川県警）で交番の警察官が警ら中にすれ違う地域の人々に声をかけて挨拶しているのを見て、これならサンパウロでもできると思い、帰国後、直ちに交番勤務員全員で始めた。最初は地域の人の方が戸惑っているようだったが、今では散歩の途中でBCSに立ち寄って話をしたり、ちょっとした差し入れを持って来たりしてくれる人もいる。プロジェクトが始まる前は、そんな人は一人もいなかった。」と語った。

	氏名・フリガナ	性別	階級	職名	勤務年数
対象勤務員	ジョージ Jorge	男性	三等軍曹	交番長	現BCS 2年 警察歴 12年
		M F			年
		M F			年
		M F			年
		M F			年
		M F			年

交 番 活 動 チェ ッ ク リ ス ト

対象交番名 カサ・ブランカ Casa Blanca	実施日 2007年 12月 1日 時間 10:15 ~ 11:30	担当者 終了時評価団員 警察庁 出宮良平
------------------------------	--------------------------------------	-------------------------

分類	評価項目	評価	特記事項
管内実態把握	I-1 地域の地形、交通網、危険箇所の把握状況（地図等の作成）	0 1 2 ③ 4 5	犯罪発生地図等あり
	I-2 管内居住実態の把握状況	0 1 2 ③ 4 5	地域定住者が多い
	I-3 受持区の把握（所帯数、範囲の妥当性）	0 1 ② 3 4 5	ブロックに分割し割当
	I-4 統計資料の作成状況（犯罪発生・検挙状況）	0 1 ② 3 4 5	中隊からの情報
	I-5 交通事故の発生、取締り状況	0 1 ② 3 4 5	発生は少なく他所管内案件多
	小計	12/25	
交番活動状況	II-1 通報事案の処理状況	0 1 2 ③ 4 5	直接通報が多い
	II-2 遺失物・拾得物の取り扱い状況	0 1 2 ③ 4 5	引継簿を作成している
	II-3 広報紙の作成、内容、配布状況	0 ① 2 3 4 5	本年10月から毎月発行
	II-4 掲示板等の広報媒体の設置・活用状況	0 1 2 ③ 4 5	設置方向がやや不適切
	II-5 地域住民、民間協力団体との連携活動状況	0 1 ② 3 4 5	より広範な参加が必要
	II-5.1 交番連絡協議会の開催状況	● ● ● ● ● ●	コンセーギはなし
II-5.2 その他の協働活動の状況	● ● ◎ ● ● ●	地域自治会館あり	
	小計	12/25	
記録関係	III-1 教養・指示等に関する記録	0 1 ② 3 4 5	基本書式（指示記録）で対応
	III-1.1 幹部の巡視に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（巡視記録）で対応
	III-2 交番での活動の実施状況に関する記録	0 1 ② 3 4 5	
	III-2.1 勤務員引き継ぎに関する記録（事案関係・装備資機材）	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（引継記録）で対応
	III-2.2 勤務計画に関する記録（勤務計画表、警ら要点等）	● ● ◎ ● ● ●	
	III-2.3 巡回連絡の実施状況の記録の保管	● ◎ ● ● ● ●	実施率は約10%
	III-2.4 インテグラ・パトロール、学校パトロールに関する記録	● ◎ ● ● ● ●	中隊・大隊で対応
	III-2.5 交番以外の活動との連携に関する記録	● ● ● ● ● ●	中隊・大隊で対応
	III-2.6 PCの運用に関する記録	● ● ● ● ● ●	基本書式（PC運用記録）で対応
	III-2.7 福祉活動に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	活動をDVDにして広報
	III-3 通報事案に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	
	III-3.1 事件・事故の受理・対応に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.2 緊急通報（190番）対応に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.3 保留事案に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	
III-4 被害者の支援に関する記録	0 1 ② 3 4 5	被害者支援記録あり	
III-5 相談に関する記録	0 1 ② 3 4 5	交通事故以外の届け出記録あり	
III-6 地域との連携に関する記録	0 1 ② 3 4 5		
III-6.1 交番連絡協議会に関する記録	● ● ◎ ● ● ●		
III-6.2 その他の協働活動に関する記録	● ● ◎ ● ● ●		
	小計	13/30	
その他	IV-1 装備資機材の管理・保管状況	0 1 ② 3 4 5	
	IV-2 勤務員の服装・規律・士気	0 1 ② 3 4 5	
	IV-3 防災に関する状況（建物内外の状況、非常持出し指定等）	0 ① 2 3 4 5	消火器、非常出口等が未整備
	IV-4 勤務員の創意工夫	0 1 ② 3 4 5	
	小計	7/20	
	合計	44/100	

福祉活動の状況

管内にコンセーギはないが、地域自治会等の住民組織の活動は活発で、地区に自治会館も設置されている。管轄地域は古くからの定住者が多く農地が広がる比較的のどかな地域である。住民組織の結束は固く、後発 BCS ながらこれら住民組織の積極的な協力を得て、順調な活動を開始している。

日系人が多い地域でもあり、特に積極的に BCS をサポートしようとする人々の中に日系人が多いとのこと。BCS では、住民からの要望を取りまとめて、広報紙等で情報を発信し、地域との初めての協働活動として 10 月 20 日に、地区の道路の一部を歩行者専用道路として「子供の日フェスティバル」を行った。また、地域の有志の協力を得て、このイベントの様子を撮影して DVD を作り、行政当局へアピールすると同時に、イベントに参加した子供達に記念として配布するなど、都市部では見られない地域結束の固さが生かされている。

特記事項

交番長は、BCS でのプロジェクトが始まってから、日本研修での成果を積極的に日々の活動に移転しようと努めており、特に防犯活動において日本（石川県警）での経験を生かし、勤務員一人一人が受持区の治安維持に責任を持って、考えて活動するように指導しているとのこと。しかし一方で、日々の活動の細部においての具体的な指導における経験がないことから、是非、日本で経験を積んでいる警察官の指導、あるいは日本での研修が必要と感じている。

交番長は日本での研修で見た CR 名刺（コミュニティー・リレーション）をアレンジして、交番の写真と直通電話番号を印刷した独自の名刺を作成して、巡回連絡や警らの際に配布し活用するなど、日本研修の経験を活かした創意工夫が随所に見られる。「巡回連絡や警らの際の商店への立ち寄りや、金融機関での駐留警戒に併せてこの名刺を配ることで、電話での BCS への相談件数や、BCS を訪れる人が増えた」とのこと。

管轄する地域が住宅・農業地域という特性上からか、家屋内外に対する窃盗事件が最も多く、殺人事件は管内で 1 件のみと比較的少ない。しかし、犯罪情報に関して、中隊からインターネット経由で送付される資料（データ）、指示を待っている状況で、管内発生事件の分析や対策の立案に関して、中隊レベルでの指導、意見交換をより密接に行う必要がある。

	氏名・フリガナ	性別	階級	職名	勤務年数
対象勤務員	ロナルド・ミリトン・デ・オリベイラ Ronald Militao de Oliveira	男性	一等軍曹	交番長	現 BCS 9 年 警察歴 21 年
		M F			年
		M F			年
		M F			年
		M F			年

交 番 活 動 チェ ッ ク リ ス ト

対象交番名 ビラ・グメルシンド Vila Gumercindo	実施日 2007年 12月 3日 時間 09:50 ~ 10:15	担当者 終了時評価団員 警察庁 出宮良平
------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------

分類	評価項目	評価	特記事項
管内 実態 把握	I-1 地域の地形、交通網、危険箇所の把握状況（地図等の作成）	0 1 ② 3 4 5	各種地図作製の取り組みあり
	I-2 管内居住実態の把握状況	0 1 ② 3 4 5	新興住宅、商業地域
	I-3 受持区の把握（所帯数、範囲の妥当性）	0 1 2 ③ 4 5	ブロックに分割し指定
	I-4 統計資料の作成状況（犯罪発生・検挙状況）	0 1 ② 3 4 5	管内の発生分析はあり
	I-5 交通事故の発生、取締り状況	0 1 ② 3 4 5	記録、発生分析あり
	小計		11/25
交 番 活 動 状 況	II-1 通報事案の処理状況	0 1 2 ③ 4 5	直接通報に対する通報者保護
	II-2 遺失物・拾得物の取り扱い状況	0 1 ② 3 4 5	記録の後に郵便局へ引き継ぎ
	II-3 広報紙の作成、内容、配布状況	0 1 2 ③ 4 5	月1回、過去に5回発行
	II-4 掲示板等の広報媒体の設置・活用状況	0 1 2 ③ 4 5	設置場所、方向等は適切
	II-5 地域住民、民間協力団体との連携活動状況	0 1 ② 3 4 5	地域住民は変化を実感している
	小計		13/25
記 録 関 係	III-1 教養・指示等に関する記録	0 1 ② 3 4 5	基本書式（指示記録）で対応
	III-1.1 幹部の巡視に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（巡視記録）で対応
	III-2 交番での活動の実施状況に関する記録	0 1 ② 3 4 5	
	III-2.1 勤務員引き継ぎに関する記録（事案関係・装備資機材）	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（引継記録）で対応
	III-2.2 勤務計画に関する記録（勤務計画表、警ら要点等）	● ● ● ◎ ● ●	交番長の裁量で対応
	III-2.3 巡回連絡の実施状況の記録の保管	● ● ◎ ● ● ●	住宅・事業所の記録を保管
	III-2.4 インテグラ・パトロール、学校パトロールに関する記録	● ● ● ◎ ● ●	PROERD（学校指導）と連携
	III-2.5 交番以外の活動との連携に関する記録	◎ ● ● ● ● ●	中隊、大隊で調整（報告はあり）
	III-2.6 PCの運用に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	基本書式（PC運用記録）で対応
	III-2.7 福祉活動に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	地域意見・要望をBCSで集約
	III-3 通報事案に関する記録	0 1 ② 3 4 5	
	III-3.1 事件・事故の受理・対応に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.2 緊急通報（190番）対応に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	直接通報が多い
	III-3.3 保留事案に関する記録	● ● ◎ ● ● ●	
III-4 被害者の支援に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	事件通報者も含めた配慮あり	
III-5 相談に関する記録	0 1 ② 3 4 5		
III-6 地域との連携に関する記録	0 1 ② 3 4 5		
III-6.1 交番連絡協議会に関する記録	● ◎ ● ● ● ●	コンセーギへの関与は低調	
III-6.2 その他の協働活動に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	地域自治会との結束は固い	
小計		13/30	
そ の 他	IV-1 装備資機材の管理・保管状況	0 1 ② 3 4 5	
	IV-2 勤務員の服装・規律・士気	0 1 ② 3 4 5	
	IV-3 防災に関する状況（建物内外の状況、非常持出し指定等）	0 ① 2 3 4 5	消火器・非常出口等の整備
	IV-4 勤務員の創意工夫	0 1 ② 3 4 5	目立たないが着実に実施
小計		7/20	
合計		45/100	

福祉活動の状況

管内の孤児院の児童に対する、クリスマスのイベント等を地域住民組織等と協働して行っている。プロジェクトが始まるまでは、このような福祉活動は、全く行われていなかった旨。また、管内にある学校周辺の道路を歩行者道路として、青少年が健全に集う場所を提供しようとするなど、地域の規模に見合った活動が行われている。

交番長は、日本での研修経験者で、日本研修で見た駐在所勤務員の勤務態度を参考に、毎週行われる地域住民の会合にも積極的に参加する等、「親しまれる交番」、「顔が判る警察官」を目標に活動を行っている。

特記事項

交番長自らが「日本へ行って、考え方が変わった」と言うように、プロジェクト開始までは地域住民と交番（警察官）との付き合いは無く、被害届出があっても「今は車がないから行けない」というような対応も珍しくはなかった。プロジェクトの目標である「地域警察活動」の具体像を、日本警察から学び、慌てず確実に根付かせようとしている。最近では「地域の人々が受持勤務員の名前を覚えてくれて、立番をしても名前呼びかけてくれるようになってきた」とのこと。交番長は、「それでも、個々の警察官が理解して行動でき、かつ地域の理解と確かな協力関係を作るには10年かかるのではないかと、地道に続けてゆくしかない」と語るとおり、目立たないが堅実な活動を続けている。中隊長、大隊長のより深い理解を醸成し、現在の活動を確実に継続してゆくことが将来的に極めて重要と思われる。商店を営んでいるという管内の男性は、「以前は警察官が事件以外で店を訪ねてくることはなかったから、BCSの警察官が巡回連絡で初めて来たときは、近所の人は、店が強盗にやられたと思ったようだ」、「最近警察官個人と友人関係ができ、そのおかげで、昔は嫌だった警察もまんざら捨てたものではないな、と思うようになった」、「プロジェクトが始まって、日本の警察が支援していることは警察官から聞いて知っている、今の活動がもっと拡がれば良いと思う」と語った。

対象勤務員	氏名・フリガナ	性別	階級	職名	勤務年数
	ジョゼ・パウロ・アウベス・デ・リマ Jose Paulo Alves de Lima	男性	三等軍曹	交番長	現 BCS 1年 警察歴 13年
		M F			年
		M F			年
		M F			年
		M F			年

交 番 活 動 チェ ッ ク リ ス ト

対象交番名 ベレン ----- Belem	実施日 2007年 12月 5日 時間 14:50 ~ 15:40	担当者 終了時評価団員 警察庁 出宮良平
-----------------------------	--------------------------------------	-------------------------

分類	評 価 項 目	評 価	特 記 事 項
管内 実態 把握	I-1 地域の地形、交通網、危険箇所の把握状況（地図等の作成）	0 1 2 ③ 4 5	各種地図の作製は行われている
	I-2 管内居住実態の把握状況	0 1 2 ③ 4 5	高齢者が多い商業・住宅地域
	I-3 受持区の把握（所帯数、範囲の妥当性）	0 1 2 ③ 4 5	1997年に指定後、変更なし
	I-4 統計資料の作成状況（犯罪発生・検挙状況）	0 1 ② 3 4 5	事件発生記録あり
	I-5 交通事故の発生、取締り状況	0 1 ② 3 4 5	
	小計		13/25
交 番 活 動 状 況	II-1 通報事案の処理状況	0 1 2 ③ 4 5	基本書式で対応
	II-2 遺失物・拾得物の取り扱い状況	0 1 2 ③ 4 5	自主的な記録を作成
	II-3 広報紙の作成、内容、配布状況	0 1 ② 3 4 5	概ね3ヶ月に1回の発行
	II-4 掲示板等の広報媒体の設置・活用状況	0 1 2 ③ 4 5	
	II-5 地域住民、民間協力団体との連携活動状況	0 1 2 ③ 4 5	
	小計		14/25
記 録 関 係	III-1 教養・指示等に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	基本書式（指示記録）で対応
	III-1.1 幹部の巡視に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（巡視記録）で対応
	III-2 交番での活動の実施状況に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	
	III-2.1 勤務員引き継ぎに関する記録（事案関係・装備資機材）	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（引継記録）で対応
	III-2.2 勤務計画に関する記録（勤務計画表、警ら要点等）	● ● ● ◎ ● ●	交番長が策定し付与
	III-2.3 巡回連絡の実施状況の記録の保管	● ● ● ◎ ● ●	管内の50%実施済み
	III-2.4 インテグラ・パトロール、学校パトロールに関する記録	● ● ◎ ● ● ●	中隊対応（報告あり）
	III-2.5 交番以外の活動との連携に関する記録	● ◎ ● ● ● ●	中隊対応（報告あり）
	III-2.6 PCの運用に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（PC運用記録）で対応
	III-2.7 福祉活動に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	
	III-3 通報事案に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	
	III-3.1 事件・事故の受理・対応に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.2 緊急通報（190番）対応に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	基本書式（勤務記録）で対応
	III-3.3 保留事案に関する記録	● ● ● ◎ ● ●	
	III-4 被害者の支援に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	被害者支援記録あり
	III-5 相談に関する記録	0 1 2 ③ 4 5	個別相談記録あり
III-6 地域との連携に関する記録	0 1 2 ③ 4 5		
III-6.1 交番連絡協議会に関する記録	● ● ● ◎ ● ●		
III-6.2 その他の協働活動に関する記録	● ● ● ◎ ● ●		
小計		18/30	
そ の 他	IV-1 装備資機材の管理・保管状況	0 1 2 ③ 4 5	
	IV-2 勤務員の服装・規律・士気	0 1 2 ③ 4 5	
	IV-3 防災に関する状況（建物内外の状況、非常持出し指定等）	0 ① 2 3 4 5	消火器、非常出口等が未整備
	IV-4 勤務員の創意工夫	0 1 2 ③ 4 5	勤務員が総じてベテラン
小計		10/20	
合計		55/100	

福祉活動の状況

恵まれない子供たちを対象に、クリスマスのイベントを企画。当初は150人程度が対象であったが、現在は約3,500人を対象としている。

原資は、管内の銀行、企業、個人からの寄付によるが、警察官が巡回連絡等を通じてイベントの内容を通知し、募金の回収はコンセーギが行い、警察は資金の回収・執行にはかかわらず、透明性を確保するように努めている。

管内には公私立学校が8校あり、BCSによる福祉活動の一環として、勤務員の中で演劇の経験のある者が、劇の指導を行っている他、ホームレスの援助を行っているNPOとの情報交換・提供を続けている。

地域の特性として、高齢の居住者が多く、健康に関する情報について関心が高いことから、デング熱流行速報など、交番の広報紙とは別に作成して配布・掲示をしている。

交番の広報紙の発行は、3ヶ月に一度と、他のBCSと比較すると頻度が低く、発行の度ごとに用紙等の確保の為に地域からの協力を得ていることから、発行部数にもかなりのばらつきがあり、発行そのものが定期的とならない場合もある。

特記事項

犯罪発生状況や相談受理内容の分析と、管内の実態把握を通じて得られた情報を基本として、問題の多い地域（受持区）に経験を積んだ勤務員を配置している。問題が多いとは、単に事件発生等が多いというだけではなく、街灯が少なく夜に暗くなる道等も含んでおり、防犯的な活動も兼ねている。

プロジェクト開始前の1997年から巡回連絡に近い形での活動は始めている。プロジェクト開始後、巡回連絡の基本様式が定められたことから、所定の様式を使用して記録を行っている。管内での実施率は約50%で、効率よく進んでいる。

BCSでは、基本書式以外に、勤務シフトごとに各種活動での取り扱い件数等をまとめた一覧表を作成するなど、軍曹（交番長）の日本研修での経験を生かしたリーダーシップが随所に発揮されている。この活動内容の一覧表は基本書式に含まれてはいないが、今後、勤務員の実績管理には欠かすことのできない書式であろう。

現在の基本書式が制定される前から、ある程度類似した記録方法をBCSで行っていたことから、現在の基本書式に移行した際も大きな戸惑いはなく、他のBCSよりも勤務員全員スムーズに書類の作成を、記録を行っている。

	氏名・フリガナ	性別	階 級	職 名	勤務年数
対象勤務員	ブリテス Brites	男性	三等軍曹	交番長	年
		M F			年
		M F			年
		M F			年
		M F			年
		M F			年

BCS ごとの「良好点」、「改善を要する点」、「全体評価」

① 交番形式： Campo Grande カンポ・グランデ	1. 周辺環境	中低所得者が多く居住する住宅地域
2. 良好点	地域自治会等と協働して、福祉活動を積極的に行っている。BCSにおいて複数の地域団体の意見を取りまとめ調整するなど地域のリーダーとしても機能しており、その結果、地域住民の警察への親近感が増している。	
3. 改善を要する点	追加指定のBCSであり、巡回連絡の実施率等の向上、基本書式の作成の徹底と事件・事故等の統計資料の充実と活用が望まれる。BCSの本来目的である地域治安の安定のために具体的な犯罪対策を組織的に実施すべきである。	
4. 全体評価	追加指定BCSのため、活動の遅れは否めないが、基本書式による記録・保管は確実に行われている。パトロールカードを活用した警らなど工夫も見られる。福祉活動にやや偏った感があり、防犯活動を活発化すべき。	

② 交番形式： Rotary ホタリー	1. 周辺環境	比較的富裕層の多い住宅・商業地域
2. 良好点	BCSに対する地域住民のサポートは他のBCSと比較しても強力であり、プロジェクトの実施により、大きく変貌したBCSである。各種勤務は交番長（軍曹）の指揮のもと、適切に実施されている。	
3. 改善を要する点	集合住宅形式の建物が多くあり、居住者に対するアクセスが困難な場所もある。広報紙の個別配布や、各種集会への参加を促すなど、現在の広報手法にもう一工夫が必要。	
4. 全体評価	先行BCSの代表的存在であり、地域住民の協力も強い。繁華街近くにあることから、管内居住者は地域治安の変化に敏感で、BCS活動の変化も冷静に観察している。より地域との情報交換を強化しながら活動を継続すべき。	

③ 交番形式： Casa Blanca カサ・ブランカ	1. 周辺環境	住宅地域（定着）、農業地域
2. 良好点	コンセーギはないが、日系人も多くBCS活動に共感・協力する住民が多い。他のBCSも同様であるが、交番長（軍曹）の意識が極めて高く、強いリーダーシップを発揮し、BCSが住民の立ち寄り場所にもなっている。	
3. 改善を要する点	追加指定BCSであり、巡回連絡の実施率、広報紙の発行回数が低調。基本書式に関しても、利用開始から間がなく、記録、保管及び犯罪情報の分析に伴う警察活動の実施に関して中隊担当者の指導強化が必要。	
4. 全体評価	サンパウロの東に隣接するスザーノ市にあり、農地が広がる比較的のどかな地域であるが、侵入盗等の窃盗犯が多い等地域特性が顕著である。犯罪防止活動を強化することでよりBCS活動の幅が広がるのではないかと。	

④ 交番形式： Vila Gumerindo ビラ・グメルシンド	1. 周辺環境	集合住宅、学校、個人商店が多い住宅地域
2. 良好点	受持区の設定、勤務員指導、より効果的な警らの方法に交番長のリーダーシップが発揮されている。勤務員の適正配置に関する中隊の理解もあり、目立たないながら確実な勤務の継続を目指している。	
3. 改善を要する点	集合住宅に対する巡回連絡において、管理人・警備員の把握のみに留まっている住居が多い。交番速報等の広範な配布や、各種集会への参加を呼びかけるなど、理解をより得るための広報活動に一工夫が必要。	
4. 全体評価	交番長は日本研修での成果を確実に日常業務に移転している。以前は遅かった事件対応も改善され、住民が警察官個々の名前を知って親近感を持ち訪ねて来るなど徐々にではあるが、地道かつ確実な仕事ぶりは評価に値する。	

⑤ 交番形式： Belem ベレン	1. 周辺環境	高齢者層が多く居住する商業・住宅地域
2. 良好点	地域コンセーギにより建設されたBCS。1997年から今の形に近いBCS活動を継続していることから、地域住民の理解があり、勤務員も交番長（軍曹）以下、活動の内容を良く理解して、各自が自信を持って勤務している。	
3. 改善を要する点	ベレンBCSに限った事項ではないが、中隊への報告に関する規定が明確ではなく、BCSごとの活動内容を把握するために必要なデータの記録・報告が行われていない。	
4. 全体評価	先行BCSの中でもプロジェクト開始前から試験的に地域警察活動を展開している先駆的なBCSで、交番長からの要請によりシフトに女性警察官を入れる等、地域特性に配慮した配置も良好で、中隊長、大隊長の理解も深い。	

各チェック項目について

分類Ⅰ：管内実態把握

Ⅰ-1：地域の地形，交通網，危険個所の把握状況（地図等の作成）

本項目についてBCSごとのばらつきは少なく，概ね良好に実施されていると思われるものの，BCSに設置されている管内地図の内容については総じて不十分であり，更に改善・指導が必要と思われる。

また，管内地図以外の，事件・事故発生マップについて，事件（犯罪）発生状況を示す地図の作製は殆どのBCSで行われていたものの，交通事故の発生状況を示すマップが作成されているBCSはなかった。加えて，事件（犯罪）発生状況を示す地図についても，統一した様式・方式が定められていないためか，表示の方法等がBCSごとに異なっている。

更に，管内の危険個所の有無について質問したところ，いずれのBCSにおいても「特に危険な場所はない」とするものの，管内に流れている河川堤防からの児童の転落や，高齢者には横断が不自由な車線数の多い道路に設置された横断歩道等，日本的に見れば十分に危険個所と思われる場所があるにもかかわらず，示されはしなかった。このような点については，管内実態の把握という，地域警察活動の根幹の活動に関するきめ細かい教養資料（教科書的なもの）を用意し，一般的あるいは日常的に見れば危険ではない場所が，天候や年齢等によっては危険になること等を具体的に指導すべきである。

Ⅰ-2：管内居住実態の把握状況

本項目については，いずれのBCSも概ねの管内居住実態の特徴，住民数の質問には即答できたが，逆に所帯数の質問に即答したBCSはなかった。管内の事業所・所帯数の把握は，管内実態把握における基礎事項の一つであり，事業所数・所帯数の把握が巡回連絡の実施実績の一つとも言えることから，同じく管内実態把握の重要な項目の一つである前記Ⅰ-1の事項と併せて，管内居住実態の把握に関して具体的に必要な項目とその重要性を示した指導要領とガイドラインが必要と思われる。

Ⅰ-3：受持区の把握（所帯数，範囲の妥当性）

受持区については，訪問した全てのBCSにおいて，BCSの所管区と勤務員が担当する受持区の指定が行われていたが，BCS所管区の設定の基準は，作戦マトリクスが実施される前に，機動警らを担当するPCの受持区として定められていた2平方kmをBCSの所管区として割り当てている。また，勤務員に指定されている受持区については，ブロック（区画）で指定しているBCSが殆どであるが，カンポ・グランデのように通りごとに指定しているBCSもある。この，一律2平方kmとする所管区の指定方法や，受持区の区分については，今後の管轄区域内の土地開発等の状況に応じて，適宜柔軟に対応する必要があることから，所管区の指定について，基準となる面積や所帯数（人口）を示したガイドラインを設定すべきであろう。

また，巡回連絡等の基準となる受持区の指定については，ブロック（区画，あるいは面）を単位とすべきか，通りごとに単位とすべきかは，現在各BCSにおいて実施されている現状を把握，分析し，いずれは一定の基準を示すべきである。この受持区を面で捉えるか線で捉え

るかについては、他国で行われている地域警察活動に関するプロジェクトにおいても概念が定まっていない。そもそも日本のように××町△△丁目というような住居表示方法を採用している国は少なく、多くの諸外国では××通り△△番地という住居表示が一般的である。タイ王国のように大通りの北側の路地には奇数番号、南側の路地には偶数番号というような判りやすい設定が行われていれば区分も容易かと思われるが、固有の通り名に加えて建設された順番に住居番号が付与されていた場合等は通りごとの割当てでは混乱を来すことも考えられるが、現時点では一概にどちらかに規定する必要はなく、現状を試行期間とし、その地に合った手段・方法を決めるべきである。

I-4：統計資料の作成状況（犯罪発生・検挙状況）

本項目について、それぞれの管内での事件（犯罪）発生については、いずれのBCSにおいても発生状況を把握して発生マップの作成が試みられていたが、一部のBCSで「犯罪発生の統計データについては中隊から連絡を受けている」との回答があった。いずれ地域警察活動が広範囲に展開されることが前提である以上、日本の警察署的な立場にある中隊、あるいは方面本部的な大隊において、管轄地域内での犯罪発生状況を俯瞰的に把握するための統一された犯罪発生件数からの状況分析は重要な手段となることから、事案受理後の実質的な捜査を担当する文民警察との協議（意見交換）も行って、適切な手法を用いる必要がある。

I-5：交通事故の発生、取締り状況

いずれのBCSにおいても、交通事故発生の届け出については、基本書式を用いて記録されており、その場でパソコンを用いて事故受理証明を発行しているBCSもあるが、交通事故の発生状況の把握、事故の分析が行われているBCSは少ない。今後、高齢者・児童等の保護活動を考える上で、交通事故の未然防止は一つの柱になり得るものであり、管内の交通事故、違反状況を把握した上で、現在、BCSで行われている基本活動に加えて歩行者の多い時間帯における交通監視や交通保護立番を活動の一要素に加えることも効果的ではないかと思われる。

分類Ⅱ：交番活動状況

Ⅱ-1：通報事案の処理状況

本項目は、BCSへの事案・事件通報処理の状況、及びその内容の記録状況について調査した。概ねいずれのBCSにおいても、作戦マトリクス実施に伴い制定された基本書式を用いて記録されており、問題はない。通報の方法については、日本の110番に相当する190番による通報よりも、BCSに設置されている加入電話への直接通報が比較的多いようであるが、今後は、事案の軽重によってBCSに対する加入電話等による直接通報受理後の対応方法（中隊へ受理概要の即報、通信指令室への連絡と応援態勢の確保）を整備して、BCS限りでの対応ではなく、組織として事件に対応する体制と習慣を制度化する必要がある。

Ⅱ-2：遺失物・拾得物の取り扱い状況

遺失物・拾得物に関しては、日本と異なりその処理手続きは郵便局で行われることとなって

いる。そのため、警察（BCS）はあくまでも一時的に預かる場でしかなく、基本書式にも遺失・拾得物に関する書式は定められていない。今回訪問した BCS の多くでは交番長が日本の交番での研修の際に得た知見を活かして、独自に拾得物処理のための書式を設定し、その処理に誤りのないよう配慮しているところもあった。将来的には、特に拾得物の処理において、その物品の内容によっては、BCS での紛失などが疑われた場合に大きな紛議になることも考えられる。必要以上に BCS での活動に関する基本書式を増やすことは、事務負担を増すだけで効果的ではないところ、現行の書式を活用し取り扱い日時、担当者を明記した記録方法を制度化すべきである。

II-3：広報紙の作成、内容、配布状況

広報紙の作成は全ての BCS で積極的に行われ、地域住民からの反応も良い。それぞれが地域の特色を生かしながら、防犯に関するニュースや、BCS でのトピック等、読み手の意識を考えた記事を発表しており、その内容の充実度は総じて高い。発行の頻度や部数に BCS ごとのばらつきがあるが、いずれの BCS においても、発行部数に応じた効果的な配布先の選定や、インターネットを利用した電子データでの配布等、相応の努力がなされており、今後も現在の状況をより発展させ、定期的に継続した発行を行ってゆくべきである。

II-4：掲示板等の広報媒体の設置・活用状況

今回訪問した全ての BCS で掲示板が設置されている。いずれも BCS 敷地内で建物に近接した場所にあり、殆どの BCS において設置場所、方向等は良好であったが、一部の BCS において特定の方向からしか視認できない向きに設置されていた。掲示されている広報資料は、広報紙や福祉活動の内容や結果、あるいは行方不明人の発見通報依頼等で、視察中にも立ち止まって見入る歩行者もいた。今後も掲示板を効果的に活用する事に加えて、開閉レール部分の掃除や注油、本体の錆び落としなどのメンテナンスを心がける必要がある。また、いずれの BCS においても、掲示板のスライド・ガラスに鍵がない点が日本と異なるが、必要性があれば設置すべきである。

II-5：地域住民、民間協力団体との連携活動状況

地域を取りまとめる代表的な団体はコンセーギであり、一部の BCS は、その地域のコンセーギの寄付により建設されている。しかし、コンセーギそのものは行政による主導で設置されている団体で、全面的に警察が主体として活動を実施することが困難である地域も多く、一部の BCS では、管内にコンセーギが組織されていない所もある。しかしながら、いずれの BCS においても、コンセーギ、あるいは地域に以前からある住民組織や、BCS を地域の治安拠点として警察活動を支えようという自主的組織が結成されている。これらの地域住民組織・団体との関係は総じて良好であり、BCS と協働して福祉活動などが積極的に行われている。また、BCS の交番長、勤務員も、これらの住民組織・団体との良好な関係維持の重要性は深く認識している。今後は、現状の住民組織・団体との良好な関係を維持し、相互の情報交換を活発化させると同時に、現在のこれらの組織・団体ではカバーできていない地区での組織化を行うことが必要である。

ブラジルでは、日本のように警察官と地域住民の合同パトロールは法的に規制があり実施が

困難であるが、BCS ベレンでは「一緒にパトロールすることはできないが、日本で見た防犯キャンペーンのような、街頭でチラシ等を配布して協力を呼びかける活動は可能と思っている。難しいが何とかやってみたい。」という意見もあった。

分類Ⅲ：記録関係

Ⅲ-1：教養・指示等に関する記録

幹部による教養，指示，巡視に関する記録は，いずれのBCSにおいても所定の基本書式を用いて記録化されていた。BCSでは交番長が中隊からの指示等の重要事項を部下に伝達する立場にあることから，交番長がどのように具体的な指示を行っているかを，中隊に所属する幹部が確認してゆく必要がある。今回は確認できていないが，BCSにある巡視記録に対応した「巡視実施記録」があるはずであり，記録化されていることと史料するが，巡視時の確認だけでなく，定期・不定期に交番長を中隊へ招集する等しての会議や，個別面接等，現場活動でも最も核となる交番長クラスの継続的な意識強化を図ってゆく必要がある。

Ⅲ-2：交番での活動の実施状況に関する記録

交番活動に関する記録については，基本書式で概ねカバーされている。今後，活動の充実・拡大に応じて書式の統廃合，あるいは新規書式の追加の必要性が考えられるが，前述のとおり，むやみに書式を増やすのではなく，現行の書式の記載方法の指定，項目の追加等，合理的な方法を用いて事務処理負担を増やすことなく，本来のBCS活動に専従できる形での書式変更が望ましい。

基本書式では，作戦マトリクスの活動単位である「インテグラ・パトロール」，「学校パトロール」等の地域警察活動以外の活動との連携に関する書式がないが，BCSがこれら作戦マトリクスで規定された活動の地域拠点として活用することも効果的かと思われるため，その他の活動の実施状況や配置場所などの情報をBCSで共有してBCSでの活動との連携を図ってゆく必要があるのではないかと史料する。

Ⅲ-3：通報事案に関する記録

本項目についても，基本書式により概ね網羅されており，今回訪問したBCS全てにおいて，同書式による記録が行われていたが，個々の事案に関しての記載内容（事項）については確認していない。記載が確実に行われているか，また，記載内容が適切であるかについては，各BCSの交番長の指導を重ねると同時に，中隊の担当者による巡視，適宜の業務指導を行い，充実を図ってゆく必要がある。

Ⅲ-4：被害者の支援に関する記録

被害者支援に関しては，いずれのBCSにおいても記録化が図られおり，良好な対応が実施されていた。被害者支援は，地域社会における警察の信頼と信用を高める上で極めて効果的と思われるところ，今後，定期的に被害者支援月間を設定したり，被害者支援担当官を設定したりする等して，より充実させてゆくことが望ましい。

Ⅲ-5：相談に関する記録

本項目についても、いずれのBCSにおいても交通事故届け等の事案（事件）通報とは区別して記録・保管が行われていた点は良好である。BCS グルメシンドでは、前記の「被害者の支援に関する記録」と「警察相談に関する記録」については、個人情報が多く含まれ、安易にその内容が知られることにより、被害者・通報者に危険が加わるとのきめ細かい配慮から、交番長がこれら情報を一括して責任管理する体制をとっている。警察相談の中には、家庭内暴力等の犯罪の端緒となる情報が含まれている場合も多いことから、今後は、警察相談だけでなく、BCS活動を通じて勤務員が知り得た情報を報告するA4 1枚の様式を用いた申報制度（活動報告）の必要性も考慮するべきではないか。

Ⅲ-6：地域との連携に関する記録

本項目について特化した基本書式は制定されていないものの、いずれのBCSにおいても地域団体等との連携活動（福祉活動を含む）を行う起案段階からの一連の書類を記録・保管しており問題はない。今後は、これらの活動により得られた教訓や反省、計画・実施段階での注意点や良好点等を中隊単位で吸い上げ、他のBCSでの活動において活用できる体制が必要である。

分類Ⅳ：その他

Ⅳ-1：装備資機材の管理・保管状況

いずれのBCSにおいても、BCS備え付けの備品に関しては概ね良好に管理・活用されていると感じたが、基本書式の簿冊管理を見ると、施錠される場所に保管しているところと無施錠の場所に保管している（交番長室を含む）場所というようにばらつきが見られた。BCS保管簿冊は、いずれも警察活動における記録であり、基本的に保秘が必要となる内容と思料するところ、これら簿冊の保管方法について均一な基準を設けるべきである。

Ⅳ-2：勤務員の服装・規律・士気

勤務員の服装や態度は、全てのBCSで日本の平均的な交番勤務員のそれよりも、むしろ良好ではないかと思われた。特にBCS前での立番に当たっている男女勤務員の態度は堂々としており、周囲や通行人にも気を配る等、警察官として模範にすべき状況である。日本からの視察が来るから準備したのではという想像もできるが、道行く通行人が立番中の警察官と気軽に挨拶を交わしたり、地理教示を受けたりしていること等を見ると、付け焼き刃的なものではないことが判る。今後もこのような規律正しい服装・態度を是非続けて頂きたい。

Ⅳ-3：防災に関する状況（建物内外の状況、非常持ち出し指定等）

本項目に関しては、直接BCSの活動内容に直結する項目ではないが、今後、軍警において検討し、改善の必要があれば対応する必要がある。防災面で見れば訪問したBCSにおいて一見して判る場所に消火器の配備がなく、また、BCSの出入り口が一箇所だけである等、改善すべき点が見受けられる。

IV-4：勤務員の創意工夫

いずれの BCS においても、警察軍曹クラスの交番長のアイデアを活かした活動が行われている。今回訪問した BCS においても、日本での研修を受けた交番長が、日本で得た知見をブラジル式にアレンジしながら試行錯誤を繰り返し実体化してゆこうとする積極的な態度が見られた。しかし、交番長の構想を勤務員が充分理解しているかについては、やや疑問に思われることもあったことから、中隊でも BCS 交番長との意見交換を密に行い、BCS が一体となって活動できるような支援を行うべきである。

対象者別質問事項

以下、想定している対象者

I. プロジェクトマネージャー（ブランドダウン GPC 司令官）

II. 専門委員会（Working Group の別名あり）のメンバーとその長であるカストロ中佐＝作戦企画課長（委員会を構成する中隊長らであり各パイロット地区の中隊長を中心メンバーとした軍警察幹部、を統括し管理するポスト）

III. 警察学校の「地域警察活動」に関する授業を行っている、あるいは管理している立場にある教官（2 と重なる場合は、省略）

IV. 先行パイロット BCS（BCS 所長/BCS 勤務員）

注参照

V. 後発パイロット BCS（BCS 所長/BCS 勤務員）

VI. 住民代表：【住民代表は、コンセーギが機能しているところは、コンセーギの代表。それ以外は交番連絡協議会の住民代表としたいが、連絡協議会が存在しない場合については、だれに聞くべきかについては現地にて要相談】

VII. 日本人長期専門家（現在派遣中）

注：

視察するパイロット BCS の選択に関して：実際に視察する BCS 数は 3～4 程度になると考えています。従いまして視察先選定に関して、以下の 2 つのオプションがありますが、現実的にはオプション（2）になると考えます。

オプション（1）：グッドプラクティスとその反対例の比較：現地のプロジェクト関係者が特に「よく成果が出ている」と感じている BCS と「厳しい・・・」と感じているところをそれぞれ一つずつ視察し比較分析することで、何が成功のキーであり、何が交番制度の強化普及の壁になりうるのかについて見出すことを試みる。しかしながら、この悪い例の方を推薦していただき訪問することはなかなか現実（倫理上も）困難であり、実際にはオプション（2）となることが多いです。今回、それで十分だと判断します。

オプション（2）：グッドプラクティスのみ：よく頑張っている、改善が著しい、という BCS の上位から選んで、何が成功のキーかを見出だすことを試みる。そこで聞き取りから、グッドプラクティス拡大に関する意見を聞く。

1. プロジェクトマネージャー（ブランダウン CPC 司令官）

基本的には、評価グリッドに沿って全項目について確認するが、以下の点については、特に詳細に伺いたい。

上位目標達成見込み

1. 2013年までに、サン・パウロ州全土で交番制度が拡大して、地域警察活動が実施される（指標）という状況が具現化すると思いますか。もし、そのように感じる場合は、その根拠を示してお話下さい。

プロジェクト目標達成の見込み

2. 外部条件達成のための外部条件として「サン・パウロ州政府の強いコミットメント」が必要であることが示されていますが、これ（強いコミットメント）は存在すると判断しますか？また、その根拠を教えてください。

3. プロジェクト目標達成の見込みに関して、プロジェクト側からの報告書に「サン・パウロの現実に即した交番システムの強化が見込まれる」と最新報告されてきていますが、**サン・パウロの現実に即する**ということが、具体的にはどういうことか、根拠を示してお話頂けませんでしょうか。

4. 交番運用マニュアル（例えば、地域警察活動の根幹をなす巡回連絡の実施要領に関する詳細マニュアルなど）は、準備が進んでいますか。

5. サン・パウロにおいてプロジェクト終了後も自立発展的に実施していくことのできる交番モニタリングができつつあると判断されますか。具体的な根拠を示してお話下さい。

6. 「交番活動チェックリスト」は活用されていますか。また、この形がBCSの普及拡大の流れで活かされていくとお考えですか。

7. 交番活動チェックリストの5段階評価は、判断して記入する際、判断の根拠となるなんらかの目安（より客観性を高めるための判断基準）は別途示されていますか。

8. 首都警察と大SP圏警察と地方警察との間で定期的な協議をするメカニズムはありますか。交番制度をより経験値の高い首都警察からそれ以外の組織に拡大するにあたり、何かコミュニケーション上の課題はありますか。

9. プロジェクト管理のためにPDMを日常的に参照していますか。

自立発展性確保に向けて

10. 太田短期専門家が提言した以下の点について、何らかのアクションを起こしていますか。

- (1) 日本での研修を終了した者のセミナー講師としての活用
- (2) 指導員制度の採用
- (3) 地域警察指導官等の育成と積極的運用
- (4) 地域リーダー（警察と住民のパイプ役）の選出・活用
- (5) コンセーギに対する教養
- (6) 住民との合同パトロール
- (7) 交番協議会の結成

11. 合同調整委員会の開催状況について教えてください。開催されていない場合は、その理由。

12. 専門委員会は、プロジェクト目標達成に貢献したとお考えですか。もし、そうだとすると、具体的にどのような活動、あるいは機能が貢献したと言えるのでしょうか。また、プロジェクト期間終了後にどのように拡大普及に貢献することができると思いますか。

11. 専門委員会（Working Group）メンバーとその長であるカストロ中佐＝作戦企画課長（委員会を構成する中隊長らであり各パイロット地区の中隊長を中心メンバーとした軍警察幹部、を統括し管理するポスト）

上位目標達成見込み

1. 2013年までに、サン・パウロ州全土で交番制度が拡大して、地域警察活動が実施される（指標）という状況が具現化すると思いませんか。もし、そのように感じる場合は、その根拠を示してお話下さい。

プロジェクト目標達成の見込み

2. プロジェクト目標達成の見込みに関して、プロジェクト側からの報告書に「サン・パウロの現実に即した交番システムの強化が見込まれる」と最新報告されてきていますが、**サン・パウロの現実に即する**ということが、具体的にはどういうことか、根拠を示してお話頂けませんでしょうか。

3. 交番運用マニュアル（例えば、地域警察活動の根幹をなす巡回連絡の実施要領に関する詳細マニュアルなど）は、準備が進んでいますか。

4. サン・パウロにおいてプロジェクト終了後も自立発展的に実施していくことのできる交番モニタリングができつつあると判断されますか。具体的な根拠を示してお話下さい。

5. 「交番活動チェックリスト」は活用されていますか。また、この形が交番の普及拡大の流れで活かされていくとお考えですか。

6. 交番活動チェックリストの5段階評価は、判断して記入する際、判断の根拠となるなんらかの目安（より客観性を高めるための判断基準）は別途示されていますか。

7. 皆さんの構成する専門委員会は、プロジェクト目標達成に貢献したとお考えですか。もし、そうだとすると、具体的にどのような活動、あるいは機能が貢献したと言えるのでしょうか。また、プロジェクト期間終了後にどのように拡大普及に貢献することができると思いませんか。

8. プロジェクト管理のためにPDMを日常的に参照していますか。

III. 警察学校の「地域警察活動」に関する授業を行っている、あるいは管理している立場にある教官（IやIIと重なる場合は、省略）

1. 警察学校であなたが教える際、「地域警察活動」という教科そのものが存在した方がいいと思いますか。
2. あなたが、地域警察活動に関して教える際、どの程度の自信をもって行うことができますか。
3. 先行パイロット BCS 関係者が後発パイロット BCS に、経験やノウハウを「伝える・教える・指導助言する」際に何が困難な点だとお考えですか。
4. 経験やノウハウを「伝える・教える・指導助言する」ということに関して、以下の具体的なアイデアに関してご意見があれば教えて下さい。
 - (1) 日本での研修を終了した者のセミナー講師としての活用
 - (2) 指導員制度の採用
 - (3) 地域警察指導官等の育成と積極的運用
 - (4) 地域リーダー（警察と住民のパイプ役）の選出・活用
 - (5) コンセーギに対する教養
 - (6) 住民との合同パトロール
 - (7) 交番協議会の結成

IV. 先行パイロット BCS (BCS 所長/BCS 勤務員) に対して

1. このような(あなたの今勤務するような) BCS というものが他の地域の皆さんのためにもあった方がいいと思いますか。
2. パイロット BCS として今年 4 月に、さらに 12 の BCS がパイロット交番に指定され活動を行っていますが、知っていましたか。それら後発パイロット BCS との関わり(研修で経験を話したり、視察を受け入れたりなど)は何かありますか。
3. パイロット BCS となったことで、以前と比べて変化したことを教えてください。
4. プロジェクトの中でパイロット BCS となり困った(今後の課題、実現が極めて困難な目標など)ことはありますか。
5. プロジェクトで表現されるパイロット BCS になるために、だれがどのような指導をしてくれましたか。BCS 所長や BCS 勤務員はどのようにパイロット交番になるために学びましたか。
6. 交番運用マニュアル(例えば、地域警察活動の根幹をなす巡回連絡の実施要領に関する詳細マニュアルなど)は、ありますか。
7. もし、現在なければ、そのことで困ったことがありますか。もし、困った時はどのように対処しましたか。
8. 「交番活動チェックリスト」は活用していますか。もし、していない場合は、その理由を教えてください。

V. 後発パイロット BCS (BCS 所長/BCS 勤務員) に対して

1. このような (あなたの今勤務するような) BCS というものが他の地域の皆さんのためにもあった方がいいと思いますか。
2. パイロット BCS に指定される前に、8 つの先行パイロット BCS について知っていましたか。
3. パイロット BCS となったことで、以前と比べて変化したことを教えてください。
4. プロジェクトの中でパイロット BCS となり困ったこと (今後の課題、実現が極めて困難な目標など) はありますか。
5. プロジェクトで表現されるパイロット BCS になるために、だれがどのような指導をしてくれましたか。BCS 所長や BCS 勤務員はどのようにパイロット BCS になるために学びましたか。
6. 交番運用マニュアル (例えば、地域警察活動の根幹をなす巡回連絡の実施要領に関する詳細マニュアルなど) は、ありますか。
7. もし、現在なければ、そのことで困ったことがありますか。もし、困った時はどのように対処しましたか。
8. 「交番活動チェックリスト」は活用していますか。もし、していない場合は、その理由を教えてください。

VI. 住民代表

【住民代表の意見（住民代表は、コンセーギが機能しているところは、コンセーギの代表。それ以外は BCS 連絡協議会の住民代表としたいが、連絡協議会が存在しない場合については、だれに聞くべきかについては現地にて要相談）】

1. あなたは、地域の BCS とどのような共同活動を行っていますか。
2. その活動の中で、うれしかったこと（良い経験）があったら教えてください。
3. 共同活動に限りませんが、BCS の活動が地域のために役立っていると感じますか。もし、感じるとしたら具体的にどんな時、ことですか。
4. このような BCS が他の地域の皆さんのためにもあった方がいいと思いますか。
5. 自分自身はどの程度 BCS との活動に参加していると思いますか。
6. コンセーギなどと BCS の関わりはもっと密な方がいいですか。

VII. 日本人専門家

基本的には、評価グリッドに沿って全項目について確認するが、以下の点については、特に詳細に伺いたい。

上位目標達成見込み

1. 2013年までに、サン・パウロ州全土で交番制度が拡大して、地域警察活動が実施される（指標）という状況が具現化すると思いますか。もし、そのように感じる場合は、その根拠を示してお話下さい。

プロジェクト目標達成の見込み

2. プロジェクト目標達成の見込みに関して、プロジェクト側からの報告書に「サン・パウロの現実に即した交番システムの強化が見込まれる」と最新報告されてき**サン・パウロの現実に即する**ということが、具体的にはどういうことか、根拠を示してお話頂けませんでしょうか。

3. 交番運用マニュアル（例えば、地域警察活動の根幹をなす巡回連絡の実施要領に関する詳細マニュアルなど）は、準備が進んでいますか。

4. サン・パウロにおいてプロジェクト終了後も自立発展的に実施していくことのできる交番モニタリングができつつあると判断されますか。具体的な根拠を示してお話下さい。

5. 「交番活動チェックリスト」は活用されていますか。また、この形が交番の普及拡大の流れで活かされていくとお考えですか。

6. 交番活動チェックリストの5段階評価は、判断して記入する際、判断の根拠となるなんらかの目安（より客観性を高めるための判断基準）は別途示されていますか。

7. プロジェクト管理のためにPDMは日常的に参照されていると思いますか。

8. PDM上の指標は、カウンターパートと目標値として共有できていると思いますか。

9. 首都警察と大SP圏警察と地方警察との間で定期的な協議をするメカニズムはありますか。交番制度をより経験値の高い首都警察からそれ以外の組織に拡大するにあたり、何かコミュニケーション上の課題はありますか。

10. 日本人長期専門家として1名が常駐することで、プロジェクト目標達成に関して何らかの困難を感じましたか。

自立発展性確保に向けて

11. 太田短期専門家が提言した以下の点について、何らかのアクションを起こしていますか。

- (1) 日本での研修を終了した者のセミナー講師としての活用
- (2) 指導員制度の採用
- (3) 地域警察指導官等の育成と積極的運用
- (4) 地域リーダー（警察と住民のパイプ役）の選出・活用
- (5) コンセーギに対する教養
- (6) 住民との合同パトロール
- (7) 交番協議会の結成

12. 専門委員会は、プロジェクト目標達成に貢献したとお考えですか。もし、そうだとすると、具体的にどのような活動、あるいは機能が貢献したと言えるのでしょうか。また、プロジェクト期間終了後にどのように拡大普及に貢献することができると思いますか。

パイロット BCS 訪問時間き取り回答

視察第一日目：11月30日（金）

1. カンポ・グランジ BCS（地方警察管轄下） 住民サポーター
（商業店主、男性） 10時40分頃より約20分間

- 自分自身はコンセーギのメンバーではない。コンセーギは、各区域で政治家や教会、商店主などが構成員となって形成されている。自分はいくまでも BCS のサポーター、ボランティアとして来ている。
- 25年間ほど存在している清掃用品を販売する店を8年前からオーナーとして経営している。BCS との関係は、5年ほど前からだ。すでに、8年前に BCS はあったらしいが、それほど認識がなかった。しかし、5年位前からは、BCS 側がアプローチしてきた。
- 当 BCS が本年 2007 年 4 月からプロジェクトのパイロット BCS となったことにより、自転車パトロールが実施されたり、住民との接触が増えてより身近になり、州軍警察のイメージがアップした。
- BCS のニュースレターを店に置いて配布している。これは、自分を含む 5 人のリーダー（住民サポーター）が、各自コピーして配布するものだ。住民も関心を持ってきている。ニュースレターはこれまでに 1 回だけだが、ニュースレターよりも簡易なフライヤーなどはさらに頻りに配布している。また、店の掲示板にニュースレターを貼り付けているが、だれもやぶったりせず読んでいます。
- BCS との打ち合わせ（会合）などに参加することはそれほどないが、BCS 所長がお店に回ってきてくれた時、色々話を聞いている。
- 自転車でのパトロールは毎日行っている。特に、給料の運搬日は頻りにやってくれている。
- 日本文化のことも影響を受けている。2008 年に移住 100 年祭を迎えるが、日本が好きである。

女性（職業は未確認）10時40分頃～11時20分頃まで

女性（弁護士）10時40分頃～11時20分頃まで（上記女性と同時にインタビュー）

- 住民との共同活動としては、自転車サイクリング（警官も一緒に参加）、貧しい子どもたちへのクリスマス・ギフト、安全キャンペーン、ミニ・ジャパン・フェスティバル（料理を出したり、民芸品を売ったり、歌や踊りを楽しむ）などを実施している。
- 1年前から BCS への協力が始まったが、きっかけは、巡回連絡（自宅や事務所）に来てくれたことだ。
- 以前の BCS のイメージは「問題があった時に行く」というものであったが、今は、警察と住民との壁がとれたという印象。
- 各イベントにていつもうれしい思いをしているが、老人（厚生）ホームで JICA ボランティアが入って福祉活動をしており、その活動では喜ばしいことを多く経験する。

2. カンポ・グランジ BCS（地方警察管轄下） BCS 勤務員
（男性） 11時半から約20分間

- 現在部署に勤務して約3年半。学校を卒業したあと、大隊に配属され、その後この BCS に配属された。
- 本プロジェクトのパイロット BCS 認定前と後での相違は、次のような点である。まず、州軍警察からのサポートが大きくなった。日本での研修を BCS 所長が受講し、その際に学んだことを私たち BCS 勤務員に色々教えてくれる。また、パイロット BCS 以外の

BCS 関係者や住民にも説明している。書類や、レポートの書き方については、以前は好きなように書いていたが、現在は決められた書式に記入するようになり、仕事はやりやすくなった。

- これらのことについては、地域警察の研修がサンパウロ州としてあるが、2年半のBCS勤務を経て、5日間の研修を受講した。
- 巡回連絡は、受け持ち区を設定して行っている。自分は研修を受講したという点では、BCSで1人目のBCS勤務員だ。その意味から他のBCS勤務員に伝え教える立場にあり、一生懸命にお手本を示すつもりでやる必要がある。BCS勤務員は、業務が分業されているわけではなく、自転車パトロールもやれば、巡回指導も行うなど、マルチにできることが求められている。
- 受け持ち区については、通りごとに担当を決めており、自分の担当に関しては、ここは電灯が不足して暗いなど気にとめる等、普段から注意をして活動している。
- BCS運用マニュアルは、参照している。
- 警察官の業務が好きだ。クリスマスに貧しい子どもたちにギフトを贈るなどの活動は、警察が住民の味方だという意識を覚醒させ、困った人を助けることができると実感できるのでうれしい。
- BCS勤務員として困ったことは特にないが、しいて言えば、夏にパトロールを行う際、防弾チョッキを着用しなければならないが、暑くて汗だくになることくらいだ。
- 住民との共同活動の財源は、住民ボランティアから募るだけでなく、企業にも協力してもらっている。また、金銭面のみでなく、例えばバス広告にキャンペーンの宣伝を無料で掲載してもらったり、その広告を印刷会社に無料で請け負ってもらったりすることによる協力もある。クリスマスに子どもたちに洋服・靴・おもちゃを入れたギフト袋を贈るなら、具体的に何人分のいくらが必要だという積算をして協力を依頼する。

3. ホタリーBCS（首都圏警察管轄下） 住民サポーター
（男性） 3時35分から約30分間

- 35年間この地域に住み、仕事は定年で引退しているものの、グラフィックデザイナーなのでまだ一定の仕事はしている。BCSのすぐそば（徒歩30秒）に、家も会社もある。
- 彼自身は、コンセーギのメンバーでもなければ、ロータリークラブのメンバーでもない。BCSを支援する住民ボランティアである。BCSサポーターの住民には、すぐお向かいの写真店であるマリナさん（日系人）やセシリアさんなど女性もいる。彼女たちはBCSにお菓子を差し入れてくれたりする。
- 現在は、治安も落ち着き問題も少なくなった（おかま出現も窃盗も減った）ので、昔ほど頻繁にはBCSには集まらないが、必要があれば集まる。
- 問題があった際に、190番通報するのも良いかもしれないが、身近にBCSがあるのでそこに助けを求めていくほうが早い。そのような安心感がある。その意味で、このようなBCSがブラジル全土にあればいいと思う。
- 夫婦けんかでも親身になって聞いてくれるなど、地域警察のBCSが住民に身近になった。
- BCSとのつながり：35年前に引っ越してきた時は、ここ周辺的环境は大変良かった。しかしながら、商業的おかまがうろつくなど次第に治安が悪くなり、1994年にこの状況を改善すべくPolice Postが設置された。ロータリー広場に認定されるため（図書館などあり）にはそれを法人格にする必要があった。そこで、地域の住民が銀行やロータリークラブの支援を受けてこのような広場（BCSを含む）にした。当時は警察と市民の壁というものが大きかった。

- Police Post 当時は「地域警察」というコンセプトがなかった。当時、警官は2名しか配置されておらず、建物も極めて限定な（狭い）ものであった。しかし、本プロジェクトのパイロットBCSとなってからは、建物も増築され、13名の警官が配備され（シフト制）、地域警察とは何をすることかを住民に説明してくれるようになった（巡回連絡を通じて）。当初は、私は個人情報を出すのをためらったが、説明を聞いて納得して個人情報も出すようになった。また、BCSに立ち寄ってちょっとコーヒーでも飲んでいこうかという雰囲気になり、BCSと住民との間が縮まった。
- 住民との共同活動としては、ファベラに住む貧困地域の子どもたちを対象に、歯科治療を提供、12月に始まるサッカー大会、6月祭り（ブラジルのお祭り）、ブラジル商業連合の支部と連携したイベントなどがある。ファベラの子どもたちとの窓口は、ブエノ大尉が、カサ・ベルデ・ファベラの連絡役を担ってくれており、子どもたちをつれてくるバスの手配をしたり世話をしている。イベントで子どもたちを広場につれてきた際には、BCSも見学させているので、その存在を知っている。財源は、ロータリークラブや企業からの寄付金であり、プレゼントはロータリークラブを通じて贈る。
- ホタリー広場にある図書館とも連携している。
- 自転車パトロール用の自転車は、住民の寄付金で購入した。

4. ホタリーBCS（首都圏警察管轄） BCS 勤務員
 （男性） 4時20分から約15分間

- 1996年から現在部署に勤務。「Koban=BCS」という言葉を始めて聞いたのは、1999年～2000年頃の研修の際に聞いた。そのようなものが導入されるかもしれないという説明を受けたが、その時点では、まだ内容がわからなかったので、Kobanを導入することで良くなるんだろうな、と漠然と感じていたのみであった。
- しかしながら、実際にKobanを導入して（パイロットBCSとなり）以下のような変化が現れた。Kobanから遠く離れたところにも、巡回連絡の結果として自分＝ジ〇〇〇警官のことを知ってくれるようになり、そのように存在を知ってもらうことで、住民側から情報を知らせてくれるようになった。また、住人や通行人が尋ねてきてくれるようになった（例：夫婦喧嘩をした夫が先にBCSに相談にきて、その夫を諭して帰したところ、仲直りした妻があとから感謝の意を表して立ち寄ってくれるなど）。
- 業務上のフォーマットは、使用するようになって1年ほどになる。導入前にどのように書き込むかなどの研修があった。
- BCS運用マニュアルについては、疑問点があるときなどに参照している。
- パソコンは、勤務員の自分は使用しない。アドミニストレーション上の業務に使用していることから、主にBCS所長が使用している。但し、現在、BCS勤務員2名もパソコンへの情報入力方法などの研修を受講中である。
- 当BCSは当初からのパイロットBCSであり、後発パイロットBCSが行われる時に常に研修に協力している。ベレンで実習を行う際にも、自分自身が協力（実地に教える）のため参加し、その後も情報交換を行っている。

視察第二日目：12月1日（土）

5. カサブランカBCS（大SP圏警察管轄下） 住民サポーター
 以下4名は10時15分～10時50分まで

(1) (男性) 建設材料の店経営

- 今後の希望としては、現在実施しているようなパトロールを引き続き行ってほしい。
- 日本のように警察と住民の協力を実施できるようになってほしい。

(2) (男性) 公務員＝スザーノ市商工部元部長、スザーノ文化協会元会長、日系人移住 100 年祭委員会会長

- 氏の父がパルメーラ地域に 20 年前土地を寄付してそこに BCS を設置した。
- 自分自身が住んでいるのはカサブランカ BCS の管轄ではなく離れているが、パイロット BCS ができたことで、検問（車の）を頻繁にやるようになってきていると感じる。これは治安の改善に貢献していると思う。
- コメント・質問：パルメーラなど他の地域にも BCS を増やすことはできないか。【回答は JICA 事務所木村氏及び州軍警察ホビンソン大尉から：州全体に拡大していくことを考えているが、どのような形がサンパウロに適しているのか検討中である。また、拡大するにあたっては人材育成も伴う必要がある】

(3) (男性) ビラバホス町会会長

- ビラバホス町会では毎月 1 回集会があるが、そこにはミルトン軍曹（BCS 所長）は、毎回来てくれる。当町会は、地域の環境美化のため公園美化運動などを実施しているが、地域住民を団結させることで社会に対して悪いことを行わないという教育的活動と捉えて実施している。この公園はカサブランカ BCS が管轄する地域にある。BCS（BCS）は 9 年前に設置されたが、最近は交流の密度が濃くなってきている。
- 2007 年 4 月に JICA プロジェクトのパイロット BCS となったことで起こった変化（改善点）は、【1】パトロールの頻度が増え、1 日に何回も警察官が見回ってくれること、【2】警察という組織全体で警察を見るのではなく、警官一人一人の顔が見えるようになりより身近に感じられるようになったこと、【3】インターネットや無線が付いて、コミュニケーションがより高まったことである。
- 妻がいつもは会合に出ており、自分自身は BCS に来たことはあるが、会合に出るのは今日が初めてのことである。すわなち、女性の BCS サポーターも存在している。
- 10 月 20 日（子どもの日）に、BCS と共同して、ビジャバホス町会が 1 日のイベント、子ども祭りを行った。33 の企業が寄付をしてくれた。ローカルテレビも取材に来た。パレエなど遊びも行うし、教育的プログラムも盛り込んでいる。このようなイベントを通して BCS と地域の距離が縮まる。

(4) (男性)、文房具店経営

- BCS の存在は知っていたが、約 1 年半前に経営する文具店に強盗が入った際、BCS の警察官が来てくれて親身になって世話をしてくれた。それ以来、親しくなった。
- 妻も BCS サポーターであり、今日は店番を受け持ち、夫である私が会合（インタビュー）に参加した。妻の誕生日には、ミルトン軍曹（BCS 所長）がおめでとうと言ってくれる。
- DV に対応するための女性向け警察署もある。
- 以前は、パトカーが止まっていると事件があったのかと想像したが、今は、巡回連絡をしているのだなと感じ方が変わった。

以下 2 名は 10 時 50 分～11 時 15 分まで

(5) (男性) 商業店主 BCS から 100 メートル程度の近所に住む

- ながさきさん（良いアイデアと思われたので、確認する必要がある場合に備えて敢えて名前を残しています）の今後に向けたアイデア：住民がすでに団結している地域は問題ないが、それができていない地域もある。物事は問題が起こる前に予防することが大切であり、例えば、住民が相互に目をひからせ安全を確保しているというモデル・ストリート設置プロジェクトのようなものを行い、それができているストリート、あるいはそのプログラムを行っている通りには「安全モデル・ストリート」という印（看板など）を見せることで泥棒や窃盗を抑止することにつながるのではないかと。

罪の多い通りをこのようなプログラムのモデルにするのはどうか。

(6) (男性) 農業 6年前からこちらに引っ越してきた。

- 巡回連絡は、先週から開始された。
- BCSがあるので安心感がある。1日1回は警察官が見回ってくれる。コンタクトがあるので安心。かつてのような警察官との心理的距離はない。但し、BCS周辺は良いのだが、BCSから離れた場所はまだまだ心配である。
- ブラジルの状況は、日本のような治安が良い国と異なるので、日本よりも厳しくやる必要があるかもしれない。

6. カサブランカ BCS (大 SP 圏警察管轄下) BCS 勤務員

(女性) 11時20分から約20分間

- 当BCSに勤務して6年間になる。以前は、南部の女性警察官中隊に勤務していた。
- パイロットBCSに指定される以前からKobanという言葉は聞いていた。当BCSがプロジェクトのパイロットBCSに指定されると聞いた際は、うれしいと感じた。
- 以前から住民と交流することはあったが、現在は、警察官という総称ではなく、名前では呼ばれるという距離になった。また、パイロットBCSになったことで、業務としては、巡回連絡をするようになった。以前は、住民と話していると無駄話をしていると見られたが、現在は、20分でも30分でも業務として住民と話をするという位置づけで認識されてきた。
- 導入されたパソコンに関しては、BCS勤務員も使用しており、ニュースレターの編集などに活用している。
- BCSの掲示板もある。
- 研修を受けた際に、8つの先行パイロットBCSの関係者が話をしてくれた。ラニエリBCSについての具体的な話が印象に残っている。また、実際にベレンBCSも訪問した。
- BCS運用マニュアルは、疑問点がある時に参照している。
- BCS所長は、良く指導してくれる。
- BCSに勤務する警察官として、自分自身はうれしい。好きなことを仕事にしていると感じている。

視察第三日目：12月5日（水）

7. ベレン BCS (首都警察管轄下) 住民サポーター

(男性) 3時40分から約15分間

- この地で生まれこの地で育った。75年間この地域に住んでいる。仕事はすぐそばで靴屋を営んでおり住居も一緒である。
- 「ベレンの友達」(町会名)の町会長、コンセーギの副会長を務めている。
- ここのBCSの歴史は、治安が悪くなったことを感じていた地域住民(4つのNGOあり)が、建物は住民たちの手で設置するので警察官を派遣してくれるかどうか首都圏警察に打診して、協力を得られるということから設置された。水道代や電話代、電気代など住民側が負担している。
- 月に一回、コンセーギや教会、住民代表が集まってBCSと協議している。
- クリスマスイベントで今年度の「対象となる子どもの人数が増えた理由(下記予備情報参照)は、150人を対象とした去年の結果が好評で、それを聞きつけた多くが今回は自分も対象となることを希望したからだ。
- 寄付は、最初に入脈のあるBCS所長が巡回連絡で回って話をしてくれるので、そのあとコンセーギが資金集めに回っても実際の協力を得やすい。

- 住民、コンセーギ、企業や商店主などから寄付を得ている。
- かつて、同地域に頻繁にあった銀行強盗が減った。
- パイロット BCS になってパトロールをしてくれるので安心感がある。
- 自分自身が相談ごとを人から受けると内容によっては「BCS に相談しなさい」と連絡先を教えることもある。(その位、BCS を信頼している)

予備情報 (BCS 所長および勤務員による BCS 説明・発言の一部) :

- 管轄区の人口は約 2 万 4 千人。
- 97 年から BCS が設置され、巡回指導は約半分 (世帯?) の 1715 世帯に実施している。担当者は、管轄の周辺部分に問題のある地域が多いことから、問題の多い地域に経験の豊かな警官を配備している。
- 学校は管内に 8 校ある。
- 今年の数値では、190 番通報からの連絡が 1000 件、直接 BCS へ連絡したものが 2000 件となっている。
- 管轄の住民だけでなく、遠くからもこの BCS をあてにして来る者がいる。
- 去年はクリスマスに 150 人の子どもたちに対して活動を行ったが、今年は 3500 人を対象にする。
- パイロット BCS になる以前から書面への書き込みを行っていたので、パイロット BCS として新たな書式使用などが負担になることはない。むしろ、新しい提案をしているくらいだ。
- ニュースレターは、3000 部程度を印刷し、住民の 2 人のボランティアに配布してもらっている。

以上

地域警察活動推進のための専門委員会（ワーキンググループ）への
グループインタビュー結果

専門委員会

設立はプロジェクトが開始されてから約半年後程度。

開催頻度は、平均すると1~2ヶ月に1回程度だが、マニュアル作成の時は20日間毎日、セミナーの時は1週間毎日集ったこともある。

1. 専門委員会のプロジェクト目標への貢献度（自己評価）は、ほぼ全員が100%に近い評価を下した。
2. 具体的な貢献の指摘
 - 【1】 様式（各種フォーマット）作成
 - 【2】 BCS 記録のフォーム作成
 - 【3】 交番モニタリングのチェックリスト作成
 - 【4】 巡回訪問用紙の雛形作成
 - 【5】 BCS 活動を確認し、整理・記録する。
 - 【6】 管内地図を作成することを決め、2 平方キロメートルという基準を決めた。
 - 【7】 BCS での日常業務の管理改善
 - 【8】 被害者支援プログラム作成
 - 【9】 「マルチプリカドール」育成カリキュラムの作成
 - 【10】 警察官育成コースの教養内容改善
 - 【11】 スキルアップのためにカリキュラム（士官、軍曹、警察官別）改善（地域警察活動の内容を取り込む）
 - 【12】 警察官の定期的研修を実施しなければならないことを定めた。
 - 【13】 警察官特別教養のカリキュラムを作成
 - 【14】 地域警察基礎理論の州軍警察内への普及
 - 【15】 設備・機材の向上・改善
 - 【16】 BCS に PC を設置し、その PC を用いた管理を指導
 - 【17】 BCS に勤務する警官のモチベーションを上げる。
 - 【18】 日本の交番・駐在所に関するリサーチを行い、ブラジルの現状を調べた。
 - 【19】 マニュアルやテキスト作成
 - 【20】 各立場の役割を明確にし、マニュアル化した。
 - 【21】 ニュースレターの発行
 - 【22】 マルチプリカドールの研修
 - 【23】 掲示板設置により住民とのインターアクション改善
 - 【24】 セミナー（例：国際セミナー）の準備・参加
 - 【25】 海外との交流
 - 【26】 BCS 訪問

3. 今後の課題（ブレインストーミング＋ランキング）

交番がサンパウロ州全土に広まるという目標を推進するにあたり、具体的な困難は何か？

第三位	コミュニティの開発状況（社会・経済的）の格差、多様性 得点 5 点		民間セクターなど機関間の連携 得点 0 点
	警察関連の専門的資料が不足 得点 0	第二位	警察の人材育成 得点 7 点
第一位	地域住民側の地域警察活動への参加準備が不十分である。 得点 14 点		警官人数の不足 得点 2 点
	地域警察活動が普及されるという状況を達成するには時間がかかる。2013 年までに結果が出せるかどうか不安。 得票 3 点		警察内部での抵抗：地域警察活動を理解していないという警察内部の人間の認識の差 得票 4 点

4. 困難を乗り越える方法（2 グループに分かれてグループ・ディスカッション）

第 1 グループテーマ：警察官の人材育成

- (1) リクルート段階での考慮（警察官としての適正のある人を選ぶ）
- (2) カリキュラムをより適正なものにする
- (3) 遠距離でも行える教育方法
- (4) 警察学校卒業後、実地研修を第一に実施する（調整は研修センターが行う）
- (5) 現任教育を実施する（すでに警察官になったあともリフレッシュのために定期的に繰り返し研修を実施する）

第 2 グループテーマ：住民との関係

- (1) 問題解決を住民側から参加するように促進する。
- (2) サンパウロは広いので、地域の多様なニーズに即した解決方法を（ワーキンググループを設けるなどして）見つける。
- (3) コミュニティーリーダーの育成に、交番長である中隊長に育成させる。
- (4) 報道関係に協力してもらい、地域警察活動、交番活動に焦点を当ててもらう。
- (5) コンセーギからのクレームではなく（通常、コンセーギは住民からの不満を吸い上げて警察に伝えるという役割を担っていることが多い）、コンセーギを通じて情報を拡散する。
- (6) 青少年対策プログラムの中に、地域警察のことを組み込む。子どもたちが学んだことを家庭に帰って家族に伝えることで普及させる。

観察：今後に向けた課題に対しても、具体的にどのような解決策があるのかを考えるだけの能力・意欲が観察された。（自立発展性根拠）

C/P へのインタビュー結果

カストロ中佐発言要旨：サンパウロ州への交番活動の適用について

1. (日本で警察が実施しているように) 住民と一緒にパトロールは実施できない。ブラジルの法律上、住民にパトロールをともに実施してもらうことで危険を冒すことがふくまれることから、このような行為が許されていない。
2. 勤務時間について、日本が 24 時間勤務 48 時間休憩であるのに対し、サンパウロでは、1 日を 3 交代シフトにし、12 時間勤務 36 時間休憩にしている。BCS に仮眠を取る場所がないことに加え、犯罪発生率の高いサンパウロにおいて、24 時間の勤務は心身ともに過重な負担を招くため。
3. 一つの BCS には平均 13 名の配置がなされているが、4 人が働き 8 名が休む（1 名はシフトに関係しない所長）というシフト体制になっている。
4. 日本は一日の勤務内容、時間スケジュールを事細かに決めており、それに沿って活動するが、事件や病気など突発的なことが発生することが多いサンパウロの現状でそれを行うことは実際には困難。むしろ、ミッション（行わなければならないこと）を明確にして、柔軟な時間の使い方を採用し、時間内ですべての行うべきことが実施されればよしという考え方で交番勤務を実施。
5. 駐在所はサンパウロ市内にはなく、日本と異なり地方にのみ設置している。コミュニティーの要求に応じて週 40 時間の勤務時間を遂行する。例えば、夜の時間帯に住民との集会があれば夜に対応するなど。
6. 地域コミュニティーとの連携、共同活動に関しては、日本では行わないような社会共同活動を実施している（映画会などイベント等）。
7. 現場にいち早く到着できる、また、普段からの住民との連携が存在しているなどの背景から、医療サービスを提供することもある。
8. 普段からの住民との連携が存在しているなどの背景から、市民が求めているならば日本では警察が提供しないサービスも提供する。何か困ったことがあれば、それを住民が交番にきて相談すれば、その相談にのる。できる限り、助けを必要としている人の助けになる。

以前はやっていなかったが、今パイロット BCS で行うようになったこと

* 掲示板の設置

* 住民からの相談を受けても記録していなかったが、現在は記録をするようになった。

* 巡回連絡は、ブラジルにとってまったく新しいもの。

(巡回連絡を学び伝える方法として、まず 1 回目は経験者が実施するところに同行し、どのように行うかを見せる。2 回目は自らが実施し、同行した経験者から終了後アドバイスを受け改善していく。このような方法を取ることで、間違った自己流のやり方が広がらないように、基準化された正しい巡回連絡を実施していけるよう人材育成に努めている)

市民の反応

* 警察が何をやっているのかを知らせた結果、それまで知らなかった警察の活動や能力を理解し、「信頼性」が高まった。

* 問題解決のための意見・情報交換を行うことで、住民が問題を意見するようになった。

以上

住民意識調査結果抄訳

BCS に対する意識調査

2007 年
サンパウロ州軍警察

2007 年 11 月

調査概要

調査目的

BCS の影響範囲内の居住者や就労者及び通過者の、警察の活動に対する印象や地域生活の中でのインパクト等を調査すること。

調査対象地域

サンパウロ州警察によって選ばれたサンパウロ市にある特定の 8BCS、およびサンパウロ大都市圏の 1 BCS とサンパウロ州の地方都市の 1BCS。

東部	ノッサセニョラ・ド・カルモ、ラルゴ・ド・ベレン サンミゲル・パウリスタ（プリメイロ・デ・マーイオ）
南部	ヴィラ・ダス・メルセス、ジャルジン・ラニエリ
西部	ペルス（ジャルジン・ブリタニア）
北部	マリア・カンジダ（プラッサ・オスカー）
中央部	ロータリー
サンパウロ大都市圏	スザノ市（カザ・ブランカ）
地方都市	サンジョゼ・ドス・カンポス市（アウト・ダ・ポンテ）

現地調査時期： 2007 年 10 月 18 日～23 日

標本構成： 居住者 45% — 地域内に居住している者
就労者 30% — 地域内で就労している者
通過者 25% — 地域内を通過する者

標本配分

調査対象地域の人口の配分を表すため、住民と通過者はそれぞれの調査地域全体の概要から導き出された比率的な配分で選ばれた。また労働者は調査地域の経済活動人口から比率的な配分を決めた。

性別	男性、女性
年齢層	16～24 歳、25～29 歳、30～39 歳、40～49 歳、50 歳以上
クラス	A、B、C、D/E（低所得層）
職業	就労者、失業者
情報	2000 年度データによる

標本数

回答者 800 人 — 各地域 80 人

有効回収率

有効回収率は95%であり、推定される調査誤差は標本総数に対して最大3%±である。

調査方法

調査目的に沿って作成されたアンケートを使用し、個別インタビューをおこなった。同インタビューは、イボペ・インテリジェンシア社の訓練を受けたインタビューチームによって実施された。

品質管理

インタビュー実施後、全アンケートは整理され、その約20%に対して検査が実施された。

調査結果

地域内居住者の居住期間、及び通過者の通過頻度

居住者に対しては調査地域内での居住期間、就労者に対しては同地域内での就労期間、通過者に対しては同地域内を通過する頻度について尋ねた。

❖ 住民

居住者に対する合計の調査結果では、「5年以下」の居住期間者率は36%で、「15年以上」の居住期間者の割合との一致がみられた。それゆえに10名中3名の割合で6～15年の居住期間者がいるということになる。

サンパウロ市と地方都市の居住者比べてみると、その在住期間の差がみられる。サンパウロ市の平均在住期間では全体の平均に近似しているが、地方都市では15年以上居住者が半数以上にのぼり、平均年数は18.3年となっている。

そのほかに、合計の調査結果では、老年層は比較的地域在住期間が長く、若者層は逆に短いこともわかった。

また、地域別にみても、ノッサ・セニョラ・ド・カルモ（東部）の半数以上の住民が15年以上在住しており(56%)、地方都市サン・ジョゼ・ドス・カンポス市でも半数以上が同様の結果であった(69%)。

居住期間

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(360)	(288)	(72)
	%	%	%
5年以下在住	36	39	28
6～15年 在住	28	30	21
15年以上 在住	36	32	51
平均居住年数	14.1	13	18.3

❖ 就労者

就労者の合計の調査結果では、すべての3つの就労期間 — 「1年以内」「1～5年」「5年以上」— において3分の1ずつという均衡的な割合がみられる。そして、その就労期間の平均は6.5年となっている。

サンパウロ市の就労年数の調査結果は、合計の調査結果のそれに近似している。しかし、地方都市サンジョゼ・ドス・カンポス及びスザノの調査結果と比較してみると差が見られた。そこでは、10人に4人が「1年以下」の就労者であり、また4人に1人が「5年以上」の就労者である。またそれにより、平均就労年数は5.7年と低くなっている。

就労期間

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(240)	(192)	(48)
	%	%	%
➤ 1年以下	36	34	42
➤ 1～5年	32	31	33
➤ 5年以上	33	34	25
平均就労年数	6.5	6.7	5.7

就労期間が「1年以下」は若年層に多くみられ、老年層及び低学歴層には「5年以上」が多く見られた。

地域別に見てみると、サンミゲル・パウリスタ区/プリメイロ・デ・マーイオ（東部）、マリア・カンデーダ（北部）及びロータリー（中央部）では長期就労者の割合が最も高いのがわかる。中でも中央部での割合は、短期就労者の割合とほぼ一致している。

また、ヴィラ・ダス・メルセス（南部）及びサンジョゼ・ドス・カンポス市/アウトダ・ポンチの両地域では「1年以下」の就労者が主な割合を占めている。

❖ 通過者

通過者の合計の調査結果では、回答者の56%が「週に5～7日間」に通過する習慣があると答え、高い通過頻度が見られた。また10人に3人が「週に3～4日間」、また17%が「週に2日間」通過すると回答した。

サンパウロ市と合計の調査結果は似通っているが、地方都市の結果はその二つと比較してみると、通過頻度が一段と高くなっているのがわかる。

通過頻度

	全体	サンパウロ市	地方都市
標本数	(200)	(160)	(40)
	%	%	%
➤ 週に5～7日間	56	59	65

➤ 週に3~4日間	28	29	25
➤ 週に2日間	17	18	10

地域ごとの標本数は多くはないが、各調査地域によって通過頻度に違いが見られた。

選択肢の中で最も高頻度である「週に5~7日間」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|---------------------------|----|
| | % |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア（西部） | 90 |
| ● サンジョゼ・ドス・カンポス市／アウトダ・ポンテ | 80 |
| ● ノッサセニョラ・ド・カルモ（東部） | 75 |

「週に3~4日間」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|-----------------|----|
| | % |
| ● スザノ市／カザ・ブランカ | 45 |
| ● ラルゴ・ド・ベレン（東部） | 45 |
| ● ロータリー（中央部） | 45 |
| ● D/E クラス（低所得層） | 44 |

また通過者が最も少ないのは以下の地域である。

- | | |
|--------------------------|----|
| | % |
| ● ヴィラダス・メルセス（南部） | 40 |
| ● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル（北部） | 35 |

治安及び警察活動に対する評価

治安及び警察は下記の表にみられるように、ほぼ同様な方法で評価を行った。

治安および警察は、ほぼ10名中4名の割合で「肯定的評価」と高い評価となった。合計やサンパウロ市、地方都市でも同様の結果が見られた。

またほぼ3名中1名の割合で治安について「普通」と回答し、10名中2名の割合で否定的評価をしている。また、警察については、「普通」の回答者はやや減少し、逆に否定的評価の割合がやや増加している。

治安及び警察に対する評価

評価対象	治安			警察		
	全体	サンパウロ市	地方都市	全体	サンパウロ市	地方都市
標本数	(800)	(640)	(160)	(800)	(640)	(160)
	%	%	%	%	%	%
➤ 非常に良い	5	5	5	6	6	8
➤ 良い	36	36	37	36	36	35
肯定的評価	41	41	42	42	42	43
➤ 普通	35	36	32	30	30	30
➤ 悪い	10	9	11	15	15	15
➤ 非常に悪い	13	12	14	11	11	11
否定的評価	23	21	25	26	26	26

治安に対する回答では、各地域によって差がみられる。

「肯定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|---------------------------|----|
| ● マリア・カンジダ区／プラッサ・オスカル（北部） | % |
| ● ラルゴ・ド・ベレン区（東部） | 57 |
| ● スザノ市／カザ・ブランカ | 55 |
| | 52 |

否定的な評価のなかでは、若年層の42%が治安に対して「普通」と回答しており、また、サンジョゼ・ドス・カンパス市／アウト・ダ・ポンテの回答者の36%が「悪い」もしくは「非常に悪い」と否定的評価をしている。

警察に対しての肯定的評価が高い地域には、治安に対する肯定的評価を受けたラルゴ・ド・ベレン及びスザノ市の両地域が同じくあげられているものの、その他には違いが見られる。

	%
• ラルゴ・ド・ベレン区（東部）	63
• カザ・ブランカ（スザノ市）	51
• 老年層	50
• サンジョゼ・ドス・カンパス市及びスザノ市—労働者	48

そして「否定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• ペルス／ジャルジン・ブリタニア（西部）	56
• 若年層（16～24歳）	33

また、サンジョゼ・ドス・カンパス市／アウト・ダ・ポンテでは、はっきり意見が分かれてた。

	%
• 否定的評価「悪い」または「大変悪い」	36
• 肯定的評価「良い」「大変良い」	34

経年比較

治安に対する肯定的評価は、前回の調査と比較すると36%から41%へと若干の上昇がみられたが、否定的評価の割合にはまったく変化がなかった。

警察に対して前回と比較しても、肯定的および否定的評価の両方の割合に変化がみられなかった。

警察に対する評価の理由

❖ 肯定的評価－「非常に良い」又は「良い」評価

警察活動に対しての協定的評価の理由には、様々なものがあげられている。その中で主な理由として、地域内での常駐や巡回活動、迅速な対応、市民に対して親切である、また地域の治安の向上などが述べられている。

いくつかの項目や地域は、肯定的評価な理由に高い割合を示していることがわかる。

肯定的評価の理由

肯定的評価の総数	(335) %	回答者	%
● 常時巡回を行っている	47	スザノ市 ロータリー SJC/S－就労者 SJC/S－居住者 ヴィラ・メルセス 地方都市－合計 SJC/S－通過者	8 3 6 4 6 1 5 9 5 9 5 9 5 6
● 親切／丁寧な対応	20	ジャルジン・ラニエリ 南部－合計 就労者－合計 男性 25～29歳	3 7 3 1 3 0 2 7 2 7
● 要望に対応する	17	就労者 ジャルジン・ラニエリ 通過者－合計 N. S. Carmo／ペルス スザノ市 高等教育修了者	3 0 2 7 2 5 2 5 2 4 2 3
● 警察の存在感が常時ある	16	ジャルジン・ラニエリ N. S. Carmo／ペルス SJC/S－通過者 SP－就労者 ラルゴ・ド・ベレン SJC	3 3 2 8 2 5 2 4 2 4 2 2

• 迅速に対応	14	ペルス 居住者 ラルゴ・ド・ベレン	3 1 2 2 2 2
• 地域治安が向上している	10	通過者 40～49歳 地方都市	3 8 1 8 1 5

備考：

SJCーサンジョゼ・ドス・カンポス市の略称

N. S. Carmoーノッサセニョラド・カルモの略称

SPーサンパウロ市の略称

❖ 「普通」であるとの評価

警察活動に対して「普通」評価をしている主な理由としては、警察の不在感や対応するのに時間がかかることなどがあげられている。

普通評価理由

標本数	(239) %	回答者	%
• 地域巡回パトロールを行っていない	3 3	ペルス／ジャルジン・ブリタニア 地方都市ー合計 ラルゴ・ド・ベレン D/E クラス（低所得層） 通過者 若年層 25～29歳 16～24歳 義務教育修了者	5 0 4 8 4 7 4 5 4 0 3 9 3 8 3 8
• 地域に警察官不足	2 6	ロータリー SJC/Sー就労者 A/B クラス SPー通過者 高等教育修了者 ヴィラ・ダス・メルセス	6 7 3 8 3 5 3 5 3 4 3 2
• 対応するのに時間がかかる	1 9	ペルス／ジャルジン・ブリタニア D/E クラス（低所得層） ラルゴ・ド・ベレン 40～49歳	3 8 3 0 2 6 2 5
• 職務を履行しない	1 3	マリア・カンジダ ヴィラ・ダス・メルセス SPー居住者 若年層 16～24歳 サンミゲルポインタ	3 8 2 4 2 2 2 0 1 9

❖ 否定的評価 — 「悪い」または「非常に悪い」

警察の活動に対する「悪い」または「非常に悪い」という否定的評価の主な理由は、「普通」評価によって示されたものと一致している。それはつまり、回答者は否定的な考えを持っていたが、責任を負うことを避けるために「普通」と回答したと考えることができる。しかし、評価理由を説明するにあたって、回答者はその不満を表している。

否定的評価の理由

否定的評価をした標本数	(207) %	回答者	%
● 地域巡回パトロールを行っていない	30	ペルス マリア・カンジダ スザノ市 通過者－合計 高等教育修了者 就労者－合計	6.2 5.5 5.0 4.2 3.6 3.6
● 職務を履行しない	23	ペルス／ブリタニア マリア・カンジダ 30～39歳 ヴィラ・ダ・スメルセス	4.7 4.5 3.3 3.1
● 地域に警察官が不足	19	ロータリー SJC/S－居住者 SP－通過者 女性 SJC	5.3 3.7 2.6 2.5 2.5
● 対応するのに時間がかかる	17	ジャルジン・ラニエリ サンミゲルパウリスタ 25～29歳 就労者－合計 女性	3.5 3.3 2.8 2.5 2.4
● 汚職をしている	16	SJC/S－通過者 スザノ市 30～39歳 D/E クラス（低所得層） 40～49歳 義務教育修了者 居住者－合計 ペルス／ジャルジン・ブリタニア	3.6 2.9 2.6 2.5 2.4 2.4 2.4 2.2
● 地域の治安が悪い	13	SJC/C－通過者	2.7

		40～49歳	19
		ロータリー	27
		SJC	21
<ul style="list-style-type: none"> • 暴力が続いている／変化なし 	11	ジャルジン・ラニエリ	22
		南部ー合計	18
		SJC	18
		ノッサ・セニョラ・ド・カルモ	17

備考：SJC-サンジョゼ・ドス・カンポス市

治安及び警察の近年の状況

サンパウロ市に対してはここ3年間の、サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市に対しては6ヶ月間の比較評価を回答者に求めた。

しかしながら、治安状況及び警察の3年間及び6ヶ月間の比較評価の結果では、大きな変化が見られなかった。

また、半数の回答者は「変化がなし」と回答し、3分の1以上の回答者は「少し良くなった」と答え、10名中1名は「悪くなった」と回答している。

地方都市の回答者は、治安及び警察に対してより厳しい評価を与えているのがわかる。

公安及び警察進捗状況

評価対象	治安			警察		
	合計	サンパウロ市	地方都市	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(800) %	(640) %	(160) %	(800) %	(640) %	(160) %
大変良くなった	13	15	8	14	15	9
少し良くなった	24	24	24	24	24	25
肯定的評価	37	39	32	38	39	34
少し悪くなった	5	5	6	4	4	3
大変悪くなった	6	6	9	6	6	6
否定的評価	11	11	15	10	10	9
変化なし	47	47	49	48	46	54

治安状況が良くなったと「肯定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答である。

- | | |
|----------------------|----|
| | % |
| ● ジャルジン・ラニエリ | 55 |
| ● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル | 48 |
| ● サンミゲル区 | 47 |
| ● ラルゴ・ド・ベレン | 46 |

- スザノ市／カザ・ブランカ 44
- 老年層 43
- 低学歴層 43
- 低所得層 43

その一方で、否定的評価をした回答者の割合が最も高かったのはロータリーであった（21％）。

また、「変化がない」と評価した割合の高いのは、以下の回答者である。

- | | % |
|----------------------------|----|
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 70 |
| ● ノッサセニョラ・ド・カルモ | 64 |
| ● アウト・ダ・ポンテ | 56 |
| ● サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市一通過者 | 53 |
| ● 高等教育修了者 | 51 |
| ● 居住者一般 | 51 |

警察に対する調査結果は、各地域で多少の変化が見られるものの、治安に対する評価とほぼ一致している。

警察活動がに対して「肯定的評価」した割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | % |
|----------------------|----|
| ● ジャルジン・ラニエリ | 56 |
| ● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル | 52 |
| ● サンパウロ市一通過者 | 46 |
| ● 通過者一般 | 44 |
| ● 老年層 | 44 |
| ● 低学歴層 | 43 |
| ● 低所得層 | 43 |

そして「変化がない」と評価した割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | % |
|----------------------------|----|
| ● アウト・ダ・ポンテ／サンジョゼ・ドス・カンポス市 | 64 |
| ● ノッサセニョラ・ド・カルモ | 63 |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 63 |
| ● 30～39歳 | 54 |
| ● 高等教育修了者 | 57 |
| ● サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市の | |
| 一居住者 | 56 |
| 一通過者 | 55 |

一方、悪くなったと「否定的評価」した割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|---------|----|
| | % |
| • ロータリー | 15 |

経年比較

治安状況及び警察活動について、前回の調査結果と比較してみると、各割合などがほぼ一致していることがわかる。それはつまり向上も低下もみられないといえる。

警察組織について

トップ・オブ・マインド及び同不順に言及されるもの

警察機関といったとき、回答者に1番はじめに想起される機関—トップ・オブ・マインド—は「軍警察」であった。10名中6名が「軍警察」と回答している。続いて第2番目は「文民警察」で16%であった。

この割合はサンパウロ市、各地方都市また合計でも、ほぼ同様であった。

2期間に引き続き、想起される機関では、「軍警察の特別機関」（7%）について、少数が回答した「連邦警察」、そのほかに「文民警察の特別機関」も述べられた。しかしその割合は合計及び地方都市で3%、サンパウロ市で1%と少ない結果となった。

言及される順序に関係な「その他」例えば、警察機関のなかで10名中8名が「軍警察」をあげ、続いて半数は「文民警察」、「連邦警察」が17%という結果になった。この結果は、合計やサンパウロ市及び地方都市の割合でもほとんど変わりはないが、地方都市では「軍警察」をあげる回答者の割合は比較的少ない。

また10名中2名が「軍警察の特殊機関」について述べ、また10名中1名が「文民警察」と述べた。

一番目に言及される警察機関として述べられておらず、認知度が低い機関は「市警察」、「連邦交通警察」、「科学警察」及び「軍隊の警察」である。

警察機関

	一番目に言及			言及（同不順）		
	合計	サンパウロ市	地方都市	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(800)	(640)	(160)	(800)	(640)	(160)
	%	%	%	%	%	%
軍警察	63	64	60	78	79	72
文民警察	16	16	16	49	49	50
連邦警察	5	6	5	17	17	16
道路警察	—	—	—	4	4	6
科学警察	—	—	—	1	1	0
市警察	—	—	—	7	8	7
軍隊	—	—	—	1	1	1
文民警察特殊	3	1	8	9	7	8

機関						
軍警察特殊機関	7	7	7	18	20	9
何も思いつかない	3	3	3	3	3	3
わからない／知らない	3	2	8	3	2	3

「軍警察」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	1 番目	同不順
	%	%
● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	88	91
● ロータリー	74	85
● ラルゴ・ド・ベレン	73	89
● 25才～29才	71	82
● 高等教育修了者	70	81
● A/B クラス	69	83
● 老年層（50歳以上）	69	79

「文民警察」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	1 番目	その他
	%	%
● スザノ市及びサンジョゼ・ドス・カンポス市通過者	28	60
● サンミゲルパウリスタ／プリメイロ・デ・マーイオ	25	51

経年比較

前回調査と比較すると、「軍警察」を第一に想起する割合は67%から63%になり、同不順で言及した場合には今回と前回の両結果が78%と一致していて、全体的にあまり大きな変化がないのがわかる。

しかし「文民警察」に対して認知度が、第一に言及で12%から16%、同不順では39%から49%と大きく上昇しているのがわかる。

また他の警察機関では、前回の調査結果からほとんど変化はみられなかった。

その他、興味深い比較結果として「知らない」と答えた比率が10%から3%と大きく下降していることがあげられる。これは合計、サンパウロ市、地方都市でも同様の傾向であり、近年の機関の情報公開により自然と市民の認知度が上がってきているともいえる。

緊急時の対応

合計の半数以上は、交通事故、遺失物、強盗、窃盗など緊急時の対応として、ほぼ10名中6名の割合で190番に電話をすると答えている。その比率は地方都市では下がっている。

また、どの回答結果でも同様に、約3分の1の回答者は「警察署を尋ねる」と回答している。

サンパウロ市では10名中2名の割合で届けを出すために「BCSに行く」と回答し、地方都市では10名中1名の割合で回答している。

その3つ以外は緊急時の対処としてあまり使われていないのもわかる。

緊急時の対応

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(800)	(640)	(160)
	%	%	%
190番に電話をかける	60	62	53
警察署に行く	33	32	34
BCSへ届けを出す	19	20	13
近くのBCSに電話をかける	7	7	5
インターネットで記録する	3	3	3
消防署へ電話をかける／193番	2	2	2
SAMUへ電話をかける	1	1	1
その他(1%以下)	3	3	2
何するかわからない	4	5	4
意見なし	1	1	-

備考：SAMU（救急車）、190番（緊急通報）

「190番に電話をかける」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|---------------|-----|
| ● ヴィラ・ダス・メルセス | 75% |
| ● 義務教育修了者 | 71% |
| ● ロータリー | 70% |

届けを出すために「警察署へいく」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• ノッサセニョラ・ド・カルモ	46
• 高等教育修了者	44
• スザノ市	44
• ジャルジン・ラニエリ	43
• サンジョゼ・ドス・カンポス及びスザノ市通過者	40
• ラルゴ・ド・ベレン	39

また「BCS へ届けを出す」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
ジャルジン・ラニエリ	30
マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	30
ラルゴ・ド・ベレン	28
南部	28
サンパウロ市一就労者	25

経年比較

前回の調査結果と比較しても変化が乏しく、回答率の順位も同様の傾向がみられる。

「190番に電話をかける」と答えた回答者の割合についていえば、前回とまったく同じである。そのほかには、警察署やBCSへ対応を求める割合は、少しながら上昇していることがあげられる。

警察機関別評価

3つの警察機関—軍警察、文民警察及び市警察—それぞれに対する評価を行った。

その3つの中で、サンパウロ市と地方都市では「軍警察」に対する認知度及び肯定的評価が最も高い割合でみられ、合計でも同様の結果がみられる。また反対に市警察は認知度でも肯定的評価でも最下位となっている。文民警察は、その2機関の下位寄りの中間的評価を受けているが、その存在を認知している回答者には高い評価を受けている。

興味深い結果としては、「普通」評価は軍警察と市警察を比較すると、34%と24%と違いがみられる。

否定的評価に関しては、3機関に同様の結果が見られた。

各機関の評価

評価機関	軍警察			文民警察			市民警察		
	合計	サンパウロ市	地方都市	合計	サンパウロ市	地方都市	合計	サンパウロ市	地方都市
回答者合計	(800) %	(640) %	(160) %	(800) %	(640) %	(160) %	(800) %	(640) %	(160) %
大変良い	5	5	5	5	5	4	4	5	3
良い	45	44	46	37	35	43	36	35	36
肯定的評価	50	49	51	42	40	47	40	40	39
普通	34	34	33	30	30	29	24	24	23
悪い	9	9	9	8	9	7	9	10	6
大変悪い	5	5	4	6	6	8	7	8	4
否定的評価	14	14	13	14	15	15	16	18	10
知られていない	1	1	0	8	10	1	10	10	12
分からない/意見なし	2	1	2	6	5	9	10	8	18

❖ 軍警察に対する評価

軍警察に対する評価は、地域や都市によって変化があまりないが、その中でも「肯定的評価」をした割合が最も高いのは、以下の回答者である。

	%
● スザノ市	61
● サンミゲルパウリスタ区／プリメイロ・デ・マーイオ	60
● ラルゴ・ド・ベレン	59
● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	59
● 東部一合計	57

一方で、軍警察に対して「否定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
● ペルス／ジャルジン・ブリタニア	32
● サンジョゼ・ドス・カンポス市	18
● A/B クラス	18
● 年齢層 25 歳～29 歳	18

❖ 文民警察に対する評価

文民警察も地域や都市によって評価に変化がみられた。肯定的評価をした割合が最も高いのは、以下の回答者である。

	%
● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一通過者	56
● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	55
● スザノ市	54
● ラルゴ・ド・ベレン	53
● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一就労者	48

また「否定的評価」をした割合の高いのは、以下の回答者である。

	%
● ペルス	24
● 男性	19
● サンジョゼ・ドス・カンポス市	19
● A/B クラス	19

そのほかに、文民警察についての認知度が最も低いのは、以下の回答者であるという興味深い結果が得られた。

	%
● ペルス／ジャルジン・ブリタニア	35
● 40～49歳	22
● ロータリー	18

❖ 市警察

市警察に対して「肯定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
● サンミゲルパウリスタ／プリメイロデマーイオ	51
● マリア・カンジダ	50
● 東部一合計	50
● ノッサセニョラ・ド・カルモ	50
● サンジョゼ・ドス・カンポス市 及びスザノ市一通過者	48
● 年齢層30～39歳	45

また「否定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
● ジャルジン・ラニエリ	32
● ペルス／ジャルジン・ブリタニア	24
● ロータリー	24
● 南部一合計	24
● 16歳～24歳	23
● 25歳～29歳	22
● 中等教育修了者	22

市警察の認知度が低いのは、以下の回答者である。

	%
● サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市一通過者	35
● スザノ市	34
● 40歳～49歳	31
● サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市一就労者	30
● 地方都市一合計 (SJC/S)	30
● サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市一居住者	28
● 50歳～	28
● 初等教育修了者	26

経年比較

今回の調査評価では、軍警察及び文民警察に対する肯定的評価が5%、また市警察対するものが9%増加した。市警察にいたっては、認知度の上昇もみられた。

結果として、「普通」と評価した比率がやや減ったものの、この3つの機関に対する否定的評価の比率は、前回とほぼ一致している。

地域の体感治安

本調査では、各地域で「安全だと感じない」という割合－10名中6～4名－が、「安全だと感じる」割合よりも一段と高くなっている。前回の調査では、各選択肢の割合は50%ずつであり、本調査と比較すると体感治安の悪化がうかがえる。

また地方都市では、サンパウロ市と比較して体感治安が悪いことがわかる。

地域の体感治安

	今回調査			前回の調査
	合計	S P	地方都市	
標本数	(800) %	(640) %	(160) %	(800) %
大変安全である	6	7	3	1
安全である	35	36	31	50
安全だと感じる	41	43	34	51
少し安全である	39	38	41	33
安全ではない	19	18	25	16
安全だと感じない	58	56	66	49

「安全だと感じない」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|----------------------------|----|
| | % |
| ● サンジョゼ・ドス・カンポス市／スザノ市－通過者 | 73 |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 72 |
| ● スザノ市 | 71 |
| ● サンジョゼ・ドス・カンポス市／スザノ市－居住者 | 68 |
| ● サンミゲルパウリスタ区／プリメイロ・デ・マーイオ | 67 |
| ● 地方都市－合計 | 66 |

安全だと感じない原因

回答者が「安全だと感じない」と回答したの主な原因は、それぞれの構造に関連した以下の2つである。

- 10名中8名は実際に居住している**地域社会構造**についてを主な原因としている。
- 3分の1の回答者は**警察**にも責任があるという意見がありました。

回答者の主な原因にそのどちらかに分類されるが、それらには安全性や不在感といった実際の感覚によるものと、メディアの犯罪報道の普及により影響を受けたものがある。

安全だと感じない原因

	標本数	(466) %
地域／地域社会構造上の問題 (NET)		83
犯罪に関することを聞いた		31
地域に怪しい人をよく見る		29
犯罪現場を見たことがある		22
テレビで犯罪情報を多く見る		20
犯罪の被害者になったことがある		15
地域の人口が急増した		12
低所得者の居住者／スラム／集合宅がある		7
警察／警察構造上の問題 (NET)		32
地域で警察官を見ない		28
警察官が犯罪に係わる／汚職		2
暴力的な警察官がいる		1
警察を信用できない		1
警察に成果を期待できない		1

	治安が悪いと体感している原因
3%	麻薬販売／麻薬中毒患者
2%	地域に暴力が多い／銃撃戦 地域に基礎設備が少ない

1%	空き家／管理されていない／セキュリティーのない建物 強盗事件の増加 強盗に遭遇のを恐れている 警察が到着するまで時間かかる 商店街に強盗が入る 事件発生数が多い 引ったくり／ホームレース／酒飲み
----	---

上記に示された「地域社会構造上の問題」が不安を感じる主な原因と答えた回答者は、地域によって差が見られるものの、いくつかの地域やBCSに集中していることがわかる。

	%
• マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	97
• 初等教育修了者	91
• ヴィラ・ダス・メルセス	90
• ペルス／ジャルジン・ブリタニア	90
• ノッサセニョラ・ド・カルモ	89
• サンパウロ市ー就労者	89
• 50歳以上	89

また「警察の構造上の問題」を不安を感じる主な原因としているのは、以下の回答者である。

	%
• スザノ市及びサンジョゼ・ドス・カンポス市ー居住者	51
• ヴィラ・ダス・メルセス区	46
• ロータリー	43
• スザノ市及びサンジョゼ・ドス・カンポス市ー合計	42
• 高等教育修了者	40

地域治安の改善状況

地域治安の向上状況を知るために、サンパウロ市ではここ3年間の、サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市はここ6ヶ月間に関して質問を回答者に対して行った。

地域が「大変安全である」及び「安全である」と答えた回答者のうち、約半数が地域は「常に安全である」と回答した。また、10名中4名の割合で数年前からより安全になったと回答している（スザノ市及びサンジョゼ・ドス・カンポス市の場合は6ヶ月前から）。そのほかには10名中1名の割合で「意見なし」がみられた。

居住者、通過者や就労者など土地勘を持っているほうが、まったく知らない地域よりも、より安全性を感じるようだと思われた。

治安状況の改善状況には、合計やサンパウロ市地方都市のどの調査結果にも大きな変化がみられないことがわかった。

地域治安の改善状況

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(330)	(276)	(160)
	%	%	%
常に安全である	48	47	50
3年前／6ヶ月前からより安全になった	41	41	41
わからない／意見なし	11	12	9

備考：3年前はサンパウロ市内、6ヶ月は地方都市

「常に安全である」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|----------------------|----|
| | % |
| ● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル | 67 |
| ● サンジョゼ・ドス・カンポス市 | 60 |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 57 |
| ● 20～29歳 | 56 |
| ● 義務教育修了者 | 56 |

「3年前／6ヶ月前からより安全になった」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

%

- ジャルジン・ラニエリ 68
- サンミゲル・パウリスタ 56
- 50歳以上 47

地域内の安全ではない場所の存在

前回調査と同じように今回の調査でも回答者の意見がはっきり分かれた。

ほぼ半数の回答者は昼間でも歩くのに不安を感じる場所が地域に存在すると述べ、その他の半数はそのような場所が存在しないと述べている。前回の調査では回答者の半数以上が「安全でない場所がある」と回答している。

地方都市では、サンパウロ市よりもやや多くの回答者が安全だと感じているように思われる。

地域内の安全でない場所の存在

	今回の調査			前回調査
	合計	サンパウロ市	地方都市	
標本数	(800) %	(640) %	(160) %	(800) %
地域で安全でない場所がある	48	50	43	51
安全でない場所はない	49	47	57	47
わからない／意見なし	2	3	1	2

「地域内に安全でない場所がある」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|--------------|----|
| | % |
| • ロータリー | 76 |
| • ラルゴ・ド・ベレン | 63 |
| • ジャルジン・ラニエリ | 58 |
| • 高等教育修了者 | 58 |

一方で昼間歩くのに「安全でない場所はない」と答えた割合が高いのは、以下の地域である。

- | | |
|---------------------------|----|
| | % |
| • スザノ及びサンジョゼ・ドス・カンポス市一通過者 | 65 |
| • ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 65 |
| • サンミゲルパウリスタ／プリメイロデマーイオ | 64 |
| • ヴィラ・ダス・メルセス | 63 |
| • サンジョゼ・ドス・カンポス | 63 |
| • スザノ及びサンジョゼ・ドス・カンポス市一就労者 | 60 |

地域内の軍警察の巡回

全回答者のうち約10名中1名の割合で軍警察は地域内巡回を行っていないと回答し、また6%がこの質問に回答しなかった。つまり、10名中約2名が地域パトロールがないと答えるが、もしくは回答しなかったということになる。

地域内の巡回を認知している回答者のうち、10名中4名の割合で「毎日巡回がある」との回答がみられ、10名中約2名の割合で「時々巡回がある」と答えている。その割合は、一日に数回の巡回があると答えた回答者と同様の比率でもある。

多くの回答者が巡回が効果があるとを認識しており、昼夜を数回の巡回があると答えた回答者もいた。

「毎日巡回がある」では回答者の割合は、サンパウロ市と地方都市に変わりはないものの、「時々巡回がある」では地方都市の割合が高かった。

また前回と今回の調査結果の比較では、あまり変化はみられなかった。

軍警察パトロール

	今回調査			前回調査
	合計	サンパウロ市	地方都市	
標本数	(659) %	(517) %	(142) %	(687) %
1日に10回以上 (昼/夜)	4	5	1	5
1日に5～10回 (昼/夜)	6	6	5	7
1日に4回以内 (昼/夜)	11	11	11	10
毎日巡回がある	40	40	40	39
週に数回巡回がある	6	6	8	11
時々巡回がある	21	20	29	25
めったにない	11	11	11	3

地域に「毎日巡回がある」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- ノッサ・セニョラ・ド・カルモ 54%
- 初等教育修了者 47%

「時々巡回がある」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• スザノ市及びサンジョゼ・ドス・カンポス市一居住者	30
• ノッサセニョラ・ド・カルモ	30
• サンジョゼ・ドス・カンポス市	30
• サンミゲルパウリスタ	29

BCS の認知度

地域 BCS について「良く知っている」と「大体知っている」との割合の差は大変小さいものであった。回答者の大半である 10 名中 4 名ずつが、この 2 つの選択しに分かれている。また 10 名中約 1 名の割合で「聞いて知っている」と回答しているが、これは「知らない」と答えた回答者と同じ割合である。

サンパウロの調査結果は、合計や地方都市の結果と、少々の違いはあるものの、似通っている。

また、「大体知っている」と答えた割合が最も大きく、回答者の約半数となっている。

前回の調査は、合計やサンパウロ市の調査結果と類似しているが、「大体知っている」の回答者がやや多いという結果であった。

つまり、少しの違いはあるにせよ BCS に対して「大体知っている」といった回答が最も大きい割合を占め続けているのがわかる。

BCS の認識について

	今回調査			前回調査
	合計	サンパウロ市	地方都市	
標本数	(800)	(640)	(160)	(800)
	%	%	%	%
良く知っている	37	37	34	39
大体知っている	42	40	49	47
聞いて知っている	10	9	11	7
知らない	11	13	6	8

BCS を「良く知っている」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|---------------------------|----|
| | % |
| ● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一就労者 | 52 |
| ● 高等教育修了者 | 46 |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 46 |
| ● 50 歳以上 | 44 |
| ● ヴィラ・ダス・メルセス | 43 |

BCS を「大体知っている」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	56
• スザノ市／カザ・ブランカ	56
• スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市－通過者	55
• スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市－就労者	54
• ラルゴ・ド・ベレン	53
• ジャルジン・ラニエリ	53
• 40～49歳	48

以前から BCS の認識について

BCS について「知らない」と答えた少数の回答者のうち、10名中約7名が「初めて聞いた」と回答し、その他の回答者は「前に聞いたことがある」と回答した。

前から BCS の認識について

BCS 認識されていない回答者	(91)
	%
初めて聞いた	70
前に聞いたことがある	30

BCS について「初めて聞いた」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• 就労者－合計	93
• ロータリー	87
• D/E クラス（貧困層）	83
• 16～24歳	80
• 女性	77

地域内での BCS 活動の評価

BCS について知っているとは答えた回答者は、その活動を高く評価している。合計やサンパウロ市または地方都市の調査結果をみても、その約半数以上が「大変良い」または「良い」と評価している。また10名中2名の割合で「普通」と評価し、10名中1名の割合で「悪い」または「大変悪い」と回答している。その否定的評価の割合は「わからない／意見なし」とほぼ同じ比率である。

地域内での BCS 活動評価

	合計	サンパウロ市	各地方
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
➤ 大変良い	12	13	11
➤ 良い	43	42	44
肯定的評価	55	55	55
➤ 普通	20	20	22
➤ 悪い	8	8	6
➤ 大変悪い	5	5	5
否定的評価	13	13	11
➤ わからない／意見なし	12	12	12

BCS 活動に対して「肯定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|----------------------|----|
| | % |
| ● ラルゴ・ド・ベレン | 66 |
| ● スザノ市／カザ・ブランカ | 66 |
| ● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル | 65 |
| ● 義務教育修了者 | 61 |
| ● D/E クラス（低所得者層） | 61 |

一方で、BCS 活動に対して「否定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|-------------------|----|
| | % |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 40 |

BCS 活動に対する肯定的評価の理由

BCS 活動について肯定的評価をした2つの主な理由は、回答者が経験した対応に起因するものであった。約1/3の回答者が、市民に対応時の警察官の親切さや丁寧さ迅速さを挙げた。

その他の理由としては、地域治安の向上につながる警察官の存在感と迅速さが市民からみえているという点である。

以下の表でもわかるように、それぞれの理由は各地域や分類によってばらつきがある。

BCS に対する肯定的評価の理由

標本数	(404) %	回答者	%
親切／丁寧である	36	SJC/S－就労者	52
		40～49歳	41
		50歳～	41
要望時に対応する	31	SJC/S－就労者	48
		N. S. Carmo	46
		ペルス／ブリタニア	41
		マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	40
		40～49歳	39
巡回が常時行われている	19	スザノ市	34
		SJC/S－居住者	32
		SJC/S－通過者	32
		ヴィラ・ダス・メルセス	26
迅速な対応する	16	SJC/S－通過者	32
		ラルゴ・ド・ベレン	30
		SJC/S－居住者	29
常時駐在している	11	高等教育終了者	21
		ヴィラ・ダス・メルセス	21
		ロータリー	19
		ラルゴ・ド・ベレン	18
地域の治安が向上した	10	マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	25
		25～29歳	20
		SJC/S－通過者	18

備考：SJC/S サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市

またごく低い割合ではあるが、以下のようにその他の理由もみられた。数字的には少ないが、内容的に重要であるとも考えられる。

	肯定的評価をした理由
8%	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察官の存在により犯罪を妨げる
7%	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察官が応急手当もする
6%	<ul style="list-style-type: none"> ● BCS により犯罪／暴力が減った
5%	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しい情報を市民に伝える
4%	<ul style="list-style-type: none"> ● 不審者に対応する ● 路上の警察官が多くなった ● 地域社会のイベントを推進する
3%	<ul style="list-style-type: none"> ● BCS の近接しているので対応が早い ● 警察官が職務質問している
2%	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察官が良く訓練されている ● 警察官が市民を認識している ● 必要時に迅速に対応した ● 商店への強盗が減った
1%	<ul style="list-style-type: none"> ● けんかなどに警察官が対応する ● 事件に取り締まる ● 地域がおちついている ● 地域の祭りなどを警備をしている

BCS に対する普通評価の理由

BCS に対して「普通」評価をした主な理由は、巡回する警察官足りないなど活動が不十分であるという点に起因しており、またその一方で「業務を遂行しない」、「対応するのに時間がかかる」といった地域の必要性に関連したものもみられた。

普通評価の理由

標本数	(150) %	回答者	%
地域巡回が行われてない	30	通過者－合計	58
		N. S. Carmo	57
		25～29歳	44
		ペルス／ジャルジン・ブリタニア	43
		D/E クラス（低所得層）	41
		スザノ市	40
		女性	38
		地域に警察官が不足	18
ロータリー	45		
ヴィラ・ダス・メルセス	40		
50歳～	34		
A/B クラス	28		
中等教育修了者	25		
対応に時間がかかる	16		
		ペルス／ブリタニア	29
		30～39歳	26
		高等教育修了者	22
職務を遂行しない	12	マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	33
		義務教育修了者	23
		16～24歳	21
		ラルゴ・ド・ベレン	20
		ヴィラ・ダス・メルセス	20
		警察官が BCS の前／中だけにいる	9

備考：N. S. Carmo ノッサセニョラド・カルモの略称

S/SJC スザノ市及びサンジョゼ・ドス・カンポス市の略称

BCS に対して普通評価した他の理由も、低い割合ながら注目に値するものである。これらには、BCS を構成する警察官の姿勢の改善につながり、将来的により良い評価をもたらす鍵を含んでいる可能性がある。

普通と評価した理由	
7 %	警察官が市民に敬意をはらわない
5 %	BCS の近所だけを巡回する 要望時に対応するパトカーがない 市民が問題を解決した後にのみ警察官が来る 警察官は市民に協力しない 汚職警察官である 警察は遅い
4 %	暴力は同じように続いている／変化なし
3 %	要望時にはいつも対応する 警察官は親切／丁寧 すべての市民を犯罪者扱いする
2 %	迅速に対応する 必要なときには不在 地域に安全性がみられない 警察官は仕事に不熱心／低給料
1 %	BCS で暴力／犯罪が減った 警察官の増加／路上に警察官が多い 存在感がある 常時巡回を行っている 応急手当てをする 市民が警察署へ行くのに協力する 市民に正しい情報を伝える 警察官が不審者に接近する BCS が無人である 訓練されていない警察官／経験が浅い 警察官が殴る／たたく／攻撃的である 警察官は市民への犯罪予防の活動を行わない 警察官が好きではない 地域と距離を置いている 警察官が犯罪者をこわがる 一度も BCS 活動を利用したことがない BCS に連絡すると、190 番へ電話かけるようにいわれる 犯罪の届けを出すときに、身分証明を要求される 警察の設備がもろい

BCS に対して否定的評価をした理由

否定的評価の理由は、割合に違いがあるがそのほとんどが「普通」評価のそれとほぼ一致している。それは、「普通」回答時に肯定的よりも否定的な要素を多く含んでいるからだといえる。

否定的評価をした理由

標本数	(93) %	回答者	%
地域で巡回が行われてない	33	ペルス／ジャルジン・ブリタニア	52
		サンパウロ市－就労者	46
		30～39歳	44
		通過者－合計	42
		就労者－合計	41
職務を履行しない	25	高等教育修了者	40
		サンパウロ市－通過者	38
地域内の警察官が不足	16	初等教育修了者	33
		女性	31
		サンパウロ市－就労者	29
		40～49歳	27
		50歳以上	26
		就労者－合計	24
対応に時間がかかる	12	40～49歳	33
		義務教育就労者	21
		Cクラス（中産階級）	20
		南部－合計	20
対応するのにパトカーがない	9	50歳以上	16
地域で安全性を感じない	9	40～49歳	33
		高等教育就労者	20
		就労者－合計	17
		東部－合計	15
		女性	15

否定な評価理由	
8%	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察官は住民に協力しない
6%	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要なときに不在 ● 警察官が BCS の前／中だけにいる ● 警察官が市民に敬意をはらわない ● 警察は遅い ● 警察の設備がもろい
4%	<ul style="list-style-type: none"> ● BCS の近辺だけを巡回する ● 汚職警察官である ● 暴力は同じように続いている／変化なし
3%	<ul style="list-style-type: none"> ● 訓練されていない警察官／経験浅い ● すべての市民を犯罪者扱いする
2%	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察官が殴る／たたく／攻撃的である ● 警察官も犯罪者を恐れている
1%	<ul style="list-style-type: none"> ● 警察官は常時巡回を行っている ● 市民が問題を解決した後にのみ警察官が来る ● 警察官も犯罪を行っている ● 地域と距離を置いている ● 一度も BCS を利用したことがない ● BCS を連絡すると 190 番へ電話かけるようにいわれる ● 警察官は仕事に不熱心／低給料

BCS 設置後の改善の認知度

合計及びサンパウロ市や地方都市の調査結果でも一様に、10名中約6名の割合でBCS設置後警察活動が「良くなった」と回答した。

また10名中約2名の割合で警察活動について、「以前と同様に良い」と回答している。つまり、4名中約3名の割合で、治安に対して肯定的評価していることになる。

一方で、1%は警察活動が「悪くなった」と評価し、15%が「以前と同様に悪い」と評価した。ここでもサンパウロ市地方都市によつての変化はみられない。

BCS 設置後の改善の認知度

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
➤ 良くなった	58	57	60
➤ 悪くなった	1	1	3
➤ 以前と同様に良い	18	18	17
➤ 以前と同様で悪い	15	15	13
➤ わからない/意見なし	8	9	6

BCS設置後に地域の警察活動が「良くなった」と評価をした割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
● ジャルジン・ラニエリ	70
● 老年層40～49歳及び50歳以上	67
● 高等教育修了者	67
● サンパウロ市一通過者	65

そのような感覚を最も持っていないのは以下の回答者である。

	%
● 若年層	47
● ペルス/ジャルジン・ブリタニア	37
● ローター	47

BCS の設置年数

BCS の設置を認知している回答者であっても、その年数についてははっきりしない。おそらく日常の生活でよく見られるように、年月の経過を覚えていないからであろうと思われる。

10名中約3名の割合で回答者は、年数に対して「わからない」と答えており、また約半数は地域に「5年間以上」と回答している。

合計や地方都市、サンパウロ市でも、その結果はほぼ同様あるが、地方都市の回答者は「5年以上」と回答している比率が比較的低いことがわかる。

BCS の設置年数

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
1年以下	2	1	7
約1年間	1	1	1
約2年間	5	4	7
約3年間	10	10	8
約4年間	8	8	6
約5年間	1	11	10
5年以上	36	38	25
わからない／意見なし	29	27	36

BCS の設置年数が「5年以上」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|----------------------|----|
| | % |
| ● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル | 61 |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 51 |
| ● ノッサセニョラ・ド・カルモ | 47 |
| ● 50歳以上 | 44 |
| ● A/Bクラス | 44 |

BCS 活動の変化の認知

サンパウロ市はここ3年間の、サンジョゼ・ドス・カンポス市及びスザノ市はここ6ヶ月間についての比較評価を回答者に尋ねたところ、BCS 活動のスタイルの変化が進んでいることを、10名中7名の割合の回答者は認知していないことがわかった。そして4名中1名の割合で何からの変化を認識していると回答している。

それは、合計やサンパウロ市、地方都市の調査結果でも同様であった。

BCS 活動の変化の認知

	合計	サンパウロ市	地方都市
BCS 活動を認識している回答者	(736) %	(582) %	(154) %
変化を感じた	24	23	25
変化を感じなかった	71	71	69
わからない／意見なし	6	6	5

BCS 活動スタイルについて「変化を感じなかった」と答えた割合の高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|-------------------|----|
| | % |
| ● ペルス／ジャルジン・ブリタニア | 84 |
| ● ヴィラ・ダス・メルセス | 82 |

認知された変化

回答者に認知された主な変化という、警察のパトカーや自転車また徒歩での巡回の増加があげられる。それに加え、「警察官がより思いやりがあるようになった」、「強盗、窃盗や事故にあった被害者対策を行っている」「住民を親交を深めようとしている」などがみられる。

認知された変化

BCS 活動に変化を感じた回答者	(175) %
巡回の増加／パトカー巡回	62
巡回の増加／徒歩巡回	30
事故での被害者対策をおこなっている	15
住民をより理解しようとしている	14
強盗／窃盗の被害者に対策を行っている	13
定期的に巡回住民訪問を行っている	12
住民情報を記録／申請する	11
犯罪にあった被害者に対策を行っている	9

その他の変化	
3%	<ul style="list-style-type: none"> BCS がリフォームされた
2%	<ul style="list-style-type: none"> 警察官が増加 巡回増加／自転車巡回
1%	<ul style="list-style-type: none"> 市民により丁寧 地域状況に気をつけている バスのない時間に市民を送り届ける 対応が早くなった BCS に不在または警察官が仕事していない 自転車警察官がいない 警察官が減少

警察官の「巡回の増加」を感じた多くのは、以下の回答者である。

● ペルス／ジャルジン・ブリタニア	89
● スザノ市	84

• マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	79
• ラルゴ・ド・ベレン	78
• スザノ市／サン・ジョゼ・ドス・カンポス市一居住者	75
• D/E クラス（低所得層）	74
• ノッサ・セニョラ・ド・カルモ	74
• 40～49歳	72

BCS の活動から信頼度

地域の BCS 活動があるにもかかわらず、回答者の半数は「警察に対する見解に変わりがない」と回答している。その割合は 10 名中 6 名と地方都市では最も高く、合計の結果は地方都市より若干低く、さらにサンパウロ市ではそれよりに低いという結果になった。

また 10 名中約 4 名の割合で警察活動を「より信頼している」が、その割合は地方では少なくなっている。

BCS の信頼性について

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
より信頼している	42	43	37
より信頼しない	6	7	3
警察に対する見解は変わらない	50	47	59
わからない／意見なし	2	3	1

「警察に対する見解は変わらない」と答えた割合が多いのは、以下の回答者である。

- | | |
|---------------------------|----|
| | % |
| ● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市－通過者 | 73 |
| ● ノッサセニョラ・ド・カルモ | 60 |
| ● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市－合計 | 59 |
| ● サンミゲルパウリスタ／プリメイロ・デ・マーイオ | 58 |

BCS に対してより大きな信頼を寄せているのは、主に老年層、低所得層、及び低学歴層の市民である。下記の信頼性が高い地域結果でも、全体的に都市周辺地域多く、つまり低所得者が多いことがわかる。

- | | |
|----------------------|----|
| | % |
| ● マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル | 60 |
| ● ヴィラ・ダス・メルセス | 54 |
| ● 初等教育修了者 | 51 |
| ● 50 歳以上 | 50 |
| ● D/E クラス（低所得層） | 49 |
| ● ラルゴ・ド・ベレン | 49 |

BCS との関係（１）

地域で活動をしている BCS の警察官との関係について回答者に尋ねた。

約半数の回答者は BCS との関係に対する考えに「変化なし」と答えている。その割合は地方都市では最も高く、一方サンパウロ市では最も低い。

10名中約4名の割合で回答者は親近感を感じており、その比率はどこ調査結果でも同様である。また反対に、距離感では差が見られ、合計で7%、地方都市では3%という結果になった。

BCS との関係

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
➤ より親近感	43	43	39
➤ より距離感	7	8	3
➤ 変化なし	48	45	57
➤ わからない／意見なし	3	3	1

地域で対応する BCS の警察官との関係に対して「変化なし」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一通過者 68%
- サンミゲルパウリスタ／プリメイロ・デ・マーイオ 61%
- スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一居住者 57%
- 16～24歳及び25～29歳 55%

「より親近感」を感じている割合が高いのは、以下の回答者である。

- マリア・カンジダ／プラッサオスカル 61%
- ラルゴ・ド・ベレン 55%
- 50歳以上 54%
- ヴィラ・ダス・メルセス

BCS との関係（２）

回答者に対して BCS に関する肯定的質問し、それに対して賛成か反対という割合を調べた。

それぞれの質問に対して、一部または完全に賛成する割合が大変高いことがわかった。

最も賛成率が高かった質問は、BCS の対応にかかる質問であり、また最も賛成率が低かった質問は、遺失物に対応にかかる質問であった。

その二つを比べると 84%と 55%と差があるが、全体的に、どの質問についても半数以上が賛成しており、BCS の警察官は良いサービスをしていると評価している。

またそのほかには、最も賛成少ない最後の 2 項目の「わからない／意見なし」では回答者が 4 分の 1 の比率を占めている。

BCS に関する関係

標本数（736）	賛成	賛成		反対		Ns/Nr
		完全	一部	一部	完全	
親切に対応する	84	71	13	4	2	10
交通事故の被害者に対し 良い対応をする	73	56	17	6	3	18
救急呼びかけの場合すぐ 対応する	71	50	21	9	5	15
警察存在感で地域内が安 全になり	71	43	28	15	8	6
要請時すぐ対応する	70	43	27	12	7	11
丁寧に職務質問する	70	52	18	14	5	12
強盗の被害者に対し対応 する	66	41	25	11	5	18
犯罪の被害者や、家族に 対し対応する	58	35	23	10	5	27
遺失物に対し丁寧に 対応する	55	31	24	15	6	25

備考：Ns/Nr - わからない／意見なし

地域 BCS 警察官のインパクト

地域 BCS の活動の地域治安に対するインパクトについて、回答者の意見は明確に分かれた。

地域の「治安に効果がない」と評価した割合は、「大きな効果」「小さな効果」とほぼ同じ比率であり、それはつまり各 4 名に 1 名が、この 3 つの選択肢の中から回答しているということである。

10 名中 1 名の割合で、BCS が警察活動に「大変大きな効果」があると回答し、また 7% は「大変小さい効果」と評価している。

合計やサンパウロ市地方都市の調査結果にも、大きな違いはみられなかった。

地域 BCS に関する警察活動の効果

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
大変大きな効果	11	11	11
大きな効果	24	24	22
小さな効果	25	24	27
大変小さな効果	7	7	6
治安に効果なし	26	25	29
わからない／意見なし	7	8	5

地域 BCS の治安への効果について、下記の選択肢で最も高い割合を得たのは、以下の回答者である。

治安に効果なし

	%
● ペルス／ジャルジン・ブリタニア	54
● サンジョゼ・ドス・カンポス市	38
● ノッサセニョラ・ド・カルモ	36
● サンミゲル／プリメイロ・デ・マーイオ	33

小さな効果

	%
● ジャルジン・ラニエリ	34
● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一就労者	32

大きな効果

	%
• ラルゴ・ド・ベレン	36
• マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	33
• サンパウロ市一就労者	31

大変大きな効果

	%
• ヴィラ・ダス・メルセス	24
• マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	21

大変小さな効果

	%
• ジャルジン・ラニエリ	15
• ヴィラ・ダス・メルセス	14

警察に対する見解の変化

BCS が地域住民との連携協力活動しても、10名中約6名の割合で警察に対する見解に「変化なし」と回答した。また3名中1名の割合で「良くなった」答える一方で、3%は「悪くなった」と回答した。

回答者の周囲の一般市民（居住者、就労者及び通過者）の見解は、回答者の見解と一致している。つまりは、回答者は一般市民についての意見に、自分の意見を投影していると考えられる。

警察に対する見解の変化

	回答者			一般市民		
	合計	サンパウロ市	地方都市	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)	(736)	(582)	(154)
	%	%	%	%	%	%
良くなった	33	34	31	34	35	29
悪くなった	3	3	1	3	3	1
変化なし（自然発生）	58	56	67	53	50	65
わからない／意見なし	6	7	2	10	12	5

「変化なし」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• ペルス／ジャルジン・ブリタニア	78
• サンジョゼ・ドス・カンポス市	78
• スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市－通過者	73
• ノッサセニョラ・ド・カルモ	69
• サンミゲル・パウリスタ／プリメイロ・デ・マーイオ	69
• スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市－就労者	68

警察に対する見解が「良くなった」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• ラルゴ・ド・ベレン	57
• ロータリー	51
• 40～49歳	44

警察官に対する認知度

回答者の中で、地域 BCS と接点がありません。警察に関して回答者が距離をとっているようにも思われる。回答者が BCS へ行くのは本当に必要な場合のみとなっている。

この状況は、その他の BCS と市民の関係の様々な分析結果からもわかるように、はっきりと見て取ることができる。

認知度にはまったく知らないというレベルから、良く知っているというレベルまでであるが、回答者の大半は BCS の警察官を知らないという結果になった。10名中1名だけの割合で警察官を「大変良く知っている」と述べており、その同じ割合で「良く知っている」と答えている。つまり10名中たった1人の割合の回答者が警察官の名前を知っているということになる。

約4名が警察官を「見知っている」と答え、また、約3分の1はまったく知らないと答えた。

地方都市ではサンパウロ市より、警察官の認知度が高いのがわかる。それはおそらく警察官が勤務する地域内に属しているからであるからであろう。

警察官に対する見解

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
大変良く知っている、それぞれの名前も知っている	10	8	16
良く知っているが、名前は知らない	12	13	8
大体知っておる、見知っている	42	43	39
知らない／一度も見たことがない	35	35	36

BCS の警察官を「大体知っている、見知っている」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
● ラルゴ・ド・ベレン	59
● ジャルジン・ラニエリ	51

BCS の警察官を「知らない」と回答した比率が高いのは、以下のとおりである。

	%
• サンミゲル／プリメイロ・デ・マーイオ	51
• ヴィラ・ダス・メルセス	51
• ロータリー	45
• スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市ー通過者	43
• 25～29歳	42

BCS の利用

BCS を認知している回答者のなかで 10 名中 6 名の割合で回答者は、一度も BCS を利用する必要がなかったと答えている。

BCS の利用について、サンパウロ市は合計の調査結果にほぼ似通っているが、地方都市では、BCS を利用したことがある割合が約半数と最も高い。

BCS の利用

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
はい	39	37	49
いいえ	60	63	51

BCS を利用した比率が高いのは、以下の回答者である。

	%
• ロータリー	72
• サンミゲルパウリスタ／プリメイロデマーイオ	71
• ヴィラダスメルセス	71
• マリア・カンジダ／プラッサオスカル	70

BCS を利用した理由は様々である。そのなかで最も多く述べられているのは、急病人への手助けのほかに加えて、告発関係、事件発生記録の作成、情報請求、事故関連になどである。

BCS 活動に対する利用について

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(288)	(213)	(75)
	%	%	%
告発するために行った	35	34	39
事件発生記録を作成しに行った	20	22	17
情報請求をした	18	19	15
事故関連	18	18	19
急病に対する手助けを頼んだ	17	19	11
遺失物または拾得物関連	7	8	3

	BCS に対する活動を利用した
3%	争いごとを収める手助けを頼んだ
2%	BCS の設備を使用した (トイレ、電話など)
1%	家族親類探しに関する手助けを頼んだ

BCS を利用する割合が最も高いのは、以下の回答者である。

告発をする	%
• 30～39歳	45
• マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	42
• スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一就労者	41

事件発生記録の作成	%
• A/B クラス	28
• マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	38

BCS の対応に対する評価

BCS 活動を利用した回答者の多くは肯定的評価であり、4名中約3名の割合で「大変良かった」または「良かった」と回答している。この評価の割合は、サンパウロ市ではより高くなっている。反対に、地方都市ではそれよりも低く、比較的批判的な回答が多い。

BCS の対応に対する評価

	合計	サンパウロ	地方都市
標本数	(288)	(213)	(75)
	%	%	%
➤ 大変よい	32	37	20
➤ 良い	43	42	47
肯定的評価	75	79	67
➤ 普通	9	7	13
➤ 悪い	6	5	8
➤ 大変悪い	8	8	8
否定的評価	14	13	16

BCS の対応に対して「肯定的評価」をした割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
• サンミゲル／プリメイロ・デ・マーイオ	100
• サンパウロ市－就労者	91
• ロータリー	86
• サンパウロ市－通過者	85
• ラルゴ・ド・ベレン	85
• 低学歴層	83
• 高等教育修了者	83
• 就労者－合計	83

BCS の対応に対して肯定的評価をした理由

BCS の対応に対する肯定的評価の理由は数多くある。

主に警察官の対応時の親切さや忍耐強さ、または敬意に起因しているのが多い。また情報の伝え方を訓練されている、事故の手助け、迅速な対応なども挙げられている。

肯定的評価の理由

	標本数	(218) %
肯定的理由 (NET)		94
● 親切である／忍耐強い／敬意を示す		60
● 迅速に対応する		33
● 事故発生時／要請時に手助けをする		20
● 情報を伝え方を訓練されている		12

少ない比率であるが、重要と思われるその他の理由

	肯定的評価した理由
4%	● 発生を記録する／すぐに記録する
3%	● 事件発生中に感情的なサポートを与える
2%	● 市民に敬意を示す ● 記録のための場所へ案内した ● 巡回を行っている／行った
1%	● 犯罪者でも差別しないで救助する ● 事件記録を届けるように警察署へつれてく ● 混乱／暴力なしで事件を解決した ● 近況を聞きに再びくる ● 家族関係について助言する ● 不審者に対応する

警察官に対して「親切である／忍耐強い／敬意を示す」と答えたの比率が高いのは、以下の回答者である。

	%
● 義務教育修了者	80
● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市一就労者	79
● ヴィラ・ダス・メルセス	76
● ペルス／ジャルジン・ブリタニア	76
● サンパウロ市 一住民	72

なお、警察官に対して「迅速な対応すること」と答えた比率が高いのは、以下の回答者である。

	%
スザノ市	71
スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市ー合計	66
マリア・カンジダ／プラッサ・オスカル	58

BCS の対応に対して、「普通」や否定的評価をした比率は低い。25名だけが「普通」と評価し、41名が「悪い」又は、「大変に悪い」といった否定的評価をしている。

BCS に関する対応が「普通」と評価した回答者の大半は、「普通」評価を否定的に捉えており、その理由として否定的なものが多い。

普通と評価した理由

	標本数	(25) %
肯定的理由 (NET)		16
• 親切である／忍耐強い／敬意を示す		8
• 事故発生時に手助けをする		8
否定的理由 (NET)		92
• 思いやりがない／手助けする気がない／傲慢である		40
• 対応するまで時間がかかる		32
• 犯罪者を捕まえる気がない		12
• その場所での記録をしなかった。別な場所へつれていった。		12
• 告発を調査しない／事件を調査しない		12
• 要請をしたが対応なし		8
• 効果がない／問題を解決しない		8

普通と評価した理由	
4%	<ul style="list-style-type: none"> • 発生を記録する／すぐ記録する • 迅速に対応がする • 記録のための経験不足 • 文書が見当たらない場合他の部署／警察署に回す • 事件の対応に、パトカーが不足 • 少数の事件しか扱わない／無関心／不親切

否定的な評価理由

	標本数	(41) %
否定的理由 (NET)		98
• 思いやりがない／手助けする気がない／傲慢である		37
• 対応するまで時間がかかる		20
• 少数の事件しか扱わない／無関心／不親切		20
• その場所での記録をしなかった。別な場所へつれていった。		15
• 要請をしたが対応なし		12
• 事件の対応に、パトカーが不足		10

	否定的な理由
7%	<ul style="list-style-type: none"> • BCS にたった1人の警察官しかいなかった • 効果がない／問題を解決しない • 騒音の告発に対応しない
5%	<ul style="list-style-type: none"> • 告発を調査しない／事件を調査しない
2%	<ul style="list-style-type: none"> • 記録のための経験不足 • 文書が見当たらない場合他の部署／警察署に回す • 車両が盗まれても取り戻さない • 強盗に遭遇後 BCS に行ったら、警察署に行くよう言われた • 犯罪者と親密関係である

BCS を訪ねる習慣について

地域住民問題や異常なことがなどが起きた場合にも、大半の回答者が BCS を訪ねる習慣がないと回答した。ただ 1 名だけが訪ねると答えた（12%）。

BCS を訪ねると回答した比率が最も低かったのは、スザノ市及びサンジョゼ・ドス・カンポス市で、その回答者のほとんどが習慣がないと回答した。

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(736)	(582)	(154)
	%	%	%
習慣がある	12	15	3
習慣がない	87	84	97

BCS の警察官の巡回訪問

地域 BCS を認知している居住者及び就労者のうち、4 名中 3 名の割合の回答者は、警察官の訪問がないと答えた。彼らと同居しているものや一緒に働いている市民も同様の回答をしている。つまり 4 名中 1 名の割合のみの回答者が、BCS の警察官の巡回訪問を受けたということがわかる。それは住宅でも商店でも同様の割合であった。

地域 BCS の警察官の巡回訪問について

	回答者			周辺住宅・商店		
	合計	サンパウロ市	地方都市	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(557)	(443)	(114)	(557)	(443)	(114)
	%	%	%	%	%	%
➤ はい	26	27	21	24	26	17
➤ いいえ	74	73	79	73	71	80

警察官の巡回訪問を受けた居住者や就労者のうち、3 分の 1 が 3 回の訪問があったと回答した。その割合はサンパウロ市で最も高く、一方で地方都市では大変低くなっている。

警察官の巡回訪問を受けた回数の平均は 4.9 回であった。

また 3 名中 2 名の割合で 1 回～3 回訪問があったと述べ、回答者の 15% は 10 回以上の訪問があったと答えている。

地域 BCS の警察官の訪問について

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(143)	(119)	(24)
	%	%	%
➤ 1 回	36	39	21
➤ 2 回	18	19	13
➤ 3 回	12	13	8
3 回まで	66	71	42
➤ 4 回	6	5	8
➤ 5 回	4	3	8
➤ 6 回	4	4	4
➤ 8 回	1	1	-

10回以上	15	13	25
わからない／意見なし	5	3	13
➤ 平均回数	4,9	4,4	7,6

一方で、BCSの警察官の「巡回訪問を受けてない」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
● スザノ市一居住者	91
● 居住者一合計	85
● サンパウロ市一居住者	84
● サンミゲルパウリスタ／プリメイロ・デ・マーイオ	84
● ペルス／ジャルジン・ブリタニア	82
● 25～29歳	82
● 初等教育修了者	81
● D/Eクラス（低所得層）	81

住宅および仕事場のへの警察官の訪問に、回答者は肯定的な評価をしている。ごく少数の回答者だけが否定的評価をしている。このような訪問に対して地方都市では肯定的評価が一段と高くなっている。

警察官の巡回訪問について

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(143)	(119)	(24)
	%	%	%
➤ 大変良かった	25	21	46
➤ 良かった	60	63	46
肯定的評価	85	84	92
➤ 普通	10	10	4
➤ 悪かった	2	2	—
➤ 大変悪かった	2	2	—
否定的評価	4	4	—

近所または商店が警察官の訪問を受けたと回答したごくわずかな回答者のうち、10名中3名の割合で「意見なし」と回答しているが、そのほかの大半は肯定的評価をしている。

警察官から回答者周辺の訪問について評価

	合計	サンパウロ市	各地方
警察官が回答者の周辺へ訪問した者	(136)	(117)	(19)
	%	%	%
➤ 大変良い	16	15	21
➤ 良い	43	44	37
肯定的評価	59	59	58
➤ 普通	7	9	-
➤ 悪い	1	2	-
➤ 大変悪い	1	2	-
否定的評価	2	4	-
意見なし	31	29	42

軍警察活動に対する認知度

全回答者のうち10名中7名の割合で軍警察と地域との連携活動について「知らない」と回答している。軍警察活動について、サンパウロ市では「知っている」の答えた回答者の割合が最も高く、一方で地方都市では「知らない」割合のほうが高かった。

軍警察活動に対する認知度

	合計	サンパウロ市	地方都市
標本数	(800)	(640)	(160)
	%	%	%
➤ 知っている	28	31	18
➤ 知らない	71	68	82

「知らない」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

	%
● スザノ市／サンジョゼ・ドス・カンポス市－居住者	93
● ノッサセニョラ・ド・カルモ区	85
● サンジョゼ・ドス・カンポス市（アウト・ダ・ポンテ）	84
● ペルス区／ジャルジン・ブリタニア	83
● ヴィラ・ダス・メルセス区	81
● ロータリー	81

軍警察の活動への参加

軍警察による地域活動を知っている回答者のなかで、10名中約4名の割合で活動に参加したことがないと回答している。

また、様々なイベントに参加したと答えた回答者の中でも、参加状況には違いが見られる。10名中約4名の割合で、子供の日のイベントに通っていると回答した。それに続いて、貧困者ための衣服のキャンペーンや広場で行う映画や劇に参加しているという回答があげられる。

地方都市では11名だけが何らかのイベントに参加したことがあると回答した。その標本数の少なさから以下の表での地方都市の回答の比率を省略した。

警察活動の参加について

標本数	合計	サンパウロ市
	(127) %	(116) %
➤ 子供の日のイベント	38	41
➤ 広場での映画	28	29
➤ 広場での劇	28	29
➤ 貧困者のための衣服のキャンペーンに協力	28	27
➤ 予防注射のキャンペーンに協力	23	22
➤ 教育機関との連携活動 (PROERD/JCC)	15	12
➤ 市民権に関連した活動	15	14
➤ 母の日のイベント	14	16
➤ 平和のためのイベントのマラソンやウォーキング	13	13
➤ Conseg との連携活動	12	12
➤ クリスマスのイベント	12	12
➤ イースターのイベント	12	12
➤ 犯罪被害者に対する援助サービス	9	9
➤ 宗教団体との連携活動	7	8
➤ 弁護士への相談サービス	6	7
➤ 生命及び平和にかかわる協定	6	4
➤ 非政府組織 (NGO) との連携活動	2	3

軍警察への協力

全回答者で10名中約6名の割合では地域治安について、軍警察に「協力していない」と回答している。

その回答の比率はサンパウロ市では同様であるが、地方都市では約半数が軍警察に協力しことがあると回答した。

軍警察への協力

	合計	サンパウロ市	各地方
標本数	(800)	(640)	(160)
	%	%	%
協力したことがある	38	35	51
協力していない	62	65	49

軍警察に「協力していない」と答えた割合が高いのは、以下の回答者である。

- | | |
|--------------------|----|
| | % |
| • ヴィラ・ダス・メルセス区 | 76 |
| • ペルス区／ジャルジン・ブリタニア | 76 |
| • 16～24歳 | 75 |
| • ノッサセニョラ・ド・カルモ区 | 70 |

軍警察へ協力していない主な理由

	(497)
	%
犯罪や事故に遭遇したことがない	33
どのように協力するかわからない	27
一度も警察に協力や援助する必要がなかった	11

その他の理由

	協力しない理由について
8%	• 参加をするための時間がない
6%	• 警察を信用しない • 参加する機会がない
3%	• 仕返しが怖いー見て見ないふりをする

	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人的興味がない
2%	<ul style="list-style-type: none"> ● 権力があるから、協力必要ないと考える ● 地域の問題に関らない ● 警察の義務だから
1%	<ul style="list-style-type: none"> ● 要請しても対応しない

アンケート用紙

コード用

氏名: _____

住所: _____

都市: _____ | _____ | _____ | 地区: _____ | _____ | _____

私の仕事上の監査を行うためにお電話番号を教えてくださいませんか？

DDD: | _____ | - | _____ | | _____ | | _____ | | _____ | | 99() 無い/意見無し

OPP XXX/07 - XXX 面接 - 2007年8月

IBOPE - 世論調査有限会社 - アラメダサントス 2.101 番地 - 7階 - サンパウロ市

見本抽出 | _____ | | _____ | | 区 | _____ | | _____ | | 課 | _____ | | _____ | | 区域 | _____ | | _____ |

面接者: _____ | _____ | | _____ | | _____ | | 日付 _____ / _____ / _____

管理人・検証者: _____ | _____ | | _____ | | _____ | | 日付 _____ / _____ / _____

交番についての調査###

性別	コード
男性	1
女性	2

年齢:

| _____ | | _____ | 歳

年齢	コード
16-17歳	1
18-24歳	2
25-29歳	3
30-39歳	4
40-49歳	5
50-59歳	6
70歳以上	7

学歴		コード
無学者		01
独学で読み書きが出来る者		02
1971年後	1971年まで	
小学校		
1年生から3年生	1年生から3年生	03
4年生	4年生から5年生	04
中学校		
5年生から7年生	1年生から3年生	05
8年生	4年生	06
高校学校		
1年生と2年生	1年生と2年生	07
3年生 / 大学入学試験	3年生 / 大学入学試験	08
大学		
大学休学者		09
大卒者		10

地域の調査対象者	コード
住民	1
労働者	2
通行人	3

地域	コード
東地区	
ノサ・セニョーラ・ド・カルモ	1
ラルゴ・ド・ベレン	2
サン・ミゲル・パウリスタ/ プリメイロデマイオ	3
南地区	
ヴィラ・ダス・メルセス	4
ジャルジン・ハニエリ	5
西地区	
ペルス/ジャルジン・ブリタニア	6
北地区	
マリア・カンヂダ/ブラッサオスカル	7
中心部	
ホータリ	8

地域への滞在年数	年間/月間
居住	_____ _____ _____
職場	_____ _____ _____

通行人) この町には週に何回通行しますか？(一つの答えのみ)

- 1() 週に5日間から6日間
- 2() 週に3日間から4日間
- 3() 週に1日間から2日間
- 4() 週に1日以下 → 終了

面接の場所	コード
居住	1
道路	2
職場 (Municípios s/ setor censitário)?	3

労働状況	コード
職業有	1
無職	2

家長の学歴	点数
無学者 / 小学校休学	0
小学校完了 / 中学校休学	1
中学校完了 / 高校休学	2
高校完了 / 大学休学	3
大学卒	5

家具類とその他	個数						
	0	1	2	3	4	5	6+
カラーテレビ	0	2	3	4	5	5	5
ビデオ機/DVD機	0	2	2	2	2	2	2
ラジオ	0	1	2	3	4	4	4
バスルーム	0	2	3	4	4	4	4
車両	0	2	4	5	5	5	5
メイド(月給)	0	2	4	4	4	4	4
掃除機	0	1	1	1	1	1	1
洗濯機 / 洗濯用流し	0	1	1	1	1	1	1
冷蔵庫	0	2	2	2	2	2	2
フリーザー(独自の物又は冷蔵庫の部分)	0	1	1	1	1	1	1

全員

P08) 当地区には交番という軍警察拠点が配置されています。当交番が存在していることはご存知ですか或いはご存知ないですか。(はいの答えの場合)あなたはよくご存知ですか、ほぼ知っていますかあるいはただ聞いたことがありますか。(一項目を選ぶ)

- 1()よく知っています-----|
- 2()ほぼ知っています | P.10をお答えください
- 3()聞いたことがあります-----|
- 4()知らない→ P09を答えてください

交番知らない方へ (P08でコード4番選んだ方へ)

P09) 軍警察は当地区に住民の対応をする拠点を設置している。(交番の所持地を述べる)あなたは交番のことについてご存知でしたかあるいは初めて聞きましたか。(一項目を選ぶ)

- 1()知っていました
- 2()知らなかった
- 9()わからない/意見無し

交番のことについてご存知無い方は絶対収入の質問は止めて下さい。

P10) あなたは交番が設置されてどれくらい経ったかご存知ですか? (任意・一項目を選ぶ)

- 1()1年以下
- 2()約1年間
- 3()約2年間
- 4()約3年間
- 5()約4年間
- 6()約5年間
- 7()5年以上
- 9()わからない/意見無し

P11) 全体的にあなたは当地区の交番活動をどう評価しますか。(一項目を選ぶ)

- 1()とても良い, 3()ほぼ良い 5()とても悪い
- 2()良い 4()悪い 9()わからない/意見無し→ P.13から答えてください

P11のコード1-5と答えた方

P12) どういう理由であなたは当地区の交番活動を評価していますか。(上記の答えを述べる)他に理由がありますか?(任意・種々の答え/あいまいな答は受けないで下さい)

_____|_____|_____

_____|_____|_____

_____|_____|_____

999()わからない/意見無し

P13) 2年前に軍警察は当交番の活動のスタイルを変えました。その変更についてお気づきになりましたか? (一項目を選ぶ)

- 1()変更気がついた→ P14を答えて、P17から答えて下さい。
- 2()変更気づきませんでした -----| P.15から
- 9()わからない/意見無し-----| お答えください

変更気がついた方 (P13のコード1を答えた方)

P14) どういった変更だったのでしょうか? その他の変更はありますか? (任意・種々の答え下記項目に記載していない場合は空白に書き込み下さい)

- 001() 定期的に自宅訪問が行われるようになった。
- 002() 住民登録を行う・住民の情報を依頼する
- 003() 地域にて警ら活動・徒歩警らが増えた
- 004() 地域にて警ら活動・パトカー警らが増えた
- 005() 強盗・窃盗の被害者補助を常に行うようになった
- 006() 事故被害者補助を常に行うようになった。
- 007() 犯罪被害者補助を常に行うようになった。
- 008() 住民のことについて感心を示しているようです。
- 999() わからない/意見無し

変更について気がつかなかった方 (P13にてコード1か9番を選んだ方)

P15) 2年前に軍警察は住民との接近とその統合過程推進が見られるようになりました。あなたはそのことについて知っていましたか。 (一項目を選ぶ)

- 1() 知っていました → P.16をお答え下さい
- 2() 知りませんでした ----- | P.17から
- 9() わからない/意見無し ----- | お答え下さい

知らされた方 (P.15のコード1番を答えられた方)

P16) 詳細な過程をあげますので各件につき知っていましたかを教えて下さい。 (各項目をロテーションをしながら一致するコードを記入して下さい)

- コード: 1- 知っていました
2- 知りませんでした
9- わからない/意見無し

	定期的に自宅訪問が行われるようになった。
	住民登録を行う・住民の情報を依頼する
	地域にて警ら活動・徒歩警らが増えた
	地域にて警ら活動・パトカー警らが増えた
	強盗・窃盗の被害者補助を常に行うようになった
	事故被害者補助を常に行うようになった。
	犯罪被害者補助を常に行うようになった。
	住民のことについて感心を示しているようです。
	わからない/意見無し

交番をご存知な方 (P08にコード1から3番を答えられた方あるいはP09にコード1番を答えた方)

P17) 当地区での交番活動上におきまして、あなたは警察官に対しての信頼は高まりましたか、信頼は薄くなりましたかあるいは変更無しだと思いますか。 (一項目を選ぶ)

- 1() 信頼は高まった 3() 変更無し
- 2() 信頼は薄くなった 9() わからない/意見無し

P18) 当地区での交番の活動上におきまして、警察官とは緊密な関係になりましたか、離れた感じがしますか、あるいは変更は感じませんでしたか。 (一項目を選ぶ)

- 1() 親密に感じます 3() 変更無し
- 2() 離れた感じがします 9() わからない/意見無し

*** カード1 ***

P19) 当地区の交番について下記の項目に賛成するかしないかをお答えください。(各項目を読みあげ、相手の回答を待ち、その後には賛成の度合の補足質問を行って下さい) – ロテーション式に行ってください

- コード: 1 – 全く賛成する
2 – 一部賛成する
3 – 全く賛成しない
4 – 一部賛成しない
9 – わからない/意見無し

- 地域警察官は住民からの呼び出しを迅速に対応する。
 地域警察官は住民からの救急な呼び出しを迅速に対応する。
 地域警察官は犯罪被害者への助力をする
 地域警察官の存在により、当地区の平穏が守られています。
 地域警察官は遺失の場合に能率的な対応をする。
 地域警察官は交通事故の被害者に有能な対応をする。
 地域警察官は窃盗や強盗事件の被害者補助をする。
 地域警察官は当地区の住民に職務質問を親切に行います。
 地域警察官は案内・情報を求められる場合は適切な対応をします

*** カード2 ***

P20) 地位警察官の活動により、当地区の治安に影響があったと思いますか。(肯定の場合) あなたはどう思いますか (一項目を選ぶ)

- 1() とても大きな影響 4() とても小さな影響
2() 大きな影響 5() 治安に影響はなかった
3() 小さな影響 9() わからない/意見無し

P21) 交番の活動により、ご自宅ではどなたか警察官について意見が変わったと思いますか。(肯定の場合) この変更に対してあなたはどのようになりますか: (1 – 3番を読みあげ、一項目を選ぶ。)

- 1() よりよくなった 3() 意見は無変更
2() 更に悪くなった 9() わからない/意見無し

P22) 交番の活動により、当地域の住民は警察官に対して意見が変わったことに気がつくしましたか。(肯定の場合) この意見変更に対してあなたはどのようになりますか: (1 – 3番を読みあげ、一項目を選ぶ。)

- 1() よりよくなった 3() 意見は無変更
2() 更に悪くなった 9() わからない/意見無し

P23) あなたは 交番で活動をしている警察官のことについてどのようになりますか: (1 – 4番を読みあげ、一項目を選ぶ)

- 1() よく知っていて、何人かの名前まで知っている。
2() 知り合いで認知しますが、名前は知りません
3() だいたい知っていますが顔だけ知っています。
4() 当交番の警察官は知らないです。
9() わからない/意見無し

P24) ご家族のどなたか交番が提供する助力が必要な時はありましたか。 (一項目を選ぶ)

- 1() はい → と答えがあった場合 P.25 へ
2() いいえ -----| と答えがあった場合 P.28 へ
9() 意見無し-----|

###交番の警察官からの訪問をうけられた方 (P28の1項目を答えた方) ###

P32) 訪問時には警察官の活動のことについて説明がありましたか。 (一項目を選ぶ)

- 1() はい、説明を受けました
- 2() いいえ、説明を受けませんでした
- 9() わからない/意見無し

###交番の警察官からの訪問をうけられた方 (P28の1項目を答えた方) ###

P35) 警察官は交番の活動についての説明書類を届けましたか。交番の電話番号をお知らせしましたか。 (一項目を選ぶ。)

- 1() はい、説明書類や電話番号引き受けました
- 2() はい、説明書類のみ引き受けました
- 3() はい、電話番号のみ引き受けました
- 4() 説明書類も電話番号も引き受けませんでした
- 9() わからない/意見無し

全員へ###

P36) 当交番の警察官を受けた隣人はご存知ですか。 (一項目を選ぶ。)

- 1() はい → P.37 からお答え下さい
- 2() いいえ ----- | 収入に対しての質問をお答え下さい

警察官から訪問を受けた隣人をご存知の方 (P36の1項目を答えた方)

P37) 隣人から警察官に訪問されたという話を聞きましたか。 (肯定の場合) その話を聞いてその訪問の評価はいかがでしたか。 (1 - 5 番を読み上げ、一項目を選ぶ)

- 1() とても良い
- 2() 良い
- 3() ほぼ良い,
- 4() 悪い
- 5() とても悪い
- 9() わからない/意見無し

*** 収入カード***

REND1) 先月の個人収入層はどのあたりですか。 (一項目を選ぶ。第一縦列に記入してください)

*** 収入カード***

REND2) 先月の居住者の総合収入 (あなたの収入も含めて) (一項目を選ぶ。第二縦列に記入して下さい)

個人収入

- 1() 20倍以上最低給料
- 2() 10 - 20倍最低給料
- 3() 5 - 10倍最低給料
- 4() 2 - 5倍最低給料
- 5() 1 - 2倍最低給料
- 6() 最低給料まで
- 8() 独自の収入無し
- 9() 意見無し

家族収入

- 1() 20倍以上最低給料
- 2() 10 - 20倍最低給料
- 3() 5 - 10倍最低給料
- 4() 2 - 5倍最低給料
- 5() 1 - 2倍最低給料
- 6() 最低給料まで
- 9() 意見無し

管内記入欄:

質問番号	コード.1	コード.2	コード.3	コード.4	コード.5	コード.6	コード.7
コード	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □ □	□ □ □ □

20ヶ所/パイロットBCS一覧

N°	BCS	住所	電話番号	BCS長名	管轄司令本部
1	BCS Rotary	Rua Major Sertório X Cesário Mota Jr., 511 - Vila Buarque - São Paulo	3214-4696	3° SGT PM Wilson Jorge dos Santos Alves	首都警察司令本部
2	BCS Concorórdia	Largo da Concorórdia, 61 - Brás - São Paulo	6096-0243	3° SGT PM Manoel Félix do Nascimento	首都警察司令本部
3	BCS Mercês	Praça André Nunes, 67 - Vila das Mercês - São Paulo	6351-0041	3° SGT PM José Antônio de Oliveira	首都警察司令本部
4	BCS Vila Guercindo	Av. Ricardo Fafet, s/n° - Vila Guercindo - São Paulo	5063-2833	3 SGT PM José Paulo Alves de Lima	首都警察司令本部
5	BCS Oscar da Silva	Praça Oscar da Silva, 1 - Vila Guilherme - São Paulo	6900-0755	3° SGT PM Luis Carlos Pereira	首都警察司令本部
6	BCS Largo do Japonês	Largo do Japonês, s/n° - Vila Nova - Cachoeirinha - São Paulo	3851-2134	3° SGT PM Cleber Gabriel Lopez de Souza	首都警察司令本部
7	BCS 1° de Maio	Largo 1° de Maio, s/n° - Ermelino Matarazzo - São Paulo	6642-0904/6545-3851	1° SGT PM Laércio Mariano	首都警察司令本部
8	BCS Jardim Maia	Av. Professor Alipo de Barros, 511 - Jd. Maia - São Paulo	6584-2330	3° SGT PM Roberto Azarias Jaques	首都警察司令本部
9	BCS Britania	Rua Deistic Alves de Magalhães, 01 - Morro Doce - São Paulo	3911-3930	3° SGT PM Ede Luis Pereira	首都警察司令本部
10	BCS Morumbi	Praça Roberto Gomes Pedrosa, s/n° - Morumbi - São Paulo	3771-0637	3° SGT PM Antonio Marato	首都警察司令本部
11	BCS Pirajuçara	Estrada Kizaemon Takelti, 2425 - Vila Carrossina - Pirajuçara - São Paulo	4139-0246	3° SGT PM Johni Guimerães	大サンパウロ圏警察司令本部
12	BCS Vieira Couto	Av. Dom Azevedo Coutinho, 181 - Jardim Vila Formosa - São Paulo	6105-0248	2° SGT PM Nilton Pires da Silva	首都警察司令本部
13	BCS do Carmo	Av. Maria Luiza Americana, 1054 - Jd. Nossa Senhora Do Carmo - São Paulo	6748-6761	2° SGT PM Celso Aparecido Sioisim	首都警察司令本部
14	BCS Vaz de Lima	Rua Emérico Lobo de Mesquita, 161 - Santo Amaro - São Paulo	5891-4060	2° SGT PM Antonio Aparecido Onofrio	首都警察司令本部
15	BCS Ranieri	Estrada do M'Boi Mirim, 5780 - Jardim Ranieri - São Paulo	5833-2111	2° SGT PM Milton Vieira da Silva	首都警察司令本部
16	BCS Belém	Largo São José do Belém, s/n° - Belenzinho - São Paulo	6291-8479	3° SGT PM Mauricio Brites Martins	首都警察司令本部
17	BCS Vila Formosa	Praça Dr. Sampaio Vidal, s/n° - Vila Formosa - São Paulo	6782-0212	1° SGT PM Altair Aparecido Pereira	首都警察司令本部
18	BCS Casa Branca	Estrada dos Fernandes, 2590 - Casa Branca - Suzano	4746-1255	1° SGT PM Ronaldo Militão de Oliveira	大サンパウロ圏警察司令本部
19	BCS Alto da Ponte	Rua Alziro Lebrão, 240 - Alto da Ponte - São José dos Campos	(12) 3922-5073	2° SGT PM Elias Borges da Silva	地方警察司令本部
20	BCS Campo Grande	Rua Marques de São Vicente, 119 - Campo Grande - Santos	(13) 3225-0051	2° SGT PM Moises da Silva	地方警察司令本部

網かけのBCSが先行のパイロットBCS

サンパウロ州外での地域警察活動関連セミナー等出席実績

2005 年度

- マットグロッソ州、サンタカタリーナ州、マットグロッソスル州での地域警察セミナー（長期専門家）
- コロンビアでの国際地域警察セミナー（サンパウロ州軍警察 C/P）
- グアテマラでの国際地域警察セミナー（サンパウロ州軍警察 C/P）
- グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルの治安担当者のサンパウロ州軍警察訪問

2006 年度

- エルサルバドルでの国際地域警察セミナー（サンパウロ州軍警察から 3 名、長期専門家出席）

2007 年度

- 中米地域国際地域警察セミナー(ホンジュラス)出席（長期専門家）
- リオ・デ・ジャネイロ州地域警察マルチプルカドール養成コース出席（サンパウロ州軍警察官 2 名、長期専門家）
- JBPP（日本ブラジルパートナーシッププログラム）国際地域警察セミナー（サンパウロ）（エルサルバドル、グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラスの治安対策関係者が参加）

派遣専門家および活動項目一覧

氏名	派遣期間	指導項目
徳田 秀輝	2005年1月6日～2006年7月6日	地域警察活動全般（パイロットBCS指導、州軍警察本部方針作成等への助言）
石井 孝	2006年9月16日～2008年3月9日（予定）	地域警察活動全般（パイロットBCS指導、州軍警察本部方針作成等への助言）
市村 和彦	2006年1月6日～2月5日 (1M/M)	モデルサイト選定、州軍警察幹部向けセミナーの実施
出宮 良平	2006年3月14日～4月3日 (0.73M/M)	パイロット交番モニタリング及び指導、州軍警察発出「作戦マトリクス」分析検討
平塚 雅康	2007年2月14日～3月11日 (0.87M/M)	パイロット BCS 訪問指導、勤務員対象のセミナー実施、住民対象地域警察セミナー実施、BCS運用改善に向けての提言
太田 昌志	2007年8月8日～8月29日 (0.73M/M)	パイロットBCSモニタリング、大隊、中隊視察、士官学校・下士官、軍曹教育センター、兵士教育センターでの集中講義、帰国研修員フォローアップセミナー実施

カウンターパート一覧

	氏名	
1	サンパウロ州軍警察大佐	Ailton Araújo Brandão (プロジェクト・マネージャー)
2	サンパウロ州軍警察大佐	José Roberto Martins Marques (前プロジェクト・マネージャー)
3	サンパウロ州軍警察大佐	Antonio Carlos Rodrigues (前プロジェクト・マネージャー)
4	サンパウロ州軍警察中佐	Luiz de Castro Júnior
5	サンパウロ州軍警察少佐	Jackson Justus
6	サンパウロ州軍警察大尉	Robinson Cobral de Oliveila
7	サンパウロ州軍警察大尉	Soraya Correa Alvarez
8	サンパウロ州軍警察中尉	Emerson Massera Ribeiro
9	サンパウロ州軍警察中尉	Ricardo Souza Barreto

本邦研修参加者一覧

2005-I

階級	氏名	所属	期間
Cel PM	José Roberto Martins Marques	EM/PM	26FEB - 12MAR05
Ten Cel PM	José Kiyoshi Taniguchi (Reserva a/c 29/04/2006)	PM-I	26FEB - 12MAR05
Maj PM	Gilberto Lima Santos	3° BPM/M	26FEB - 12MAR05
Maj PM	João Paulo Macedo Brandão Junior	15° BPM/I	26FEB- 12MAR05
Maj PM	Manoel Messias Mello (CSP)	CPI-4	26FEB - 12MAR05
Maj Fem PM	Creusa Marcondes da Silva Parra	4° BPM/M	26FEB - 12MAR05
Ten Cel PM	Israel Pilmon Gitarana Barros	35° BPM/I	26FEB- 12MAR05
Ten Cel PM	Luiz de Castro Júnior	CPC	26FEB - 12MAR05
Cap PM	Júlio César Freitas Parruca	22° BPM/M	26FEB - 12MAR05
Cap PM	Gerson Ferreira da Silva Filho	APMAL	26FEB - 12MAR05

2005-II

Cel PM	Izaul Segalla Júnior	CPA/M-5	14 -28AUG05
Ten Cel PM	Luiz Eduardo Pesce Arruda	2° BPM/M	14 - 28AUG05
Maj PM	Wellington Luiz Dorian Venezian	4° BPM/I	14 - 28AUG05
Cap PM	Gilberto Tardochi da Silva (CÃO)	37° BPM/M	14 - 28AUG05
1° Ten PM	Jesus André Alves	8° BPM/I	14 - 28AUG05
1° Ten PM	Alípio de Lima Rios	APMTJ	14 - 28AUG05
1° Ten PM	Leonardo Akira Takahashi	11° BPM/M	14 - 28AUG05

本邦研修参加者一覧

2° Sgt PM	Marcos Antonio Portela	34° BPM/I	14 - 28AUG05
2° Sgt PM	Elias Borges da Silva	1° BPM/I	14 - 28AUG05
3° Sgt PM	José Antonio de Oliveira	3° BPM/M	14 - 28AUG05
3° Sgt PM	Johmi Guimarães	36° BPM/M	14 - 28AUG05

2006

Cel PM	Arivaldo Sérgio Salgado	CPA/ M-1	23AUG a 09SEP06
Maj PM	Eugênio Pacelli Castro	26°BPM/I	23AUG a 09SEP06
Cap PM	José Roberto de Oliveira	25° BPM/M	23AUG a 09SEP06
2° Ten PM	Ricardo Luis Martins do Rego	23° BPM/M	23AUG a 09SEP06
2° Ten PM	Carlos Cherrmma da Silva	30° BPM/M	23AUG a 09SEP06
1° SGT PM	Ronaldo Militão de Oliveira	32° BPM/M	23AUG a 09SEP06
2° SGT PM	Milton Vieira da Silva	37° BPM/M	23AUG a 09SEP06
3° SGT PM	Mauricio Brites Martins	8° BPM/M	23AUG a 09SEP06
2° SGT PM	Fábio Leal Vanim	38° BPM/I	23AUG a 09SEP06
3° SGT PM	Wilson Jorge dos Santos Alves	13° BPM/M	23AUG a 09SEP06

2007

Cel PM	Luiz Massao Kita	CPA/M-2	05 - 19SEP07
Maj PM	Deufranio Barbosa de Carvalho	22° BPM/M	05 - 19SEP07

本邦研修参加者一覧

Cap PM	Humberto Gouveia Figueredo	13° BPM/I	05 - 19SEP07
1° Ten PM	Emerson Massera Ribeiro	CPC	05 - 19SEP07
2° Ten Fem PM	Eliana Soares Figueiredo	32° BPM/M	05 - 19SEP07
1° SGT PM	Laércio Mariano	2° BPM/M	05 - 19SEP07
1° SGT PM	Gilberto Luiz Barbosa de Souza	9° BPM/I	05 - 19SEP07
3° SGT PM	José Paulo Alves de Lima	12° BPM/M	05 - 19SEP07
2° SGT PM	Moisés da Silva	6° BPM/I	05 - 19SEP07
3° SGT PM	Luiz Carlos Pereira	5° BPM/M	05 - 19SEP07

MATERIAIS CONFECCIONADOS NO PERÍODO DA EXECUÇÃO DO PROJETO POLÍCIA COMUNITÁRIA – PMESP.

プロジェクト成果品一覧

カリキュラム名(日)	Materials Confeccionados	Público Alvo (Nome da Escola e outros)	Objetivo	Conteúdo	Resultado da Realização (Período • N° Concluentes)	Obs.
1 地域警察活動運用基準	Normas para Sistema Operacional de Policiamento PM (NORSOP)	Policiais em Geral	Normas de Procedimento em Geral Sobre Polícia Militar	Regulamento do Sistema Operacional de Policiamento		
2 専門委員会報告書	Relatório do Grupo de Trabalho	Grupo de Trabalho	Avaliar o Projeto, Analisar os Acertos e Erros, Preparar Alterações e Planejar Procedimentos e Encaminhar Sugestões	Avaliação geral		
3 地域警察教養メディア	Capacitação Multimídia Interativa em Polícia Comunitária	Policiais em Geral	Treinamento e Capacitação à distância	Implementação do processo de Polícia comunitária no estado		
4 地域警察マニュアル(運用編)	Cartilha de Policiamento Comunitário (Procedimento Operacional)	Policiais Lotados nas BCS.	Instruir e Aprimorar Procedimentos	Procedimento Operacional	20.000	
5 地域警察マニュアル(部外用)	Cartilha de Policiamento Comunitário	Público Externo em Geral	Divulgação e Esclarecimento Sobre Polícia Comunitária	Apresentação Sobre Polícia Comunitária	30.000	
6 地域警察プロジェクトラジール/日本パンフレット	Projeto Brasil/Japão, Polícia Comunitária 2005/2008	Policiais e Comunidade	Divulgação de Uma Forma Mais Reduzida	Apresentação Sobre Polícia Comunitária	20.000	
7 交番新聞等	Jornal e Informativo das Bases	Policiais e Comunidade	Divulgar as Ações e Atividades da BCS.	Informação e Divulgação das Atividades da BCS		
8 地域警察活動統計表	Atividades Realizadas das Bases no período 04-09 em 2007	Quartel Geral, Batalhões, Companhias e BCS	Análise das Principais Ocorrências e Planejamento	Aplicação na Redução dos Crimes nas Áreas das BCS		
9 犯罪統計	Quadro Comparativo de Indicadores Criminais nas Áreas de Atuação das BCS	Quartel do Comando Geral e BCS	Análise das Principais Ocorrências e Planejamento	Aplicação na Redução dos Crimes nas Áreas das BCS		
10 交番勤務員用カリキュラム	Currículo,EEP Policiamento de Bases Comunitárias 2007/2010	Policiais Lotados nas BCS.	Estágio de Capacitação Específica para o Policial Classificado para Autar	Procedimentos que Serão Desenvolvidos nas BCS.		
11 士官用カリキュラム	Curso de Multiplicador de Polícia Comunitária	Policiais de Nível Superiores	Oficiais Preparados para Divulgar, Difundir, Instruir e Ministrar Novas Técnicas de Polícia Comunitária em todo o Estado.	80Horas/Aula sobre Polícia Comunitária em Geral	3 cursos com 25 oficiais cada	
12 地域警察パンフレット	Cartilha Policiamento Comunitário 2006	Público Interno e Externo	Informação Pública	Apresentação da Polícia Comunitária		

MATERIAIS CONFECCIONADOS NO PERÍODO DA EXECUÇÃO DO PROJETO POLÍCIA COMUNITÁRIA – PMESP.

13	ポケット地域警察基準	Cartilha de Bolso Policia Comunitária 2006	Policiais em Geral	Consulta Rápida Referente ao Código de Conduta	Princípios Básicos Sobre a Utilização da Força e de Armas de Fogo Pelos Policias	30,000	
14	指示書	Nota de Instrução	Policiais em Geral	Base para a Confeccção dos Materiais dos Currículos	Definições de Instalações, Funções e Procedimentos		
15	交番勤務員用カリキュラ	Curso de Promotor de Polícia Comunitária	Policiais em Geral	Difundir e ampliar conhecimentos sobre policia comunitária na fase de integração das policias	40horas/aula	Previsão de 900 policiais	